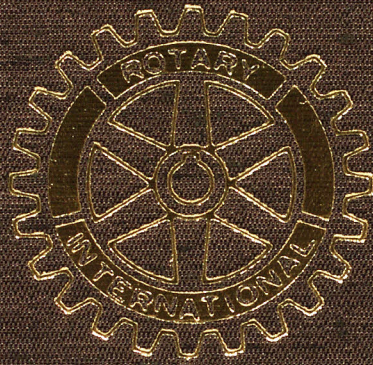
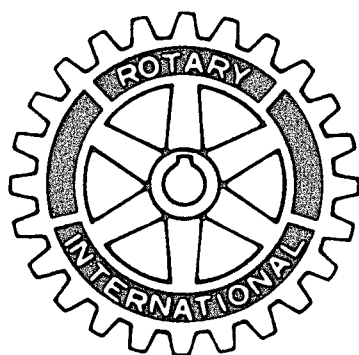


20周年記念誌

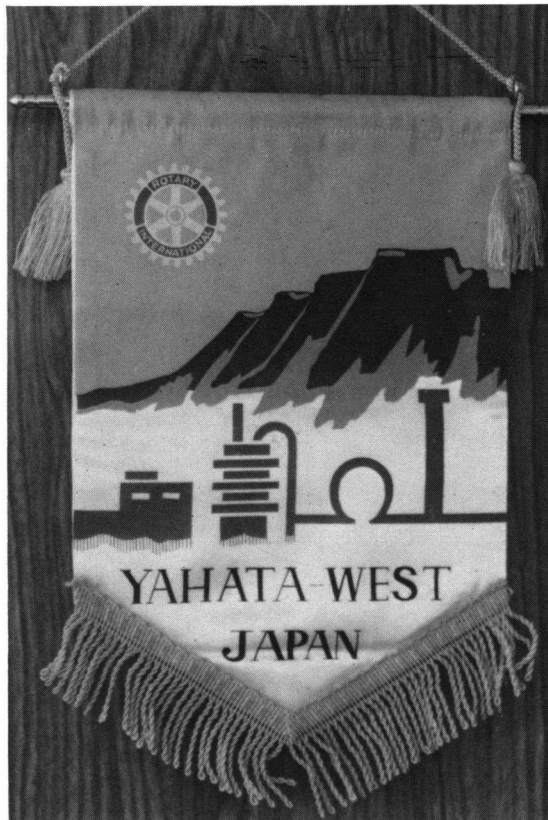
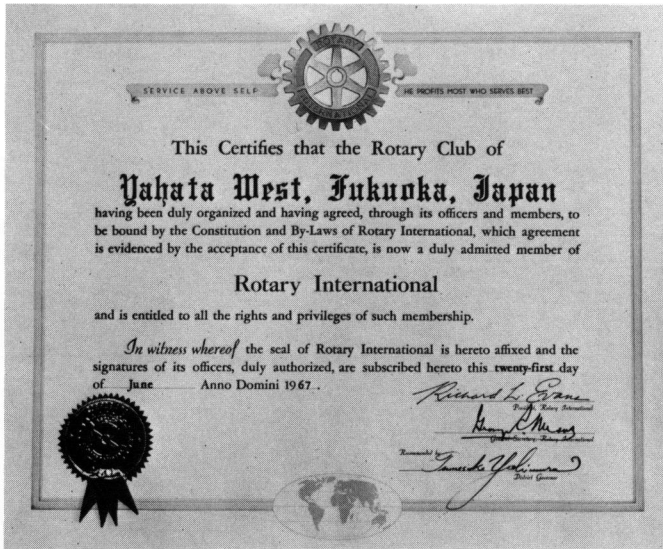


八幡西ロータリークラブ

20周年記念誌



八幡西ロータリークラブ



目 次

- 20周年記念事業…………… 4～16
- クラブ創立関係……………17～31
- 20年のあゆみ……………32～67
- 委員会及同好会……………68～79
- クラブ現況……………80～99
- メモ、写真の頁……………100～105
- ポールハリス・フェロー ……106～110
 其の他
- 編集後記…………… 111

20周年記念事業

- 1) 万葉詩碑全景 5
- 2) 万葉詩碑解説 6～8
- 3) 万葉詩碑除幕式集合写真 9
- 4) 万葉詩碑除幕式スナップ 10
- 5) 万葉の時代 11
- 6) 記念式典式次第 12
- 7) 祝 宴 次 第 12
- 8) 会 長 挨 拶 13
- 9) 実行委員長経過報告 14
- 10) 祝 辞 (第270地区 ガバナー 脇坂順一氏) 15
- 11) 祝 辞 (北九州市長 末吉興一氏) 16

万葉詩碑



全 景 (岡 田 宮)

万葉の歌

大君の

遠のみかど、

あり通ふ

島内を見れば

神代しおもほゆ

柿本朝臣人麿

大王之 遠乃 朝庭跡 蟻通
島門乎 見者 神代之 所念

解説

万葉集 卷第三(通算三〇四首)

大君の遠のみかど 〓 九州大宰府政庁の事

あり通う 〓 常に往来する

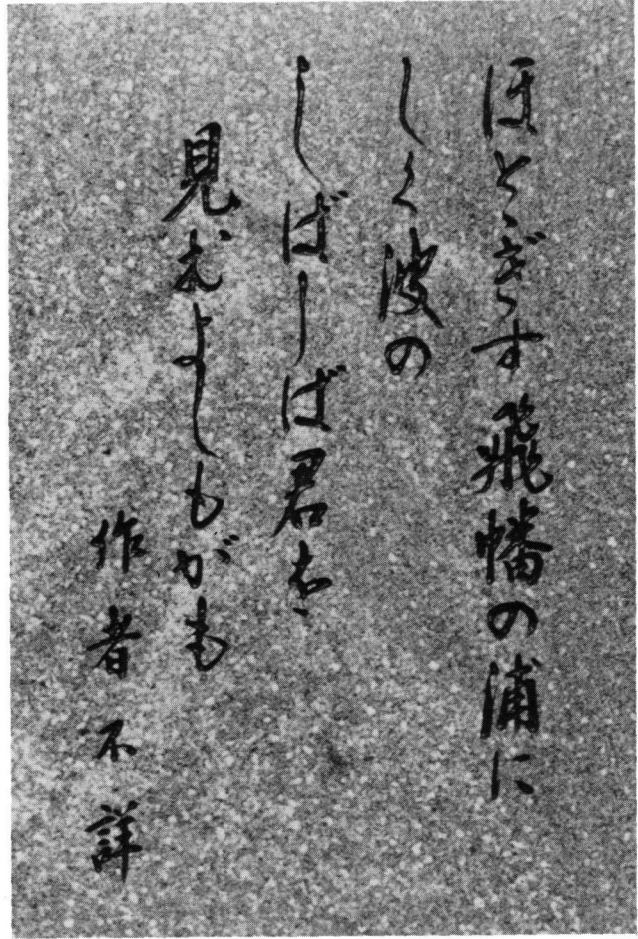
島門 〓 島と島、島と陸との間の瀬戸

遠賀川流域の島門神社附近

一説には瀬戸内海の島々

大意

都から遠く離れた朝廷であるとして、人々が常に往来する瀬戸を見ていると、この島々の生み出された神代の国土創成の頃のことかしのばれる。



霍公鳥 飛幡之浦爾 敷浪之
屢君乎 將見因毛鴨

解説

万葉集 卷第十二(通算三二六五首)

ほととぎす 飛ぶにかゝる枕詞

飛幡の浦 戸畑市

しく波の くりかえし寄せる波のように

大意

戸畑の浦に寄せる波のように

しばしばわが君を見る縁が

あればいゝのに。

天ぎらひ日方吹くらし
水くきの
岡の水門に
波立ちわたる
作者不詳

天霧相 日方吹羅之 水莖之
崗水門爾 波立渡

解説

万葉集 卷第七（通算一二三二首）

天ぎらひ || 空をくもらせて

日方 || 東南の風

水くきの || 岡にかかる枕詞

岡の水門 || 遠賀郡芦屋町遠賀川の河口

大意

空が曇って東南の風が吹くらしい

遠賀川の河口に波が一面に立っている

明日の舟出が少し心配だ

除 幕 式





萬葉の時代

20周年記念事業実行委員長

阿部博明

郷土にゆかりの万葉詩碑を建立するに当り、万葉の時代背景を考えて見ました。

日本の古代文明が花開いた「白鳳天平」の時代と云う事で、良いことづくめの時代であった様な錯覚に陥り易いのですが、詳しく歴史をひもといて見ますと、ちがった一面があった事に気が付きます。

大化の改新の後、白村江の敗戦、壬申の乱と続き、隼人の乱、蝦夷の乱、長屋王の変、北九州ゆかりの藤原広嗣の乱(板楯川の会戦)、恵美押勝の乱とわずか100年程の間に大乱が続き、最後は九州宇佐に関係の深い弓削の道鏡の変を経て、平安時代へとつながります。

その間なんと遷都が15回、女帝が6人も出られました。当時の日本の人口は約600万人、都の人口は25万人位と推定されます。

この様に流動的で激動の時代であった反面、大変な活力溢れる国際化の時代でもありました。世紀の大事業大仏開眼を初め、古事記、日本書紀、風土記、続日本紀編さんと云う様な文化的な偉業がこの時代に集中して達成されました。これも遣唐使による大陸文明の移入が大きく作用したものと思われ

ます。この様な時代背景のもとで生まれた万葉集の特色は、天皇から一庶民にいたるまで、真実の感動を飾り気なく歌いあげた、格調高い、健康的な、又一面おおらかな歌に満ちています。

奈良の都と大宰府、大陸との関連でこの地「筑紫の国」は万葉集の中に随所に出て参りますが、今回は洞ツキの海(洞海湾)周辺の郷土の歌三首を選ばせて頂きました。

八幡西ロータリークラブ 創立20周年記念式典式次第

◎日 時 昭和62年4月24日(金)・17:00～17:40

◎場 所 千草ホテル《松風の間》

司会 山崎 晋良

1. 点 鐘
2. 開 会 の こ と ば 幹事 伊豆統一郎
3. 国 歌 斉 唱
4. ロ ー タ リ ー ソ ン グ 『喜び分つ、』
5. 来 賓 紹 介 会長 中村 一生
6. 参 加 ク ラ ブ 紹 介 会長 中村 一生
7. 会 長 挨 拶 会長 中村 一生
8. 物 故 者 へ の 黙 禱
9. 記 念 事 業 経 過 報 告 実行委員長 阿部 博明
10. 記 念 事 業 目 録 進 呈 実行委員長 阿部 博明
11. 記 念 事 業 感 謝 状 贈 呈 実行委員長 阿部 博明
12. 来 賓 祝 辞
13. 祝 電 披 露
14. 閉 会 の こ と ば 実行副委員長 八木下和郎
15. 点 鐘

————— 【 休 憩 】 —————

20分

祝 宴 祝 宴 次 第

■ 18:00～20:00 《光琳の間》

司会 池田 正雄

1. 北九州アカデミー少年少女合唱団
2. 開 宴 の こ と ば 実行委員長 阿部 博明
3. 乾 杯 北九州商工会議所会頭 安川 寛
4. 祝 儀 舞 伊豆統一郎会員ご夫人
5. ス ラ イ ド 上 映 萬葉詩碑除幕式
6. ア ト ラ ク シ ョ ン 木屋瀬宿場踊り保存会
7. ロ ー タ リ ー ソ ン グ 『手に手つないで、』
8. 万 歳 三 唱 ガバナーノミニー 吉田 茂雄
9. 閉 宴 の こ と ば 会長 中村 一生



あいさつ

八幡西ロータリークラブ
会長 中村 一生

本日こゝにRI 270地区ガバナー協坂順一様、北九州市長末吉興一様始め多数の御来賓の皆様方の御臨席を賜はり我々八幡西ロータリークラブ創立20周年記念式典を挙行出来ますことを無上の光栄に存じますと共に、クラブ会員一同にとって誠に慶びに堪えない次第であります。

顧みますと我々のクラブは1967年6月2日、八幡ロータリークラブをスポンサークラブとして29名のチャーターメンバーを以て、元RI会長向笠広次様のガバナー御在任中、270地区内20番目のクラブとして発会、創立を致しました。

以来、歴代の先輩会員はロータリーの奉仕の理想の灯を継承し、クラブ内の充実、外部拡大に向け営々努力し、発展に寄与して参りました。即ち1969年6月13日には遠賀ロータリークラブを、1977年1月13日には八幡南ロータリークラブのスポンサークラブとして夫々創立に協力、その誕生を見ました。各クラブが個性あるクラブとして発展を遂げて居りますことに心から敬意を表します。又、区内青山女子高等学校当局の御理解と御協力により、インターアクトクラブを1983年9月16日結成し、諸般の奉仕活動に積極的に取組んでおられることを誇りに思っております。

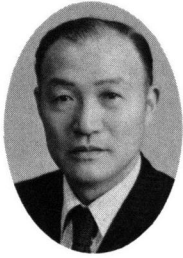
扱て我々は先輩会員の築かれた輝かしい歴史の上にささやかではありますが20周年記念事業を企画し、実行して節目としての一頁に加えること、致しました。

1. 萬葉の歌碑の建立（八幡西区 岡田宮境内）
2. 20周年記念誌の発刊
3. 20周年記念式典及び祝賀会の開催

以上の三つであります。

然し乍ら20周年は我々にとって一つの節目ではありますが、又新たなロータリーの発展・飛躍の為のステップでもなければなりません。更に会員相互の親睦を深め、変化する社会のニーズを探求し、地域社会の為、微力を奉仕の実践に盡して参りたいと存じます。

今後共皆様方の暖かい御指導と御鞭撻を切にお願い申し上げます。



20周年記念事業経過報告

20周年記念事業

実行委員長 阿部 博明

1) 準備委員会発足

S.60.7.12 初会合 中村、阿部、貫、村上、八木下、岩野、村田 各委員

2) 数回の会合を重ね、次の様な「基本的考え方」で臨む事で合議する

- イ) 記念事業は全員参加で盛上げる ロ) 20年間の「クラブ」の歩みを記録に残す
- ハ) 当クラブの特色の一つである「史蹟保存委員会」の目的に副った事業を考える
- ニ) クラブ全員の意見を良く聞く ホ) あまり派手な事はしない

3) アンケート調査 準備委員会で百を越す提案を出し合ったが、そのうち実行可能と思われる七つの案に絞って調査を行う S.60.11.8

- イ) 20周年記念誌の発行 ロ) 著名人の記念講演会 ハ) 万葉詩碑の建立 ニ) パーティ
- ホ) 身障者への車椅子の寄贈 ヘ) 新設の西警察署への寄贈 ト) チャリティバザール

4) F.S.Mの実施 数班に分かれて自由な意見を聞く

5) 準備委員会の答申 F.S.Mの意見、アンケートの結果を参考にして上記七項目のうち(イ)(ハ)(ニ)(ヘ)の四案を理事会に答申、承認

6) 準備委員会解散

7) 実行委員会発足 委員会構成は別紙

8) 本部及委員長会議 概略予算の検討、式典・パーティの日・時決定

9) 各委員会別の会合

10) 万葉詩碑委員会

- 場所 —— 西区の岡田宮境内に決定 詩 —— 郷土の詩三つに決定
- デザイン —— 2枚折り屏風形式に決定 書 —— 会員の栗原瑞雲氏に依頼
- 予算 —— 許すかぎり立派なものにする

11) 本部及委員長会議 S.61.10.31

予算の再検討(見積書の検討) 万葉詩碑の構想承認

12) 各委員会別会合 S.61.11 ~ S.62.4

13) 詩碑起工式 S.62.2.20

14) 詩碑落成、除幕式 S.62.3.13

15) 20周年記念式典 S.62.4.24



祝 辞

第270地区ガバナー

脇 坂 順 一

この度、八幡西ロータリークラブが目出度く創立満20周年を迎えられましたことを心から御祝い且つ御慶び申し上げます。

貴クラブは昭和42年6月2日、八幡ロータリークラブがスポンサークラブとなって創立された地区内55クラブ中20番目に誕生したクラブでございます。20番目と20周年、二重に御めでたが重なります。貴クラブは創立以来会員相互の親睦も厚く、多岐に亘る奉仕の実践を積み重ねて来られましたことに対し深甚の敬意を表します。

先ず創立10周年記念として昭和52年1月には八幡南クラブをスポンサークラブとなって創立されましたが、これは輝かしい実績と申せましょう。そして15周年には青山女子高校にインターアクトクラブを提唱し、重度の老人ホーム慰問や使用済み切手収集の協力などを呼びかけて立派な成果を挙げておられます。このように次の時代を担う青少年にロータリーの精神を鼓吹することは立派な育成につながると存じ、御同慶の至りです。

社会奉仕面では、地域内の老人ホーム対抗ゲートボール大会を主催されたり、又、「史跡保存委員会」なるものを創られ、筑前六宿や万葉詩碑その他の郷土史跡の保護と共に、これらの史跡に対し地域の方々が関心を深めることに意を用いておられますが、これらのことは他のクラブには見られぬ誠にユニークな御奉仕でございます。

国際奉仕面でも使用済み切手収集には全員参加で積極的に取組んでおられ、収集箱を公の場所に設置して実績を挙げ、このことが新聞にも度々報道されるなど素晴らしいことでございます。

満20周年と申しますと、人間では成人式でございます。武家時代では成人になったしるしとして髷を結って髪型を変え、幼名を改め、大人の着物を着たと云われています。いわゆる「元服」でございます。貴クラブも20周年を大きな節目に、「元服」の心に立ち戻って決意を新たにし、立派な伝統と堅い親睦の輪を守って、地域社会のために一層の御奉仕をして下さいますよう念願致します。

貴クラブの益々の御発展と、会員皆様様の益々の御健勝と御健闘をひたすら祈りつつ御祝辞と致します。



祝 辞

北九州市長

末 吉 興 一

八幡西ロータリークラブ創立20周年を、心からお祝い申し上げます。

貴クラブは、発足以来今日まで、平和を願い、人びとのよりよい幸せをめざして、不断に活動してこられました。

とくに、心身障害者の方がたや年長者の福祉向上、青少年の健全育成、交通事故防止などのために、熱心に尽力してこられました。また、帆柱山自然公園の開発計画をたて、ちく次桜の植樹を行うなど、地域の景観および市民生活環境の向上に力を尽してこられました。市民とともにあつく御礼申し上げます。

複雑で変動してやまない現代社会の中であって、貴クラブの皆様がよくロータリーの奉仕精神に則り、きびしく自らを律しつつ行動しておられることは、市民にとり大きな心のより所であるとともに、福祉・文化の充実した、住みやすいまちを造りあげようとするわが市にとって、まことに頼もしい援護の戦列と申せましょう。

わが北九州市は、21世紀に向って、市民がみんな健康で、住みやすいまちを創りあげ、活力がみなぎるよう念願しております。市民と手を取り合って当市にルネッサンスを起そうと思っています。

その中で国際化は重要な課題であり、そのための方策についても、種々検討し、実行していかなければなりません。この国際化については、貴会は全世界のロータリアンと、つねに堅く腕を組みつつ前進しておられ、国際化の尖兵でもあります。

どうか、この記念すべき貴クラブ創立20周年を迎えて、会員の皆様がますます御健勝で、ロータリーの旗の下に御活躍下さいますよう、お祈り申し上げます。

ク ラ ブ 創 立 関 係

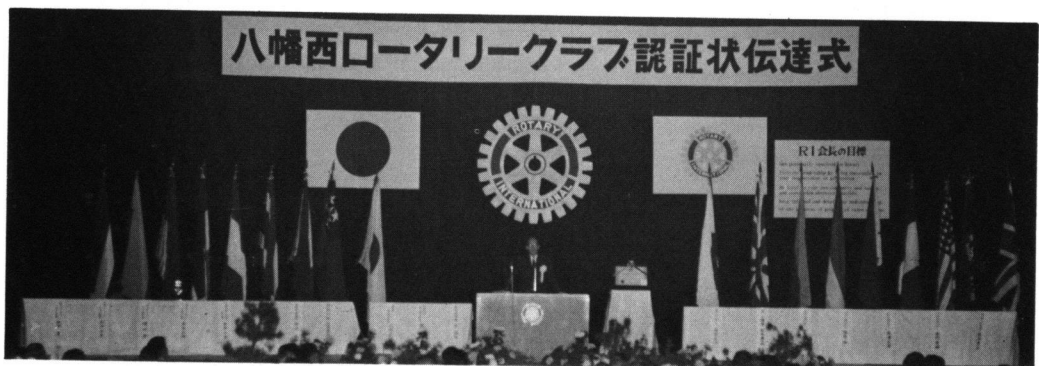
- 1) 八幡西ロータリークラブ創立関係……………18～25
- 2) 遠賀クラブ設立関係……………26～27
- 3) インターシティゼネラルフォーラム関係……………28
- 4) 八幡南ロータリークラブ設立関係……………29～31

八幡西ロータリークラブ創立総会

昭和42年6月2日; 1967. 6. 2

開 会 12:30
点 鐘
国 歌 斉 唱
ロータリーソング 奉仕の理想
来 賓 紹 介 会員30名、 出席24名

1. 特別代表の創立経過報告 要旨別掲 八幡R.C 花田特別代表
2. 定款細則の承認 八幡R.C 井上特別代表補佐
3. 役員の指名 理事及各委員長決定
4. 成立の宣告 八幡R.C 花田代表
5. 創立会員の紹介
6. 八幡西仮R.C会長の挨拶 八幡西(仮)R.C 桑原会長
7. スポンサークラブ会長挨拶 八幡R.C 広沢会長
8. 分区代理挨拶 正野分区代理
9. 近隣クラブ会長祝辞 小倉R.C 安部会長
10. 祝電披露



あ い さ つ

八幡西(仮) R.C 会長
桑 原 英 雄

ロータリーの拡大で、八幡 R.C をスポンサークラブとして、八幡西クラブが誕生いたしました。仮クラブで発足し、R.I より認証されて正式のクラブとなるわけではありますが、はからずも私が初代の会長に指名されました。

おろかものの私に、その責務がつとまるかと不安ですが、私は私なりに努力してみるつもりです。よろしくご協力のほどをお願い申し上げます。

すでに、ご承知の通り、ロータリーは長い間ねりにねり上げられた標準定款、クラブ細則があり、全世界 13,000 の各 R.C はこれによって運営されています。当クラブも、当然それに基づいて、進められねばなりません。当仮クラブは発足早々でありますので先日の理事会で協議した結果、方針と言いますか、重点を

「親睦を深めましょう」

にきめました。

ロータリーは他人に対する思いやりと、助力を奉仕の理想としています。奉仕も会員相互の親睦と友愛の基盤の上にたつものでなければなりません。それで初年度は、先づ会員相互の親睦を深め友愛を拓めることにいたしました。

広く奉仕するためには、知り合いを拓げ、それによって奉仕の機会を多く持つことが大切であります。

お互によく知り合うためにはお互いの職業や業界を理解することも奉仕活動を進めながら親しみを増すこと、それから親睦会などで大いに語り合う機会も必要かと存じます。

それで毎週の例会は、明るく朗らかな、しかも節度のある楽しいミーティングにしたいと思えます。これは言うに易く、行うにむづかしいことではありますが、発足時で皆様のご希望が強いので、何かと出来そうな気がいたします。如何でしょうか。

各委員会に兼務が多いことも、かえってお互に親しみ助け合って、委員会活動を進めるに好都合かと存じます。ファイヤーサイドミーティング(炉辺会合)も早く計画実施したいものです。

ロータリーは、奉仕のみの、或は親睦のみの団体ではありません。バランスが大切とされています。当クラブも、親睦・友愛をもとにして、奉仕活動を進め少しづつ成長したいものであります。よろしくお願い申し上げます。

祝 辞

分区代理 正野 寛之助

まことにおめでとうございます。実は或いは承認状が来ているのではないかと、心中ひそかに期待してお伺いしましたところ、今日は花田さんもおみえになっているし、さてはと心躍らせていた次第でございます。まことにおめでとうございます。

何んと申しまして、この承認が出る迄は例えば子供が生まれましても、人格も人権もあるにせよ、登記が完了する迄は日本人やら、アメリカ人やら、名前すら決定的とは申されません。只今6月21日に承認されたとの御報告を承りましたが、チャーターの到着は確認の証にすぎませんので後日でよいわけで、この日が確定日であります。今日はビールでもさげてお祝に来ればよかったと思っている次第ですおよろこびにも一つのことを申し添えます。私達のクラブ小倉東R.Cは結成書類を提出して、たしか26日目に承認されました。その節、久保田ガバナーよりこんな短時日に承認されたのは当地区内のレコードだとおほめを戴きました。何んでもないことかも知れませんが、物事がパーフェクトに運ぶと言うことは大きな誇りだと思っています。

御クラブは第一回例会の6月2日より致しますと19日目です。これは恐らく他地区は知りませんが当370地区においては最短日時の新記録と思います。この新記録には多くの優秀な素因が含まれています。花田特別代表の手落ちのない御見事なお手前最高の資格を備えられている会員の皆様、地域その他も100%完ペキです。よくあることですが地域の限界がどうの、会員の職業分類がどうのと、一度でも、文書の往復があると、こうした新記録は出ないのです。あるクラブの如きは半年以上もかかった実例も存じています。

まことにおめでたい健康優良児の御生誕を御祝福申し上げる次第で、今後の御発展をお祈りして、およろこび申し上げます。

所 感

親睦委員長 八木下 俊 三

花田特別代表を始め桑原初代会長並びに他の皆様方の献身的なおはたらきや、地元のお歴々の方々の入会を得て八幡西クラブがめでたく誕生しました事は御同慶にたえません。

その上、先週の例会の席でR.Iから正式承認の吉報を受け、重なる喜びをかみしめ乍ら実は土曜日の午後から一泊の予定で長門路に釣(川釣)に出掛けました。

夕刻宿に着くなり早々、高島会報委員長から親睦委員に関する投稿を命じられた事を知り周章狼狽その局に達した次第です。何故ならば私は筆不精で、その上不断から不勉強なので文字を書く時はゴルフ場かホテルのフロントでサインをする以外殆んど筆を持つ事はありません。しかも突然なので何を書いてよいやら皆目見当もつかない様な訳で、次回迄には精々勉強して置く事で御勘弁を願うとうございます。まだ委員会も致しておりませんが、近々委員の皆様方と計って親睦委員の使命が果せませう様一生懸命努力して行く考えなので皆様宜しくお願い致します。

最後に、当クラブ結成に対して私は兎角不在勝な為、なんのお役にも立たなかった事を皆様に深くお詫を申し上げますと共に、大いに反省している次第でございます。

設立経過報告

特別代表

花田盛太郎

今日の記念すべき八幡西ロータリークラブの結成式に際しまして、これが産婆役としての立場から、簡単にお祝いと御挨拶を申し述べます。

御承知の通り、ロータリークラブでは1905年の2月23日シカゴの青年弁護士であるポール・ハリスが同志三人と語らって、第一回の会合を開いたことから発足したのであります。

当時の米国各地では不安、不潔、不徳義が横行して殊に青少年の顔癩眼に余るものがあったのでこれが指導啓蒙に力をつくしたいという念願から率先、同志四人が活動を始めたのでした。それから60年、今日では全世界の内134ヶ国、61万人に垂んとするロータリアンを擁するに至りました。

我が国に於ても今や780のクラブと37000人の会員を突破するに至りました。このように駁々として、全世界に波及しておるのは、その目的が、奉仕の理想をかゝげ、各人の友愛を拓め、地域社会の福祉の発展に寄与せんとする精神が、世界の人々の共感を強くふり起こさせたものと思われれます。

常に、エクステンションして止まないのがロータリーの現状であります。

八幡ロータリークラブが発足して今年で11年になりますが、本地区の現状から見て、新クラブを結成してはどうかという気持が次第に高まり、昨年9月、新クラブ結成の拡大委員会が設けられ、不肖私とその委員長を命ぜられました。然し、私は昨年1月、突然大病に冒され、半年間の入院治療の後自宅に帰ってからも、まだ引続いて静養をしておるので、切にその変更方を申し入れましたが結局、ロータリアンの責任上これを受けざるを得ませんでした。

超えて10月、吉村ガバナーから正式に特別代表を命ぜられ、心中誠に困惑をいたしました但其の間も拡大委員の方々は屢々協議をされ漸く、12月13日に至って八幡クラブに於ては新クラブを結成することの決議並に地域の割譲の決議が行われました。

その新旧地域の区別はこゝに色別けで地図に示してある通り旧黒崎地区以西となりました。一方、移籍すべき地域の会員有志による会合も数回行われ拡大委員の井上、吉田、桑原、神岡、入江、菅原及び和田幹事の諸氏によって種々の下調査が進められました。

超えて、私は、健康の関係を考慮してガバナーに対して特別代表補佐として井上、神岡両氏の任命を申請して、本年3月、正式の委任を受けることが出来ましたことは私にとり誠に幸いでありました。

私の健康もお陰で3月以降漸く常態に服し、こゝに一切の具体的調査と、及びガバナーを通じて

書類の提出等に全力を尽くすことが出来ました。

元来、アディショナルクラブの結成については国際ロータリー細則第1条第1節に規定があり、既存の市・区内に2つ以上の確然たる商業の中心地があることが必要であり、これを如何に具体的に表現するかに可成り苦心をしました。

そのため新地域には現在の中央区の中心地以外に新地域の中心である黒崎が旧幕時代より既に黒田藩の城下町並に宿場町として栄え、明治の中頃一寒村の枝光地区に八幡製鉄が設置されて、その中心地が東部に集中したが、戦後、黒崎以西の地域が急速に膨張し、今日では人口も全地区の3分の2(約20万人)に達し、官庁、銀行、諸会社、工場が蝟集してその職業分類の数も122種を数え所謂黒崎銀座を形成するに至っています。更にその背後には折尾、香月、木屋瀬地区が古くから栄えていました。

これらの点について、特別代表の意見書として詳細に具申したところ、吉村ガバナーよりR Iの通過は確実だから直ちに仮クラブの結成に進むようのお奨めを得ました。我々は勇躍して新会員の選定を急ぎ、これには三人の正・副特別代表と五人のキーメン、(加瀬、桑原、宮原、和田、長野)の諸氏と力を合せて、慎重に理想的新メンバーを十人外に二人の追加者を得ました。

会員の人選が将来のクラブの伸展に大いなる影響のあることを痛感していましたので、新に細心の注意を以て臨んだのでありました。あとで御紹介申し上げますが、新会員の皆様は、明らかに地域社会に於けるロータリアンとして、最適任者であることを確信して、御推薦出来たことを、誠に御同慶に思います。

新クラブに必要な備品も既に完備いたしましたし、八幡クラブからの移籍メンバーが20名いられますのでチャーターメンバーが丁度30人になり、全ての役員も亦慎重に考慮を重ねて御指名する運びになりましたので、私は今この盛観を前にして今更のようにホッと一息した感じでいっぱいあります。

一時は、流産するのではないかと、おそれたこともあります。かくも短日時に一応の誕生日を迎えることが出来たことは、特別代表補佐の御二方を始めキーメンの五人の方、更に、スポンサークラブの広沢会長や旧会員の皆様方的一方ならぬ御助力の賜であります。特に、和田幹事には終始下調査や書類の作成、その他万般について多大の御配慮を得ましたことを特に御報告して、改めて皆様方に深く感謝の意を表する次第でございます。

最後に新クラブとは云いまして、この八幡西ロータリークラブは、八幡クラブから20名のベテラン会員が移籍されたことでもありますので、今後の運営発展は期して待つべきものと確信して今日の誕生日を心からお祝い申し上げます。

最後に小倉西クラブの正野分区代理及び小倉クラブ会長安部氏にいろいろと御助言を頂きました事を厚く御礼申し上げます。

八幡西R.C 創立前の思い出

八幡西R.C初代幹事

和田正吉

八幡西部の黒崎方面は新工業都市として大きくクローズアップされ、また商業取引の新中心地として脚光を浴び、アディショナルクラブの必要に迫られた。

八幡R.Cでは1966～67年度の主要目標として、この問題と取組むことになり1961年8月、拡大特別委員会が設置せられた。同じく10月には花田盛太郎君が国際ロータリー第370地区ガバナーにより、特別代表に委嘱せられた。

早速、拡大特別委員会と会合を重ね、当該地域の調査を開始した。

- ① 地域限界の割譲については、将来八幡西区が新設されることを見越して、「北九州市八幡区のうち、前田町・桃園町・祇園町及び花尾町の西境界線の西側の部分、但し花尾山以南に於ては花尾山頂と金剛山を結ぶ線の西側の部分」というややこしい表現になったがR.Iの規則を満たすためには仕方なかった。ガバナー吉村常助君と松本兼二郎君の指導によった。
- ② キーマンには、加瀬康作、宮原林、桑原英雄、和田正吉、長野義夫の五君が選ばれた。
- ③ 特別代表補佐として、神岡林、井上俊次両君が委嘱された。
- ④ 地区限界の割譲決議にともない、事業所が新地域に属する会員は八幡R.Cよりの移籍が望ましいことは勿論であるが、八幡R.Cに留任権利もまた尊重された。
- ⑤ 松本兼二郎君については、R.Iの理事に推選立候補せられるに当り八幡R.Cに留まるべきだとの吉村ガバナーの要請があった。
- ⑥ 新クラブの呼称については、八幡西R.C・黒崎R.Cの2案が審議され、熱心な討議がなされたが結局「八幡西R.C」と決定。
- ⑦ 初代会長は桑原英雄、以下理事役員が選出された。
- ⑧ 例会日は毎週金曜日とし、例会場は菅原ビル6F。

第1回例会は創立総会を兼ねて1967年6月2日金曜日に開かれた。

R.Iによる認証は同年6月22日。

認証状伝達式は、同年11月5日、安川体育館にて盛大に挙行された。アトラクションとして会員になっていない加瀬康一君指揮する黒崎祇園太鼓が披露された。

1974年8月2日、八幡R.Cの地域限界は「北九州市の八幡西区全域」として許可された。

設立時クラブ会員名簿

	姓 名	職 業 分 類	勤 務 先 及 役 名	住 所
	秋 吉 三 郎	化 学 技 術	帝人(株) 顧問	八幡区穴生町2丁目 ⑥3 0 6 4 8
★	舟 木 軍 一	火 薬 製 造	日本火工品(株) 社長 八幡区折尾町1528 ⑥9 0 0 0 2	同 左
★	早 間 一 雄	百 貨 店	(株)井筒屋 八幡支店長 八幡区黒崎町20 ⑥3 0 1 3 1	小倉区富野百合ヶ丘54 ⑥3 2 1 6 1
★	早 岡 一 二 三	通 運	日本通運(株) 八幡支店長 八幡区熊手下の田406 ⑥2 0 4 6 1	八幡区穴生1丁目 ⑥3 5 0 4 5
★	早 崎 喜 市 郎	シニヤアアクチブ (伸鉄製造)	早崎製鋼(株) 前会長	八幡区油田町2 ⑥7 3 6 9 2
	林 規	工 業 製 品 製 造	三菱化成工業(株) 黒崎工場長 八幡区藤田2447 ⑥2 0 2 5 1	八幡区東曲里町3 ⑥2 0 0 4 4
★	繁 沢 貞 行	為 替 銀 行	山口銀行 八幡支店長 八幡区黒崎町1 ⑥2 3 6 3 1	八幡区前田町2丁目 ⑥7 3 3 7 0
	井 上 博 厚	仏 教	浄土真宗光円寺 住職 八幡区黒崎舟町1 ⑥2 6 9 1 5	同 左
	井 沢 啓 二	貨物自動車輸送	山九運輸機工(株) 北九州西支店長 八幡区黒崎町4 ⑥2 3 9 3 5	若松区波打町10 ⑦6 2 3 7 9
★	岩 城 義 郎	鋳 鋼 製 造	西部興業(株) 八幡鋳鋼所社長 八幡区築地町28 ⑥2 2 3 6 1	小倉区下到津1丁目 ⑥6 0 9 0 2
	岩 田 正 昭	電 気 絶 縁 物 配 布	日本電気絶縁材料(株) 社長 八幡区築地町24 ⑥3 1 7 3 5	八幡区穴生公園住宅225
	金 子 義 数	信 用 金 庫	北九州八幡信用金庫 黒崎支店長 八幡区黒崎町1 ⑥2 2 5 6 6	八幡区松尾町2丁目
★	加 瀬 康 作	衣 料 小 売	(株)加瀬商会 社長 八幡区黒崎町1番街 ⑥2 2 8 7 8	八幡区神原町1 ⑥2 6 6 1 7
★	桑 原 英 雄	電 気 機 械 製 造	(株)桑原電機製作所 社長 八幡区築地町2 ⑥2 6 7 3 1	八幡区穴生相生町1 ⑥2 1 0 0 2
★	増 田 孝	私 立 学 校	折尾女子学園 園長 八幡区折尾町 ⑥9 0 0 6 1	同 左
★	宮 原 林	耳 鼻 咽 喉 科 医	宮原医院 院長 八幡区折尾449 ⑥9 0 2 4 0	同 左
	森 本 卓	保 險 ・ 生 命	明治生命保険(相互) 八幡支社長 八幡区黒崎町38 ⑥3 1 8 8 6	小倉区富野山手通20 ⑥2 0 0 6 6
★	長 野 義 夫	医 薬 品 販 売	長野薬局 店長 八幡区陣原375 ⑥9 0 5 8 7	同 左
★	岡 崎 春 雄	請 負 業	岡崎工業(株) 社長 八幡区築地町2 ⑥2 5 3 3 1	八幡区宮の町3 ⑥7 0 7 8 9
★	屈 将 夫	眼 科 医	さつか眼科医院 院長 八幡区穴生草場860 ⑥2 6 7 2 3	同 左
★	末 松 茂 実	石 灰 石 採 掘	(株)末松商店 社長 八幡区田町1 ⑥2 1 0 6 1	同 左 ⑥2 0 0 0 3
★	菅 原 了	ビルディング管理	菅原産業(株) 副社長 八幡区藤田2216 ⑥2 6 6 3 6	八幡区八千代町34 ⑥3 2 4 4 9
	高 島 守 義	玉 突 及 ボーリング	(株)黒崎ボーリングセンター 専務 八幡区藤田2340 ⑥3 5 5 7 5	八幡区八千代町中2丁目 ⑥2 7 2 8 1
★	田 中 善 一	酒 類 販 売	(株)田中屋 専務 八幡区穴生新街819 ⑥2 0 7 3 1	同 左
★	田 代 芳 鉄	歯 科 医	田代歯科医院 院長 八幡区西通り町5 ⑥2 5 2 8 7	八幡区神原町東1丁目 ⑥2 4 8 2 3
	塚 本 俊 明	病 院	九州厚生年金病院 副院長 八幡区岸の浦2 ⑥2 1 0 3 1	八幡区鳴水町51 ⑥2 6 5 7 8
★	和 田 正 吉	電 気 機 械 販 売	和田電機工業所 社長 八幡区折尾則松 ⑥9 1 8 3 5	八幡区南陣山3 ⑥7 6 5 4 5
★	八 木 下 俊 三	食 肉 加 工	(株)八木下ハム製造所 社長 八幡区筒井通2 ⑥3 0 8 6 1	同 左
★	安 川 寛	電 動 機 製 造	(株)安川電機製作所 社長 八幡区藤田町2346 ⑥2 0 4 8 1	戸畑区中原1072 ⑥7 2 0 0 1

★印の方は八幡RCよりの移籍会員

認 証 状 伝 達 式

1967. 11. 05
伝達式スケジュール 10:00~11:50 於 安川体育館

1000	30	登 録	1119	15	来賓祝辞
1030	1	点鐘 開式のことば		5	北九州市長 谷 伍 平
1031	2	1 国歌斉唱	1124	5	北九州商工会議所会頭 鮎川 武雄
1033	2	2 ロータリーソング(奉仕の理想)	1129	5	R I 理事 松本兼二郎
1035	3	3 歓迎のことば 特別代表 花田盛太郎	1134	5	直前ガバナー 吉村 常助
1038	1	4 ガバナー紹介	1139	3	16 記念品贈呈 会 長 桑原 英雄
1039	1	5 R I 理事紹介	1142	2	17 祝電披露 幹 事 和田 正吉
1040	2	6 来賓紹介	1144	2	18 ロータリーソング(我等の生業)
1042	5	7 来訪クラブ紹介	1146	3	19 閉式のことば 副会長 増田 孝
1047	7	8 設立経過報告	1149		点 鐘
1054	1	9 新クラブ会長紹介			
1055	2	10 認証状伝達 ガバナー 向笠 広次	1150	50	休憩 食事
1057	5	11 ガバナーあいさつ	1240	5	コーラス 折尾女子学園合唱隊
1102	5	12 会長あいさつ 会 長 桑原 英雄	1245	45	記念講演 R I 理事 松本兼二郎
1107	10	13 八幡西ロータリークラブ会員紹介	1330	5	コーラス 折尾女子学園合唱隊
1117	2	14 スポンサークラブより祝品贈呈 八幡RC会長田中子玉			
			1345	120	市内観光 河内貯水池、皿倉山、ボウリング

披露宴スケジュール (八幡R.Cよりのチャーターメンバー29名)

1600	1	1 開宴のことば 接待委員長 加瀬 康作	1652	5	C 黒崎祇園太鼓 黒崎祇園太鼓保存会
1601	2	2 ロータリーソング(それこそロータリー)	1647	65	6 祝 宴
1603	5	3 参加クラブ代表祝辞	1752	2	7 万才三唱 分区代理 佐藤 猛
1608	1	4 乾 杯	1754	2	8 ロータリーソング(手に手つないで)
1609	15	5 演芸A 舞踊踊 藤間政豊ほか	1756	2	9 閉宴のことば 食事委員長 宮原 林
1644	18	B 宿場おどり 木屋瀬町有志	1758	2	10 螢 の 光

遠賀ロータリークラブ設立

八幡西R.Cは昭和45年4月；1970. 八幡西部地区と水巻町、遠賀町、芦屋町、中間市を地域限界とする遠賀R.CをR.Iに申請し、同年6月13日、R.Iから許可があった。

遠賀ロータリークラブ認証状伝達式

昭和45年11月15日；1970. 11. 15 13:30

於 芦屋町民会館大ホール

特別代表 桑 原 英 雄
〃 補佐 宮 原 林
〃 補佐 和 田 正 吉

1. 開 会
2. 点 鐘
3. ロータリーソング
4. 歓迎のことば 特別代表 桑 原 英 雄
6. 設立経過報告紹介 〃
7. 新クラブ会長紹介 〃
7. 新クラブ会長紹介
8. 認証状伝達 地区ガバナー 末 永 直 行
9. 遠賀ロータリークラブ会員紹介 遠 賀 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ 会 長
10. 来 賓 祝 辞
富 永 パ ス ト ガ ナ ー
児 玉 パ ス ト ガ ナ ー
中 牟 田 パ ス ト ガ ナ ー
そ の 他
11. 祝 電 披 露
12. 閉 会

来 賓 富永、児玉、中牟田各パストガバナー、ロータリアン208名、内、八幡西R.Cの28名と八幡西R.Cと遠賀R.C会員夫人多数が出席した。

設立経過報告

特別代表

桑原英雄

ガバナーよりの勸奨にもとづき、地域限界を八幡西R.C個有地の、水巻町、遠賀町、芦屋町、中間市として1969年4月2日R.Iに申請をし、同年6月13日に許可になった。

そのため、青柳君、古賀君を八幡西R.Cに会員に迎え入れ、特別代表・桑原英雄、同補佐に宮原林、和田正吉君が就任した。

その後、地域限界を設立後に遠賀R.Cに譲渡する許可を得て、創立総会を迎えた。



インターシティゼネラルフォーラム

1974～1975年度 第370地区 福岡東地区(第1分区,第2分区)

第370地区ガバナー	蟻川五二郎
カウンセラー	末永直行
第1部門リーダー	安部泰(小倉)
〃 副リーダー	加瀬康作(八幡西)
第2部門リーダー	西尾守(若松)
〃 副リーダー	高島守義(八幡西)
地区幹事	多川博
ガバナー事務局長	瓜生直雄

登録開始

点鐘開会宣言

国歌斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

歓迎のことば (ホストクラブ会長)

ガバナー紹介 (〃)

パストガバナー紹介 (ガバナー)

ガバナーノミニ紹介 (〃)

カウンセラー紹介 (〃)

フォーラムリーダー紹介 (〃)

フォーラム副リーダー紹介 (〃)

参加クラブ紹介 (〃)

ガバナーあいさつ

カウンセラー講演

フォーラム第1部門(クラブ奉仕)

休憩

フォーラム第2部門(職業、社会、国際、各奉仕)

ガバナーの講評

ロータリーソング「われらの生業」

休憩

懇親会 閉会のことば(ホストクラブ副会長)

乾杯 (第1分区代理)

ロータリーソング「手に手つないで」

閉会のことば (ホストクラブ幹事)

万才三唱 (第2分区代理)

昭和50年3月2日

北九州八幡信用金庫本店

ホストクラブ

八幡西ロータリークラブ

参加クラブ

- ・行橋 R.C
- ・豊前 R.C
- ・田川 R.C
- ・飯塚 R.C
- ・直方 R.C
- ・遠賀 R.C
- ・若松 R.C
- ・戸畑 R.C
- ・戸畑東 R.C
- ・小倉 R.C
- ・小倉東 R.C
- ・小倉南 R.C
- ・小倉西 R.C
- ・門司 R.C
- ・門司西 R.C
- ・八幡 R.C
- ・八幡西 R.C

八幡南ロータリークラブ設立

八幡西R.Cはガバナーの勸奨にこたえて、昭和51年より八幡南R.Cを創立すべく拡大委員会を設け、昭和52年1月13日に、八幡南(仮)ロータリークラブを創立した。
八幡西R.Cよりチャーターメンバー16名が移籍した。

八幡南ロータリークラブ認証状伝達式

昭和52年5月28日

於 青山プラザ

1. 点 鐘
2. 開 会 宣 言
3. 国 歌 斉 唱
4. ロータリーソング “ 奉仕の理想 ”
5. 歓迎のことば 特別代表 加瀬 康 作
6. 出席クラブ紹介 〃 〃
7. 設立経過報告 〃 〃
8. 新クラブ会長紹介 〃 〃
9. 認証状伝達 地区ガバナー 田中丸 善三郎
10. 八幡南R.C会員紹介 八幡南クラブ会長 和 田 正 吉
11. 八幡西R.Cより八幡南新クラブに祝儀贈呈 八幡西クラブ会長 阿 部 博 明
12. 市へ10周年記念事業目録贈呈 〃 〃
13. 来 賓 祝 辞
14. 祝 電 披 露
15. 閉 会 の ことば
16. ロータリーソング “ 我らの生業 ”

記 念 講 演

“ 私の夢想する北九州 ”

北九州大学

高 田 清 昭 教授

来 賓 15名

ロータリアン 28クラブ 346名

設立経過報告

特別代表 加瀬 康 作
 ◇ 補佐 貫 豊 輝
 ◇ 補佐 八木下 和 郎

スポンサークラブである八幡西ロータリークラブは歴代ガバナーの勸奨された新クラブ結成について、創立10周年を契機に再度慎重な現状分析を行うこととし51年5月に拡大委員会を設け、調査研究した結果51年7月に次のような基本線とそれに沿う経過をみた。

即ち

- (1) 八幡西ロータリークラブと地域限界を同じうする。
- (2) 八幡西ロータリークラブの会員を相当数移籍分譲する。
- (3) 八幡西ロータリークラブは優先的に新入会員を選ぶ権利を保留しない。

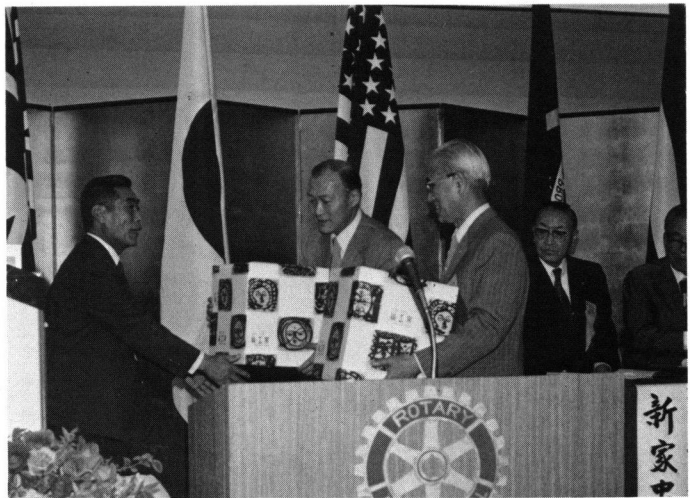
こうした総合判断の結果10月12日に理事会はアディショナルクラブ結成を議決し、ガバナーに報告した。ガバナーは加瀬康作を特別代表に、貫豊輝、八木下和郎の両君を補佐に委嘱された。この間にはガバナーは適切な助言指導を与えられ、その結果52年1月13日に八幡南仮ロータリークラブが創立され月を越えた2月4日国際ロータリーから認証されることになった。

ご 礼 状

ガバナー 田中丸 善三郎

謹啓 益々ご健勝のことと存じます。この1年間八幡西クラブ阿部会長及び岩野幹事には大変お骨折りを頂き、誠に有り難うございました。私も第370地区のガバナーとしての大任を、まずは大過なく果すことができ、ほっといたしておりますが、これも偏に皆様の絶大なるご協力の賜ものと存じ、心から感謝申し上げる次第でございます。任期中に直方中央、苅田、大村北、八幡南、牛津、福岡中央、太宰府、生月と8クラブを創立して頂き381名の新メンバーを加えて拡大にいささか貢献する事ができましたし更に、久留米地区、多久地区にも新クラブを準備中でございます。財団関係ではポール・ハリス・フェロー89名の受章を加えて、おかげさまで所期の目標を大きく上回る貢献ができ、これまた皆様の暖かいご協力に深謝いたしております。ガバナーの任期を終るに当り、種々の点で陰になり日向になりご支援を頂きました皆様へ深甚の謝意を表し厚くお礼を申し上げます。

敬 具



20 年 の あ ゆ み

- 1) 各年度の委員会構成表……………33～52
- 2) 八幡西ロータリークラブ20年の歩み……………53～67
- 3) 20周年記念事業委員会構成表……………67

1967—1968年度 (S42~S43)

役員、理事、及び委員会構成

A 役員

会長 桑原英雄
 副会長 増田孝
 幹事 和田正吉
 副幹事 菅原了
 会計 金子義数
 S. A. A. 末松茂実

B 理事

桑原英雄
 増田孝
 和田正吉
 宮原林
 田中善一
 加瀬康作
 長野義夫

委員会		委員長	委員
クラブ奉仕 担当 宮原 林	出席	属 将夫	渋谷 求女
	職業分類	田代 芳鉄①	岩城 義郎② 塚本 俊明③
	雑誌会報	高嶋 守義	(属 将夫) (菅原 了)
	親睦	八木下 俊三	早岡一二三 井沢 啓二 望月康一郎 貫 豊輝 吉田 笹記 宇原 柁 山崎 晋良
	会員詮衡	安川 寛	林 規 (岡崎 春雄)
	プログラム	宮原 林	(長野 義夫) (繁沢 貞行) (和田 正吉)
	広報	岩田 正昭	(早間 一雄) (田中 善一)
	ロータリー情報	秋吉 三郎①	繁沢 貞行② 岡崎 春雄③
	会場監督	末松 茂実	早間 一雄
職業奉仕	田中 善一	森本 卓 上田 恵 (早岡一二三)	
社会奉仕		加瀬 康作	井上 博厚 早崎喜市郎 (舟木 軍一)
	青少年奉仕	舟木 軍一	(井上 博厚) (早崎喜市郎)
国際奉仕	長野 義夫	大庭九一郎 加瀬 康一 岡本 辰美	

※ () 内は兼任を示す

1968—1969年度 (S43~S44)

役員・理事及び委員会構成

役員

会長 宮原 林
 副会長 和田 正吉
 幹事 秋吉 三郎
 副幹事 吉田 笹記
 会計 金子 義数
 会場監督 菅原 了

理事

宮原 林
 和田 正吉
 秋吉 三郎
 加瀬 康作
 末松 茂実
 井上 博厚
 塚本 俊明

委員会構成

委員会		委員長	委員		
クラブ奉仕 担当理事 加瀬康作	出席	田中善一	長沢正二	谷水直行	
	職業分類	岩城義郎①	八木下俊三②	属 将夫③	
	雑誌会報	高島守義	榊原 剛	(桑原 英雄)	(吉田 笹記)
	親睦	長野 義夫	岩田 正昭	渋谷 求女	原田 幸記
			三原 博	大田文三郎	三原 規義
	健康管理	大庭 九一郎	(塚本 俊明)	(宮原 林)	(田代 芳鉄)
			(属 将夫)	(長野 義夫)	
	会員詮考	安川 寛	増田 孝	岡崎 春雄	
	プログラム	望月 康一郎	(桑原 英夫)	菊竹 倉平	
	広報	早間 一雄	(田代 芳鉄)	徳田 三郎	
ロータリー情報	桑原 英雄①	山崎 晋良②	岡本 辰美③		
会場監督	菅原 了	阿部 博明	宝木多加志		
職業奉仕	末松 茂実	貫 豊輝	村富 芳雄		
社会奉仕	井上 博厚	早崎喜市郎	田代 芳鉄		
	青少年奉仕	舟木 軍一	宇原 柁	(望月康一郎)	真鍋 良金
	史跡保存	加瀬 康一	(和田 正吉)	(高島 守義)	
国際奉仕	塚本 俊明	上田 恵	岡村 政男		

※ ()内は兼任を示す。

1969—1970年度 (S44~S45)

役員・理事・委員会構成

役員

会長 秋吉三郎
 副会長 属将夫
 幹事 吉田笹記
 副幹事 貫豊輝
 会計 金子義教
 会場監督 谷水直行

理事

秋吉三郎
 属将夫
 吉田笹記
 桑原英雄
 田代芳鉄
 井上博厚
 早間一雄

委員会構成				
委員会	委員長	委員		
クラブ奉仕	桑原英雄			
出席	榊原剛	岡村政男	原田幸紀	
職業分類	岩城義郎①	村富芳雄②	望月康一郎③	古賀茂雄
雑誌会報	和田正吉	(属将夫)	(末松茂実)	安藤道男
親睦	長野義夫	岩田正昭 太田文三郎 田中康道	三原博 西原豊 徳田三郎	江連光 片岸修次
健康管理	大庭九一郎	(宮原林) (田代芳鉄) (榊原剛)	(塚本俊明) (属将夫) (長野義夫)	
会員詮衡	安川寛	増田孝	岡崎春雄	(桑原英雄)
プログラム	加瀬康作	塚本俊明	長沢正二	青柳成利
広報	高島守義	(早崎喜一郎)	渋谷求女	
ロータリー情報	山崎晋良①	阿部博明②	菊竹倉平③	
会場監督	谷水直行	宇原 柁	宝木多加志	
職業奉仕	田代芳鉄	早崎喜一郎	八木下俊三	田中善一
社会奉仕	井上博厚	上田 恵 波多野直人	亀石敏夫 高橋健次郎	
青少年奉仕	真鍋良金	舟木軍一	(宮原林)	
史跡保存	加瀬康一	(和田正吉)	(高島守義)	
国際奉仕	早間一雄	菅原了 岡本辰美	(渋谷求女)	末松俊夫
(会員推薦)	(宮原林)	(末松茂実)	(大庭九一郎)	

1970—1971年度 (S45～S46)

役員・理事及び委員会構成

役員

会長 加瀬 康作
 副会長 大庭 九一郎
 幹事 貫 豊輝
 副幹事 桑原 英雄
 会計 金子 義数
 会場監督 属 将夫

理事

加瀬 康作
 大庭 九一郎
 貫 豊輝
 桑原 英雄
 秋吉 三郎
 早間 一雄
 長野 義夫
 岡本 辰美
 岩城 義郎

委員会構成

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	秋吉 三郎	
出席奨励	舟木 軍一	江連 光 菅原 了
職業分類	村富 芳雄	田中 康道 岩田 正昭
雑誌会報	末松 俊夫	井上 博厚 (桑原 英雄)
親睦	八木下 俊三	田中 善一 片岸 修次 金染 博 宇原 柁 石松 勇 亀石 敏夫 梶井 有来 (太田文三郎)
健康管理	塚本 俊明	橋本 勝之 (亀石 敏夫)
会員詮考	安川 寛	岡崎 春雄 早崎喜一郎
プログラム	和田 正吉	安部 六郎 三原 博
広報	岩城 義郎	長沢 正二 高島 守義
ロータリー情報	徳田 三郎	吉田 笹記 阿部 博明 (宮原 林)
会場監督	属 将夫	谷水 直行 宝木多加志
職業奉仕	早間 一雄	上田 美義 山崎 晋良 高橋健次郎
社会奉仕	長野 義夫	安藤 道男 西原 豊 末松 茂実
青少年奉仕	真鍋 良金	太田文三郎 (亀石 敏夫)
史跡保存	加瀬 康一	波多野直人 望月康一郎 (和田 正吉)
国際奉仕	岡本 辰美	榊原 剛 原田 幸紀 増田 孝
会員推薦	宮原 林	田代 芳鉄 (望月康一郎)

1971—1972年度 (S46～S47)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 和田正吉
 副会長 榑原剛
 幹事 三原博
 副幹事 安藤道男
 会計 上田美義
 会場監督 亀石敏夫

理事

和田正吉
 三原博
 西原豊
 太田文三郎
 舟木軍一
 榑原剛
 山崎晋良
 岡本辰美
 属将夫

委員会構成

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	舟木軍一	
出席	橋本勝之	波多野直人
職業分類	金染博	阿部博明 村富芳雄
会員増強	高島守義	田中善一
会員詮考	末松茂実	田代芳鉄
プログラム	安部六郎	早間一雄 善明 靖雄
広報	片岸修次	増田孝 八木下俊三
ロータリー情報	属将夫	桑原英雄 長沢正二
雑誌会報	桑原孝	田中康道
ロータリーの友	末松俊夫	加瀬康一
親睦活動	金子義数	宇原 柁 宝木多加志 山口勇 原田利美
健康管理	大庭九一郎	塚本俊明 樺山時義 村田充 塚原俊雄
新入会員世話	宮原林	谷水直行 岩野二郎 村上俊明 野口訓孝
会場監督	亀石敏夫	関口昇
ロータリー財団	榑原剛	
社会奉仕	西原豊	真鍋良金 加瀬康作
青少年奉仕	太田文三郎	望月康一郎
史跡保存	原田幸紀	井上博厚
職業奉仕	山崎晋良	菅原了 岡崎春雄
経営研究	吉田笹記	貫豊輝
国際奉仕	岡本辰美	安川寛 秋吉三郎

1972—1973年度 (S47~S48)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 大庭 九一郎
 幹事 末松 俊夫
 副会長 望月 康一郎
 副幹事 末松 茂実
 会計 上田 美義
 会場監督 阿部 博明

理事

大庭 九一郎
 末松 俊夫
 桑原 英雄
 加瀬 康一
 望月 康一郎
 高島 守義
 末松 茂実
 菅原 了
 金子 義数

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	桑原 英雄	
出 席	太田 文三郎	宇原 征 ・ 塚原 俊雄
職業分類	菅原 了	金染 博 ・ 土岐 弘毅
会員増強	宮原 林	属 将夫 ・ 新城 博
会員選考	田代 芳鉄	加瀬 康作 ・ 村富 芳雄 ・ 原田 幸紀
プログラム	吉田 笹記	桑原 英雄 ・ 貞末雄七郎 ・ 橋本 勝之
広 報	貫 豊 輝	岡崎 春雄 ・ 真鍋 良金 ・ 増田 孝
ロータリー情報	属 将夫	安藤 道男 ・ 原田 利美 ・ 田中 康道
会 報	村田 充	野口 訓孝 ・ 古藤 忠義
雑 誌	和田 正吉	岡本 辰美 ・ 矢野 的男 ・ 山口 憲信
親 睦	田中 善一	三原 博 ・ 片岸 修治 ・ 谷水 直行
健康管理	塚本 俊明	属 将夫 ・ 榑原 剛 ・ 村上 俊明
会場監督	阿部 博明	西原 豊 ・ 八木下和郎
ロータリー財団	榑原 剛	舟木 軍一
社 会 奉 仕	加瀬 康一	桑原 孝 ・ 善明 靖雄 ・ 森本 純司
青 少 年	亀石 敏夫	山口 勇 ・ 村上 俊明
史跡保存	波多野 直人	橋本 勝之 ・ 末益友之助
職業奉仕	金子 義数	岩野 二郎 ・ 山崎 晋良 ・ 関口 昇
国際奉仕	高島 守義	秋吉 三郎 ・ 宝木多加志 ・ 安川 寛

1973—1974年度 (S48~S49)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 属 将 夫
 幹事 村 田 充
 副会長 加 瀬 康 一
 副幹事 土 岐 弘 毅
 会計 上 田 美 義
 会場監督 山 崎 晋 良

理事

属 将 夫 太 田 文 三 郎
 村 田 充 山 崎 晋 良
 加 瀬 康 一 矢 野 的 男
 貫 豊 輝
 阿 部 博 明
 榊 原 剛

委員会構成

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	太田 文三郎	
出席	矢野 的 男	福田
職業分類	村 富 芳 雄	大庭・田代・秋吉
会員増強	和 田 正 吉	山口・加瀬(作)
会員選考	宮 原 林	安川・船木・増田
プログラム	新 城 薄	塚原・小野・桑原(英)・和田
広報	原 田 幸 紀	桑原(孝)・善明
ロータリー情報	原 田 利 美	安藤・吉田(笹)
雑誌会報	貞 末 雄七郎	田中・古藤・末松(茂)
健康管理	橋 本 勝 之	塚本・大庭・榊原
会場監督	山 崎 晋 良	宝木・真鍋・吉田(邦)・三宅
ロータリー財団	野 口 訓 孝	岡崎・秋吉
社会奉仕	貫 豊 輝	桑原(英)・加藤(一)・西原・望月・桑原(孝)・ 花田・大石・森
青少年	亀 石 敏 夫	末松(俊)・中村・三宅・西原・善明・福田
史跡保存	波多野 直 人	末益
職業奉仕	阿 部 博 明	岩野・土岐・山崎
国際奉仕	榊 原 剛	三宅
親睦	八木下 和 郎	森本・菅原・村上・高島・関口・隈井・森・ 大石・花田
インターアクト諮問	亀 石 敏 夫	宮原・末松(俊)・中村・上田

1974—1975年度 (S49~S50)

理事・役員及び委員会構成

役員

理事

会長	加瀬 康一	加瀬 康一	宮原 林
副会長	榊原 剛	榊原 剛	田中 善一
幹事	和田 正吉	和田 正吉	三宅 央純
副幹事	八木下 和郎	阿部 博明	
会場監督	矢野 的男	西原 豊	
会計	上田 美義	貫 豊輝	

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	阿部 博明	
出席奨励	土岐 弘毅	山口 勇、原田利美
職業分類	属 将夫	加瀬康作、村富芳雄
会員増強	吉田 笹記	末松茂実、真鍋良金、安川 寛
会員詮考		
プログラム	山崎 晋良	森本純司、塚原俊雄、菅原 了
広報	高島 守義	安藤道男、森 茂敏
ロータリー情報	橋本 勝之	中村武文
雑誌会報	村田 充	花田紘一、貞末雄七郎、森 茂敏
親睦活動	西原 豊	野口訓孝、吉田邦一、下田清司、大石武二、 西村秀夫、加藤 実、甲斐英憲、中村一生
健康管理	大庭 九一郎	塚本俊明、田代芳鉄
会場監督	矢野 的男	岩野二郎、高山直忠
ロータリー財団	榊原 剛	岡崎春雄、三宅央純
社会奉仕	貫 豊輝	桑原 孝、望月康一郎、村上俊明、舟木軍一、 増田 孝、吉田邦一、八木下和郎、下田清司
青少年諮問	宮原 林	太田文三郎、花田紘一
青少年奉仕	亀石 敏夫	太田文三郎、善明靖雄、 野口訓孝、大石武二、中村武文
史跡保存	末益 友之助	波多野直人、古藤忠義
職業奉仕	田中 善一	柴田健一、関口 昇、桑原英雄、小野 晃
国際奉仕	三宅 央純	宝木多加志、秋吉三郎

1975—1976年度 (S50~S51)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 榊原 剛
 副会長 阿部 博明
 幹事 矢野 的男
 副幹事 西原 豊
 会場監督 甲斐 英憲
 会計 下田 清司

理事

榊原 剛 加瀬 康一
 阿部 博明 八木下 和郎
 矢野 的男 岩野 二郎
 橋本 勝之
 柴田 健一
 亀石 敏夫

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	橋本勝之	
出席奨励	村上俊明	安藤道男・末益友之助
職業分類	貞末雄七郎	大庭九一郎・岡崎春雄
会員増強詮考	山崎晋良	村富芳雄・高島守義・安川寛
プログラム	大石武二	田中善一・和田正吉・真鍋良金・中野良馨
広報	森本純司	吉田笹記・原田利美
ロータリー情報	塚原俊雄	山口勇・中野良馨
雑誌会報	花田紘一	中村一生・西村秀夫・加瀬康作・舟木義治
親睦活動	村田充	徳井義治・小野晃・善明靖雄・高山直忠・ 野口訓孝・藤村光俊・土岐弘毅・伊豆統一郎・ 城健二・岩崎静馬
健康管理	属将夫	大庭九一郎
会場監督	甲斐英憲	加藤実・貫豊輝・片村英輔・黒木公男
ロータリー財団	岩野二郎	末松茂実・菅原了
社会奉仕	亀石敏夫	田中善一・徳井義治・吉田邦一・藤村光俊・ 野口訓孝・舟木軍一・舟木義治・望月康一郎・ 城健二
青少年諮問	加瀬康一	貫豊輝・宮原林
青少年奉仕	桑原孝	山口勇・吉田邦一・高山直忠・太田文三郎・末益友之助
史跡保存	波多野直人	加瀬康作
職業奉仕	柴田健一	菅原了・中村武文・小野晃・和田正吉・内田八郎
国際奉仕	八木下和郎	秋吉三郎・増田孝・伊豆統一郎

1976—1977年度 (S51~S52)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 阿部博明
 副会長 橋本勝之
 幹事 岩野二郎
 副幹事 村上俊明
 会計 下田清司
 会場監督 大石武二

理事

阿部博明
 橋本勝之
 岩野二郎
 八木下和郎
 貫豊輝
 亀石敏夫
 西原豊
 真鍋良金
 和田正吉

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	八木下和郎	
出席	山崎晋良	吉田(笹)、徳井
職業分類	大庭九一郎	吉田(邦)、宮原
会員選考	田中善一	柳原、原田
プログラム	貫豊輝	永田、中村(武)、塚原、加瀬(一)
広報	貞末雄七郎	村富、属
ロータリー情報	中野良馨	高島、末松
雑誌会報	舟木義治	片村、藤村、中村(一)、鍋島
親睦活動	黒木公男	善明、安藤、岩崎、内田、高田、原、桂、小島
健康管理	伊豆統一郎	
会場監督	大石武二	城、花田、西村
青少年諮問	亀石敏夫	
社会奉仕	西原豊	桑原、宮原、望月、村上、安藤、善明、中村(武)、高島
青少年奉仕	村田充	岩崎、徳井、花田、藤村
史跡保存	末益友之助	波多野
職業奉仕	真鍋良金	
経営研究	柴田健一	矢野、塚原、内田、片岸
事例研究	菅原了	小野、吉田(笹)、原田
国際奉仕	和田正吉	秋吉、増田
ロータリー財団	太田文三郎	安川
拡大委員会	加瀬康作	和田、貞末、八木下、田中、亀石、桑原、大庭、貫

1977—1978年度 (S52~S53)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 橋本勝之
 副会長 真鍋良金
 幹事 中村一生
 副幹事 岩崎静馬
 会計 守田大一郎
 会場監督 村上俊明

理事

橋本勝之
 真鍋良金
 中村一生
 田中善一
 貫豊輝
 城健二
 大庭九一郎
 亀石敏夫
 村田充

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	貫豊輝	
出席奨励	花田紘一	原、吉田(邦)
職業分類	榊原剛	村富、末松
会員増強	加瀬康作	岩野、田中
会員選考	八木下和郎	阿部、高田
プログラム	大庭九一郎	稲井、山崎、亀石
広報	属将夫	宮原
ロータリー情報	高田寿美	西原、大石
雑誌会報	鍋島康夫	岩崎、三好、奥村
親睦活動	桂正	安藤、山崎、守田、津上、三好、石田、糸田、根岸
健康管理	永田豊作	伊豆
会場監督	村上俊明	三木、吉田(笹)、末松、西原
青少年諮問	亀石敏夫	
社会奉仕	村田充	八木下、太田、矢野、安藤
青少年奉仕	村田充	原、舟木
史跡保存	大貝賢	加瀬(作)、望月
職業奉仕	城健二	矢野、永田
国際奉仕	田中善一	舟木、増田
ロータリー財団	伊豆統一郎	秋吉、安川
会計	守田大一郎	

1978—1979年度 (S53~S54)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 真鍋良金
 副会長 田中善一
 幹事 西原豊
 副幹事 八木下和郎
 会計 守田大一郎
 会場監督 三木敬一郎

理事

真鍋良金
 田中善一
 西原豊
 山崎晋良
 高田寿美
 大石武二
 城健二
 村田充
 矢野的男

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	山崎晋良	
出席	原和彦	津上、太田
職業分類	永田豊作	加瀬(作)、村上
会員増強	阿部博明	伊豆
会員選考	大庭九一郎	加瀬(一)、村富
プログラム	高田寿美	稲井、鍋島
広報	貫豊輝	属、安川
ロータリー情報	岩野二郎	阿部(明)、大府
雑誌会報	奥村寿康	諸永、中村
親睦	石田良夫	岩崎、松本、中塚、貫、安武、能美、神尾、八木下、大前
健康管理	榊原剛	橋本
会場監督	三木敬一郎	花田、舟木
社会奉仕	城健二	亀石、大府、津上、村上
青少年	村田充	岩崎
史跡保存	大貝賢	
職業奉仕	大石武二	吉田、鍋島
国際奉仕	矢野的男	増田、秋吉
ロータリー財団	末松茂実	宮原
会計	守田大一郎	

1979—1980年度 (S54～S55)

役員・理事及び委員会構成

役員

会長 田中善一 大庭九一郎
 副会長 山崎晋良
 幹事 城健二
 副幹事 石田良夫
 会計 守田大一郎
 会場監督 阿部博明

理事

田中善一 大庭九一郎
 山崎晋良
 城健二
 貫豊輝
 中村一生
 村田充
 加瀬康一
 八木下和郎
 岩崎静馬

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	貫豊輝	高田・能美
出席	神尾栄一	高田・能美
職業分類	大貝賢	真鍋
会員増強	西原豊	亀石
会員選考	末松茂実	矢野・加瀬(康一)
プログラム	村田充	舟木・岡本
広報	加瀬康作	宮原
ロータリー情報	橋本勝之	阿部(明男)・大石
雑誌会報	諸永光雄	岩野・奥村・加瀬(康作)
親睦	村上俊明	中塚・能美・伊豆・栗原・奥村・貫・大前・三木
健康管理	大府国弘	榊原
会場監督	阿部博明	原・安武
社会奉仕	中村一生	鍋島・貫・梶原・吉田・大庭(記念植樹)
青少年	岩崎静馬	三木・太田・石田・安武
史跡保存	大庭九一郎	属
職業奉仕	加瀬康一	大前・津上・村富
国際奉仕	八木下和郎	永田・増田・岡本
ロータリー財団	稲井恒彦	安川
75周年委員会	加瀬康一	阿部(博明)・橋本・石田・高田・八木下

1980—1981年度 (S55~S56)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 山崎晋良
 副会長 貫豊輝
 幹事 高田寿美
 副幹事 安武真哉
 会計 稲井恒彦
 会場監督 石田良夫

理事

山崎晋良
 貫豊輝
 高田寿美
 村上俊明
 神尾栄一
 橋本勝之
 岡本辰美
 加瀬康作
 岩崎静馬

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	村上俊明	
出席	奥村寿康	諸永光雄 桜井正一
職業分類	伊豆統一郎	村富芳雄
会員増強	中村一生	城健二
会員選考	岩野二郎	榊原剛
プログラム	加瀬康作	阿部博明 (守田)
広報	大府国弘	亀石敏夫
ロータリー情報	村田充	三木敬一郎 (阿部)
雑誌会報	貫増雄	原和彦 (諸永)
親睦	舟木義治	平川文郎 井上俊司 守田大一郎 鍋島康夫 矢野的男 中島智満喜 米倉功 (伊豆)
健康管理	永田豊作	大庭九一郎
会場監督	石田良夫	栗原金幸 能美博明 (安武)
社会奉仕	神尾栄一	増田孝 梶原敬史 (三木)
青少年奉仕	岩崎静馬	八木下和郎 (井上)、(原)、(鍋島)
史跡保存	末松茂実	加瀬康一
職業奉仕	橋本勝之	加瀬康一 大貝賢
国際奉仕	岡本辰美	安川寛 (八木下)、(貫(豊))
ロータリー財団	西原豊	(村上)

1981—1982年度 (S56~S57)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 貫 豊 輝
 副会長 村上 俊 明
 幹事 諸 永 光 雄
 副幹事 井 上 俊 司
 会計 古 賀 克 己
 会場監督 西 原 豊

理事

貫 豊 輝
 村上 俊 明
 諸 永 光 雄
 阿部 博 明
 岩野 二郎
 加瀬 康 作
 城 健 二
 安武 真 哉
 能美 博 明

(会計監査 神尾栄一)

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	阿部 博 明	
出席	梶原 敬 史	桜井、木村
職業分類	大府 国 弘	(古賀) (高田)
会員増強	鍋島 康 夫	山崎
会員詮考	永田 豊 作	増田
プログラム	岩野 二郎	加瀬(一)、高田、舟木、小川
広報	伊豆 統一郎	大貝、村富
ロータリー情報	石田 良 夫	岡本、(村上)
雑誌	橋本 勝 之	(栗原)
会報	平川 文 朗	中島、土岐、(井上)、(貫(増))
親睦	八木下 和 郎	中村、岩崎、貫(増)、村田、田中、後藤、(鍋島)、 (小川)
健康	西本 昭 二	
会場監督	西原 豊	川本、菱岡、米倉、園田
社会奉仕	加瀬 康 作	三木、奥村、矢野、(大府)、(木村)
青少年奉仕	城 健 二	神尾
史跡保存	栗原 金 幸	
職業奉仕	安武 真 哉	榊原、(岩崎) (岩崎)
国際奉仕	能美 博 明	亀石、大庭
ロータリー財団	末松 茂 実	安川

1982—1983年度 (S57～S58)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 村上俊明
 副会長 八木下和郎
 幹事 岩崎静馬
 副幹事 能美博明
 会計 久部貞男
 会場監督 舟木義治

理事

村上俊明
 八木下和郎
 岩崎静馬
 橋本勝之
 安武真哉
 高田寿美
 城健二
 伊豆統一郎
 山崎晋良

委員会	委員長	委員		
クラブ奉仕	橋本勝之			
出席	西本昭二	井上俊司	平川文朗	
職業分類	久部貞男	榊原剛	鍋島康夫	
会員増強	貫増雄	亀石敏夫	村田充	
会員選考	中村一生	貫豊輝		
プログラム	安武真哉	大庭九一郎	阿部博明	川本壮平
広報	末松茂美	大貝賢		
ロータリー情報	岡本辰美	永田豊作	諸永光雄	
雑誌	石田良夫	加瀬康作		
会報	土岐弘毅	宮本邦生	菅本国博	後藤宏男
親睦	神尾栄一	奥村寿康	園田裕孝	米倉功
		小川清澄	服部勝彦	貞末吉助
		樋口寿郎	高尾庄作	中俣博
健康管理	是此田稔	大府国弘		
会場監督	舟木義治	木村吉秀	田中正臣	
社会奉仕	高田寿美	岩野二郎	菱岡紀代志	(八木下和郎)
青少年奉仕	城健二	能美博明		
史跡保存	加瀬康一	栗原金幸		
職業奉仕	伊豆統一郎	西原豊	村富芳雄	
国際奉仕	山崎晋良	増田孝		
ロータリー財団	梶原敬史	安川寛		
会計監査	神尾栄一			

1983—1984年度 (S58~S59)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 八木下 和 郎
 副会長 高 田 寿 美
 幹 事 土 岐 弘 毅
 副幹事 橋 本 勝 之
 会 計 久 部 貞 男
 会場監督 諸 永 光 雄

理 事

八木下 和 郎 舟 木 義 治
 高 田 寿 美 阿 部 博 明
 土 岐 弘 毅
 貫 豊 輝
 中 村 一 生
 岩 野 二 郎
 村 田 充

委 員 会	委 員 長	委 員
ク ラ ブ 奉 仕	貫 豊 輝	
出 席	城 健 二	神尾 栄一 伊東民次郎
職 業 分 類	伊 豆 統 一 郎	栗原 金幸
会 員 増 強	山 崎 晋 良	村上 俊明 貫 増 雄 村富 芳雄
会 員 選 考	久 部 貞 男	西本 昭二
プ ロ グ ラ ム	中 村 一 生	岡本 辰美 川本 壮平 後藤 宏男 大府 国弘
広 報	石 田 良 夫	大貝 賢
ロ ー タ リ ー 情 報	安 武 真 哉	永田 豊作 (橋本 勝之)
雑 誌	加 瀬 康 作	大庭九一郎
会 報	高 尾 庄 作	服部 勝彦 井上 俊司 中俣 博
親 睦	鍋 島 康 夫	小川 清澄 木村 吉秀 吉川 裕徳 山中 秀夫 田代喜久夫 梶原 敬史
健 康 管 理	是此田 穰	榊原 剛
会 場 監 督	諸 永 光 雄	西原 豊 奥村 勇也
社 会 奉 仕	岩 野 二 郎	樋口 寿郎 菱岡紀代志 (高田 寿美)
青 少 年 奉 仕	村 田 充	城 健二 能美 博明 岩崎 静馬 菅本 国博 山中 秀夫
史 跡 保 存	加 瀬 康 一	田中 正臣
職 業 奉 仕	舟 木 義 治	園田 裕孝 増田 孝
国 際 奉 仕	阿 部 博 明	米倉 功
ロ ー タ リ ー 財 団	末 松 茂 実	安川 寛
会 計 監 査	神 尾 栄 一	

1984—1985年度 (S59～S60)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 高田 寿美
 副会長 岩野 二郎
 幹事 石田 良夫
 副幹事 西原 豊
 会計 後藤 宏男
 会場監督 貫 増雄

理事

高田 寿美
 岩野 二郎
 石田 良夫
 諸永 光雄
 山崎 晋良
 鍋島 康夫
 村田 充
 村上 俊明
 奥村 勇也

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	諸永 光雄	
出席	吉川 裕徳	菅本、土岐
職業分類	栗原 金幸	井上
会員増強	岩崎 静馬	中村
会員選考	阿部 博明	大貝
プログラム	山崎 晋良	田中、川添、樋口、久部、加瀬(作)
広報	中俣 博	榊原
ロータリー情報	永田 豊作	八木下、橋本
雑誌	岡本 辰美	西原
会報	服部 勝彦	高尾、園田、田代
親睦	山中 秀夫	伊豆、城、菱岡、行時、神尾
健康管理	大府 国弘	大庭
会場監督	貫 増雄	貫(豊)、是此田、都合
社会奉仕	奥村 勇也	伊東、永野、岩野
青少年奉仕	村田 充	梶原、久部、安武
史跡保存	加瀬 康作	末松
職業奉仕	村上 俊明	能美、安川、舟木
国際奉仕	鍋島 康夫	増田、村富
ロータリー財団	西本 昭二	加瀬(一)
会計監査	神尾 栄一	

1985—1986年度 (S60～S61)

理事・役員及び委員会構成

役員

会長 岩野二郎
 副会長 中村一生
 幹事 鍋島康夫
 副幹事 山中秀夫
 会計 光永太一
 会場監督 八木下和郎

理事

岩野二郎 阿部博明
 中村一生 水口鉄昭
 鍋島康夫
 貫豊輝
 舟木義治
 村田充
 土岐弘毅

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	村田充	
出席奨励	伊東民次郎	小山茂 奥村勇也 (貫豊輝)
職業分類	井上俊司	栗原金幸 田中正臣
会員増強	桑園富士夫	(神尾栄一) (中村一生)
会員選考	加瀬康作	大庭九一郎
プログラム	土岐弘毅	池田正雄 大府国弘 菊竹保平 都合一雄 永野義恒
広報	国武元記	
ロータリー情報	岡本辰美	永田豊作 橋本勝之 (八木下和郎)
雑誌	行時博愛	(加瀬康作)
会報	山中秀夫	河村洋、(田代喜久夫)、(服部勝彦)、村上俊明
親睦	是此田穰	(伊豆統一郎) 池田正雄 菅本国博 (服部勝彦) 樋口寿郎 森永忠芳
健康管理	伊豆統一郎	榊原剛
会場監督	八木下和郎	大林清幸 倉橋吉晴 園田裕孝
社会奉仕	阿部博明	石田良夫 大貝賢 菱岡紀代志
史跡保存	末松茂実	増田孝
青少年奉仕	水口鉄昭	稲富靖彦 (国武元記) 斉藤利美 長谷川矩誼
職業奉仕	貫豊輝	高田寿美 安川寛
国際奉仕	舟木義治	(田代喜久夫) 村富芳雄
ロータリー財団	岩崎静馬	山崎晋良
会計監査	神尾栄一	
会計	光永太一	

1986—1987年度 (S61~S62)

役員・理事及び委員会構成

役員

会長 中村 一生
 副会長 村田 充
 幹事 伊豆 統一郎
 副幹事 斎藤 利美
 会計 山下 英明
 会場監督 山崎 晋良

理事

中村 一生 奥村 勇也
 村田 充 村上 俊明
 伊豆 統一郎
 神尾 栄一
 高田 寿美
 永野 義恒
 国武 元記

委員会	委員長	委員
クラブ奉仕	神尾 栄一	(永田 豊作)
出席奨励	樋口 寿郎	都合 一雄、桑園富士夫、(八木下和郎)
職業分類	田中正臣	阿部 博明
会員増強	石田 良夫	鍋島 康夫
会員選考	土岐 弘毅	(岩野 二郎)
プログラム	高田 寿美	末松 茂実、伊東民次郎、森永 忠芳、倉橋 吉晴
広報	井上 俊司	岩野 二郎
ロータリー情報	永田 豊作	貫 豊輝、(井上 俊司)
雑誌	舟木 義治	村富 芳雄
会報	園田 裕孝	大林 清幸、菊竹 保平、佐藤 進、(村田 充)
親睦	洗田 正雄	水口 鉄昭、藤瀬 昭一、(久保 邦也)、仲野 正敏 門脇 登、波多野 正信
健康管理	田代 喜久夫	末吉 楠雄
会場監督	山崎 晋良	菱岡紀代志、行時 博愛、河村 洋、(桑園富士夫)
社会奉仕	永野 義恒	是此田 稔、管本 国博、安川 寛、(斎藤 利美)
史跡保存	加瀬 康作	大貝 賢
青少年奉仕	国武 元記	稲富 靖彦、(貫 豊輝)、(水口 鉄昭)
職業奉仕	奥村 勇也	八木下和郎、栗原 瑞雲
国際奉仕	村上 俊明	増田 孝
ロータリー財団	岡本 辰美	榊原 剛
会計監査	久保 邦也	
会計	山下 英明	

八幡西ロータリークラブ20年間の歩み

創 立 1967年11月4日（昭和42年11月4日）

創立時の会員 39名

○ 1967年6月～1967年6月末日（S42）

R.I 会長 リチャード・エレバンス [ロータリーでよりよい世界を]

第370地区ガバナー 吉村常助

八幡西仮ロータリークラブ 会長 桑原英雄 幹事 和田正吉

○ 1967年7月～1967年11月4日（S42）

R.I 会長 ルーサー・H・ホッチ [ロータリアンとして貴方の資格を効果的に]

第370地区ガバナー 向笠広次

八幡西仮ロータリークラブ 会長 桑原英雄 幹事 和田正吉

○ 1967年～1968年（S42～S43）

R.I 会長 ルーサー・H・ホッチ

第370地区ガバナー 向笠広次

- ・八幡西ロータリークラブ 会長 桑原英雄 幹事 和田正吉 認証状伝達式。
- ・通常の委員会のほかに、会員の健康を管理することを目的とする健康管理委員会、又、地域限界内に史蹟が多いので、史蹟保存委員会を設く。

当初の方針、親睦を深めようということは、一応の目的を達したように思えます。又、例会を楽しくしようということは、まだまだの感がありますが、他のクラブの方より、当クラブは雰囲気がい、会員の方々の仲がよく、楽しく気楽に訪れる気になるとの評を聞くたびに、ほっとしています。

奉仕活動についても、会員にやろうという気持ちが出てきたことは、次年度に希望がもてるので明るくなりました。ロータリーの格付けのひとつに会員の増減がありますが、当クラブはチャーターメンバー29名で発足して会員の増加は、その速度がおそかったのです。これは当初、理事会で余りに慎重すぎのためで、ガバナー公式訪問の際に指摘され、色々アドバイスを受けたので深く反

省しています。この内部拡大は、今後のクラブの問題として考えて戴きたいと思います。

(桑原会長)

○ 1968年～1969年 (S 43～S 44)

R.I 会長 東ヶ崎 潔 [参加し、敢行しよう]

第370地区ガバナー 兎玉来三

会長 宮原 林 幹事 秋吉三郎

前 桑原会長の意を継承し、委員会に適材適所の配置し、自由なムードが充実したと思う。会員相互の協力で出席率も、まづまづ。質の低下を来さずに内部拡大をはかり、各職域の最もふさわしい埋もれたロータリアンを全員で探し求め、鉄は熱いうちに鍛練すべしという諺通り、入会当初のインフォメーションに努力し、人材を得たと思います。

奉仕こそ吾がつとめと謂われる通りで、ロータリー精神の發揮に心し、ブルジョアの集合でも、慈善団体でもないことを肝に銘じ、創立後、日尚浅い当クラブにあつては、経済面での不足は、会員が卒先して範を示してきた。

ターゲットの如く、参加・敢行するに当り、出来る限り登録料、交通費などはクラブ負担とすべしと努力した。

(宮原会長)

○ 1969年～1970年 (S 44～S 45)

R.I 会長 ジェームス・F・コンウェイ [再検討し、刷新しよう]

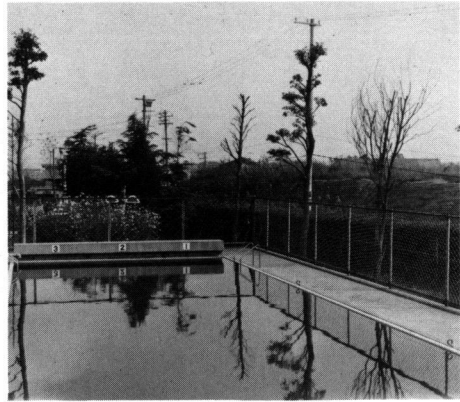
第370地区ガバナー 富永猪佐雄

会長 秋吉三郎 幹事 吉田笹記

- ・小野田セメント(株)寄贈の樹木を遠賀農芸高校のインターアクト、ボーイスカウトの応援を得て八幡養護学校に植樹する。(S45. 4. 11)
- ・九州歯科大学無医村奉仕隊に寄附を行う。
- ・八幡西区永犬丸、八幡養護老人ホームへ、通院、面会、外出用の自動車1台を寄贈し、同院大石理事長より謝意がのべられた。(S44. 8. 1)
- ・米国イリノイ州よりG. S. E. 6人当クラブに来訪。ホストクラブ小倉R. C. 当クラブはコホストクラブとして、市内・工場等を案内。内、Mr. stephen Gaffeny は、岡本会員宅に3泊。



乗用車贈呈式



植樹風景

創立3年目の方針は、桑原、宮原両前会長の方針を受けついで行き、新会員が、つぎつぎふえるに当り、新入会員懇談会、F. S. M. 趣味の会合、懇親会を、しばしば開いて、ベテラン会員と新入会員との腹臍ない意見交換をはかりました。

最近の世界情勢の変転は誠に甚だしいものがあり、月の世界に人間が達するに至ったこの時、若い世代の人々の考え方に著しい変化が現われて来つつある様に考えられますので、特に、この点に留意する必要があると思うのであります。IR会長のターゲットに示されている様に、クラブ、及び自己に対して再検討し、更新すべく努力しました。(秋吉会長)

○1970年～1971年 (S45～S46)

R.I 会長 ウィリアム・E・ウォーク [隔たりを取り除こう]

第370地区ガバナー 末永直行

会長 加瀬康作 幹事 貫 豊輝

- 遠賀ロータリークラブをスポンサークラブとして設立する。(11月15日)

当クラブがスポンサーになっている遠賀R.Cの国際ロータリー加盟認証状伝達式は11月15日13時30分より芦屋町民会館大ホールで挙行されました。当日は晴天と言いながらも北西の冷たい季節風が吹き少々肌寒い日でした。式典終了後15時より航空自衛隊芦屋基地を見学し、17時より大ホールで披露宴が催されました。来会者は末永ガバナー、富永、児玉、中牟田各パストガバナーの他、多数の特別来賓及び208名のロータリアンとそのご夫人の方々を加えると270名にもなりました。

当クラブよりは桑原(英)、宮原、和田三君の責任者を含めて下記28名の諸君が参加されました。加瀬(作)、阿部、秋吉、安藤、江連、橋本、早間、亀石、金染、片岸、三原、望月、村富、長沢、長野、西原、貫、大庭、太田、属、榊原、末松(茂)、塚本、宇原、山崎。

ご夫人達はわざわざ遠方からご出席して頂き、遠賀R.Cの誕生をお祝いしてやろうという好意ある言葉に全員は深い感激と強い印象をうけました。

今後、遠賀R.Cの健全なそして逞しい成長を祈りたいと思います。 (桑原会員)

先ず良好であったと思われる点は当初目標としていた人格的なギャップスを取り除く為に人格的習練を加えることに或る程度成功した。次に会場の改装と食事の優秀さはビジターが均しく賞める所であり、更に会員間に階級的な意識が全くないのはこのクラブの特長である。

充分でなかった点としては前半期が地区大会の為に活動が鈍った事は止むを得ないが会員が58名から53名に減った事である。色々な理由があったにせよ当初とり上げた体質改善についてクラブのマンネリズムを打破することが充分でなく退会者の中に之が潜んでいるのではあるまいか。次年度は特にこの点に注意して頂きたいと希望する。又、出席率が93.33%は目標に及ばなかった。(加瀬(作)会長)

○ 1971年～1972年 (S46～S47)

R.I 会長 アントス・G・ブライトホルツ [善意は先ず貴方から]

第370地区ガバナー 鮎川武雄

会長 和田正吉 幹事 三原 博

- 城山北側に桜の木を植樹する。
- 井筒屋百貨店の屋上に、ミュージック・サイレンを寄贈する。
- 黒崎浄蓮寺境内に松尾芭蕉の翁塚を建てる。

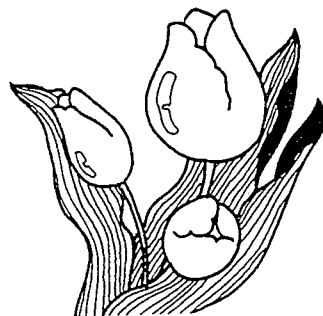
寒い寒い日でした。城山の北側に桜の木を植えるための式に出席しました。今は、もう季節には花見の人が多いそうです。また、井筒屋の屋上に、ウェストミンスター寺院の鐘の音のミュージック・サイレンを寄贈しました。毎晩9時に鳴る音を楽しみにしておりました。会長時代というよりも、それ以前の企画が思い出されます。健康管理委員会、史蹟保存委員会など。(和田会長)

○ 1972年～1973年 (S47～S48)

R.I 会長 ロイ・D・ヒックマン [もう一度、見直そう]

第370地区ガバナー 立花和雄

会長 大庭九一郎 幹事 末松俊夫



- ・成美女子高校生徒のインターアクトが発足
- ・藤田横町の浄蓮寺に松尾芭蕉の翁塚に句碑を建てた。

八幡西R.Cは明治生れの会員が多くしかも皆、何年かのR歴を持っているので元気うちに会長を、という空気はあった。こうして生れたのが第六代会長の故大庭九一郎君で、幹事は現在八幡南R.Cの、末松君である。今にして思えば14年昔のR.Cはのんびりムードがあったようである。会長は年度初めに“その日は来た。7月1日出航準備完了。総勢61名既に乗船。元、前会長を水先案内に各員部処についた。いよいよ碇を巻き上げた。ドラは快よく響き渡る。スクリューは回転を初めて大洋に舳を向けた”と、大へんな意気込みだが、さて一年間の航海の活動状況は…………… (1972~1973)

(IACの創設) 北九州のR.Cは特にIACに熱心である。南クラブも秋頃から俄にこの気運が高まり白羽の矢をクラブ会員のいる折尾女子商業高校に向けた。所が之より先、或る会員が個人的に成美女子高校と話し合いがすすめられている事が分かったので、折尾女子学園長に陳謝と諒解を求めた。こうして創立準備委員会が設けられ成美高校とも打ち合わせが重ねられて6月9日成美高校で創立総会が開かれた。

(植樹) R.Cは繁華街とか駅前よりも人目の余り目のつかない所に地味に社会奉仕をすることが多い。帆柱山麓畑の谷間に植樹しようとしたのもその現われである。直方営林署にこの旨を伝えると大歓迎とのこと。こうして1973年3月10日けやき谷に営林署の協力を得て桜350本、かえで20本の植樹が無事完了した。何年か後、尺岳に登る人たちのコースに当たるけやき谷は春の匂う桜と秋を彩るかえでで、一段と美しいことだろう。 (末松幹事)

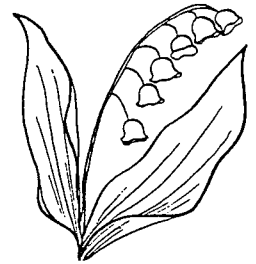
○ 1973年~1974年 (S48~S49)

R.I 会長 ウィリアム・S・カーター [今こそ、行動のとき]

第370地区ガバナー 清島省三

会長 屬 将夫 幹事 村田 充

- ・1月18日、岡田宮に黒崎12景の句碑を建立し、除幕式を行う。



会長一幹事のコンビは、既に10年以上も前のこと。入会3年目でしたが夢中でロータリークラブの楽しさに浸りました。クラブも私も若かったからかな。会長と幹事が会の空気も作ることを覚りました。「ロータリーはトロリーバスの如し。電源から離れないなら、少々左右にゆれてもよい」。これが属会長の意見でした。そして「手続要覧」をよむと、「無理がない。全くよく出来ている。」と思います。そして、最も人間臭みのある人間集団のルールが出来ていると思います。そういう意味で、属氏の間臭さも理解させて頂きました。

人間は不完全で、どんな地位にあっても個性を出しつつルールを守るロータリーの良さを、幹事

をさせて頂いて、少し判った様な気がします。

(村田幹事)

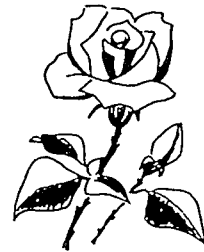
○ 1974年～1975年 (S49～S50)

R.I 会長 ウィリアム・R・ロビンス [ロータリー精神を振るい起こせ]

第370地区ガバナー 蟻川五二郎

会長 加瀬康一 幹事 和田正吉

- 昭和50年3月2日、インターシティ・ゼネラル・
- フォームのホストクラブを引受けて開催する。
- 3月21日、成美高校インターアクトの手で樺谷に、
先に植樹した桜、けやきの補植をする。



会長として改めて云うべき辞はありません。初代桑原君に始まり、7代の名会長の努力により、わがロータリークラブは基礎も性格も完全に出来上り、出席率に多少の差はあれ、決して他のクラブに劣るものではないと確信しています。今更私が独善的な抱負を仰々しくのべる必要はない。

会長は平々凡々でよい!

地区協議会で「会長は陣頭に立って、会員を引っぱれ。」と云われましたが、私のようなものが引っぱると脱線転覆します。仕事は老練精通の和田幹事を中心に、信頼する阿部クラブ奉仕委員長と若手気鋭の各委員長が自在に推進してくれると信じています。その為に、本年の各委員長は、特に私の希望で、若手を中心にして経験深き先輩の宮原、大庭前会長を手綱ひきしめ役として委員長にお願いして、若い人達の奔放闊達な活動に委せたいと思います。

ロータリーの原則は厳守しますが、細かい規則や慣例に拘ることは、第一私の性に合いませんし、窒息しそうになります。やがてそのようなことは、クラブを硬直化し、老化現象を起こすのがオチであります。

もともと70才を越えた老人を創立7年の若い当クラブの会長に推すことが間違いで、その上、若い時からの我儘と、口の悪さは年と共にひどくなり、黒崎言葉丸出しで今日まで押して来た野人です。温厚練達の紳士がすべき?会長の重責が勤まる筈はありません。しかし、各位の御厚情に対して私なりの微力をつくしたいと念じていますが、要するに、会員各位の御支援を待つのみという事です。

最後に出来うれば、青年層の増強と新ガバナーの提唱する「真の友情による親睦に根ざした奉仕」の理想に一步でも前進したいと念願しています。

(加瀬会長)

1. 加瀬康一会長の時、私はクラブ奉仕委員長でした。当クラブでインターシティゼネラルフォーラムを引き受けると決まり適当な会場が無く苦勞しました。信金の本店をお借りして行う事となりましたが、本会議場で会議後に同じ場所でパーティーをせざるを得ない事となり、さて、どうするかと皆さんと協議しました。なにしろ、400人位の人の会食をあまり待たせずに実施する事は至難の技です。予行演習までして秒刻みの訓練までして12分間でパーティー開催にこぎつけました。列席した他クラブの人はその動きを見てびっくりされ、西クラブの名が一躍高まりました。苦勞は多かったです。なせば成るの一例です。 (阿部クラブ奉仕委員長)

○ 1975年～1976年 (S 50～S 51)

R.I 会長 エルネスト・インバツサイ・デメロ [人間に威信を]

第370地区ガバナー 岡野正美

会長 榊原 剛 幹事 矢野的男

- ・財団留学生として、安川電機の安田寛君を米国イリノイ・インスティテュートまで、テクノロジーに送り出す。

10年前の一昔を顧みて、この一年間の印象を蘇らせてみます。

第一に浮ぶ印象は安川電機会社々員安田寛君の米国留学の件であります。小生会長就任早々に米国留学に出発することになりました。小生は以前、財団に関係していましたが、この留学一般に関与していたものと思われまます。同君の留学申込み書類の作製が完了した際、当時の桑原会員にこのことを報告しましたら桑原会員は直ちに來宅され、その書類を持って行かれ、後は私が取計って置くからとよろこびの表情を現わし、いそいそと立ち去られました。小生も一安堵した次第でした。それから幾日かして、それ等の書類がガバナーより返戻されて來ました。その理由は会長及び幹事の印鑑漏れになっているとのことでした。桑原会員は会長、幹事を通さず自分一存で直接ガバナー宛送られたことがわかったわけでした。早速、当時の会長、幹事の印鑑捺印を願って再度ガバナー宛送附したことを思い出します。それにしてもあのロータリーの定款、細則に練達の氏がこの様なことをやられたか不思議でなりません。この安田君の留学は後日合格の報告を受けた次第でした。

今にして思えば会長、幹事印鑑漏れの不備な点で、当時の会長は大庭会員であったことを思い出し、この留学完結まで年数のかかることを改めて思い出しています。

因に安田君はロータリー財団教育補助金により一年間留学することに決りました次第です。留学先はシカゴ・イリノイ・インスティテュート・オゴテクノロジーで電気工学と技術英文を学ぶことになった次第です。

次に史跡保存の件です。1975年10月より11月初旬にかけ記念碑が建設されました。因に同碑の形態を見ますと次の通りです。

縦： 170m 横 0.2m

表： 史蹟 黒崎宿西構口之跡

裏： 旧藩時代黒崎宿の西入口にして番所を設け、行旅の人を監視せし処なり。

横： 年月日、八幡西ロータリークラブ

最後に1975年12月、岡野ガバナー公式訪問であります。当時既に同ガバナーより新クラブ結成の話が持出されておりました。それが現在の八幡南クラブです。

第4は1976年1月26日に八幡中央クラブ創立10周年記念祝賀会に会長として出席しました。以上週報を眺めて思い出したまま。 (榎原会長)

○ 1976年～1977年 (S51～S52)

R.I 会長 ロバート・A・マンチェスター [ロータリーを私は信奉する]

第370地区ガバナー 田中丸善三郎

会長 阿部博明 幹事 岩野二郎

- 1977年1月13日、八幡南ロータリークラブをスポンサークラブとして創立する。

当クラブ10周年記念に南クラブをつくろうという事になり、移籍会員の問題、新クラブの会長の問題など何十回も会合を持った。

特に、岩野、貫、八木下会員などは大変苦労したが、新クラブ創立にまつわる人事のむつかしさは大変であった。 (阿部会長)



○ 1977年～1978年 (S52～S53)

R.I 会長 ジャック・デービス [全人類を結びつけるための奉仕]

第370地区ガバナー 七条達夫

会長 橋本勝之 幹事 中村一生

会長、橋本勝之会員（1985. 9. 12逝去）の幹事として1年をすごしたが、前期は当クラブから八幡南クラブの誕生を終えた直後で、大巾16名減員の51名からの再出発で、クラブ運営の重点は会員増強と親睦であった。新局面に対処するために、会員の教育に力点が注がれた年であった。

幸い全員の協力を得、若干の成果しか挙げえなかったものの、クラブのエネルギーの質・量の補強、回復に苦勞した1年であった。クラブ入会后3年経過した幹事であったが、会長に支えられ、辛うじて勤めを終わったのが本音であった。尚、この年は国際ロータリー東京大会に参加の記憶すべき年でもあった。国際色豊かな参加登録人員4万人に垂んとする日本における世紀の一大イベントの実体をこの目で見、肌で感じ、ロータリーを見直す機会に恵まれた。

クラブからの参加者も8名に及び、夫々に連帯感に浸り、ロータリアンとしての自覚と誇りを実感した。
(中村幹事)

○ 1978年～1979年（S53～S54）

R.I 会長 クレーム・レヌフ [手をさしのべよう]

第370地区ガバナー 新家忠男

会長 眞鍋良金 幹事 西原 豊

R.Iのターゲットの実行が主であるが、私は“寛容であれ”“ゆずる気持ちを先に”をつけ加えてゆき、お互に広く心豊かに相許し合って行き、何ごとも強くとはがめ合わない心から尊敬と親しみでゆきたい。
(眞鍋会長)

○ 1979年～1980年（S54～S55）

R.I 会長 ジェームス・L・ポーマ [奉仕の灯で道を照らそう]

第270地区ガバナー 喜多村禎勇

会長 大庭九一郎 幹事 城 健二

- ・黒崎藤田の郡家跡に史蹟標石をたてる。
- ・樺谷にモミジを植える。
- ・成美高校に図書をおくる。
- ・職業奉仕賞をおくる。

- ・阿部会員寄贈による桜、もみじ55本を樺谷に植える。

R. I 75周年の意義ある年で、真の友愛と親睦の中から築かれた超我の奉仕を心掛けます。R. C には見物席はありません。会員ひとしくレギュラー選手であります。 (大庭会長)

○ 1980年～1981年 (S 55～56)

R.I 会長 ロル・J・クラリッヒ [時間を捧げよう 奉仕のために]

第270地区ガバナー 樋口謙太郎

会長 山崎晋良 幹事 高田寿美

- ・ 3 老人ホームゲートボール大会

幹事を引受けてくれた高田寿美会員に第一にお礼を申し上げます。生来の横着者で、会長予定乍ら準備することなく、いよいよとなり故橋本会員、阿部会員、加瀬康一会員に相談に参りました処、私の横着にかかわらず高田幹事を決めてくれ、任期中も色々と助言と根廻しもしてくれました。

前会長の突然の退会と会員45名迄の減少で、前途多難の門出乍ら高田幹事の準備の良さで、11名の新入会員を迎えて最低会員数を維持出来、出席率もほどほどの成果をあげることが出来ました。会員の協力は勿論乍ら、高田幹事の陰の苦労と努力を深く感謝しております。加瀬康一会員が、常々私に会長は幹事に余り口を出さずにまかせなさい、そうすれば良い結果が生ずる、と口ぐせの様に云われたことが思い出されます。

無事、任期を務めることが出来たのは高田幹事のおかげと感謝致しております。(山崎会長)

○ 1981年～1982年 (S 56～S 57)

R.I 会長 スタンレー・E・マッキヤフリー [ロータリーを通じて世界理解と平和を]

第270地区ガバナー 鈴木従道

会長 貫 豊輝 幹事 諸永光雄

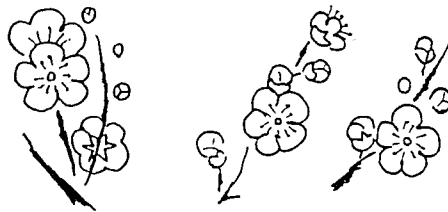
- ・ 8月19日、前会長、屬先生逝去。(ロータリー、トロリーバス論のユニークな方でした)
- ・ 10月23日、老人ホームゲートボール大会をクラブ例会にしました。
- ・ 11月5日、ガバナー公式訪問 (八幡南クラブと合同) (貴方のクラブは美味しい食事が出る例会で羨ましいと一言)
- ・ 11月28日、旅行同好会 近江路の旅。(鍋島会員とのランデブーが大変でした)
- ・ 12月25日、忘年家族会。100名出席。山銀支店長の10本ハーモニカ演奏、伊豆ファミリーの

仕舞、小唄がダンゼン好評。

- 2月18日、ゴルフ宮崎例会（神尾会員、日向の女神 礼賛しきり）
- 4月24・25日、地区大会。前年度会員増強優秀クラブ表彰式。
- 5月22日、今年度会長杯取切ゴルフ会の嬉野G.C、天山G.C（是此田会員がH D 3割カットも何んのその入会初年度、会長杯獲得）

1981～82年度7月6日、706例会から6月25日、775例会まで、諸永幹事をはじめ最高スタッフに恵まれて、15周年を迎える年度に丁度50才で会長を務めさせて戴きました。

4つの活動方針を掲げ、やるぞと云う気負いの年度初め、ガバナー公式訪問、Xマス家族会と続く夢我夢中の半年間、貴重な体験を得ながら会長冥利につきた居心地の良い後の半年間。惜しくも先年亡くなられた諸永幹事さんの退任の挨拶の中にある一無為にして化す（何もしないで立派なことをする）を全員皆様のお力添えで1年間、全うすることが出来、私の人生の記念すべき節目になったことを感謝する次第です。（貫 会長）



○ 1982年～1983年（S 57～S 58）

R.I 会長 向笠広次〔人類はひとつ。世界中に友情の橋をかけよう〕

第270地区ガバナー 中牟田喜一郎

会長 村上俊明 幹事 岩崎静馬

創立20周年を迎え、会員の皆様と共にお祝い申し上げます。当時のことを思い起しますと、記念すべきことが色々と思い出されます。

第1に、国際ロータリー会長に、向笠広次氏が就任。そしてR.I 理事に、当270地区パスト・ガバナー末永直行氏（福岡R.C）が就任され、向笠R.I 会長は大分県中津R.Cの会員で、奇しくも1967年～68年当地のガバナーを務められ、当クラブ創立に当り、認証状伝達式に参列、認証状の伝達を致しており、日本のロータリアンとして東ヶ崎潔氏に次ぐ二人目のR.I 会長となられたことであります。

第2は、地区分割であります。1982年7月1日より第270地区（福岡県、壱岐、対馬）と第274地

区（佐賀、長崎県）に分割されました。これも質・量ともに地区内のロータリークラブの充実の何よりの証左で、大いに祝福すべきであります。

第3は、ガバーの公式訪問であります。公式訪問が7月9日（金）とあって、例年になく早く準備に取りかからねばならなかった事であります。お陰様で、会員皆様の御協力に依り無事終了することが出来ました。尚、当日はマレーシアより日本にお出になった、国際ロータリー、第330地区首都・クアラルンプール出身のP u・D u（グズ）ロータリークラブ会員であるミスター、ウォン・タンさん（通称ロッキーさん）のメーカーキャップがあり、中牟田ガバナーも、公式訪問に花を添えていただいたと大変喜ばれました。

第4は、納涼親睦家族会開催でありました。夕闇迫るホテル・サンルート屋上に、会員家族相集い、楽しく沢山の内容で行われました。防府の猿廻し、バナナの叩き売り、金魚すくい、わた菓子コーナー等設けられ、家族歌合戦に時の過ぎゆくのを忘れ黒崎の夜景を満喫し、名残りを惜み乍ら閉会しました。

以上、色々と思いはつきませんが皆様方の温い友情と善意の奉仕には只々感謝の外ございません。20周年記念日に当り、会員並びに家族の皆さんのご多幸と八幡西ロータリーの発展をお祈り致します。

（村上会長）

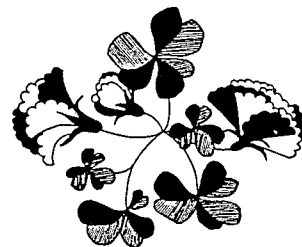
○ 1983年～1984年（S58～S59）

R.I 会長 ウィリアム・E・スケルトン〔みんなにロータリーを。みんなに奉仕を。〕

第270地区ガバナー 高橋 孝

会長 八木下和郎 幹事 土岐弘毅

- ・ 青山女子高校インターアクトに9月6日認証状伝達。
- ・ 8月28日、皿倉山清掃登山。
- ・ 八幡西区老人ホームゲートボール大会（於 北九州ハイツ）
- ・ 向笠前R.I 会長名の児童公園建設に当り1人1,000円を寄附。



4年前の事ゆえに、脳細胞激減中の頭を絞ってもなかなかはっきり思い出せません。土岐名幹事を得、且つ会員の日本的寛容の精神の中で何とか1年が終わった様な気がします。特に、村田現副会長以下皆様の努力により、9月16日高橋ガバナー訪問の日に、青山女子高校I A Cの認証状伝達式が行われた事が印象に残っております。感謝。

最後に一言。出席率は一度下りはじまると、以前の状態に復元するのは、なかなか困難です。会長、幹事、出席委員長は出席状況の報告のたびに心臓に負担をかけます。

皆様、ホームクラブを欠席の時は、是非メーカーキャップを忘れずに。

（八木下会長）

○ 1984年～1985年 (S59～S60)

R.I 会長 カルロス・カンセコ [見つけよう、奉仕の新生面]

第270地区ガバナー 今村一郎

会長 高田寿美 幹事 石田良夫

- 平尾台、皿倉山の清掃登山に青山女子高校インターアクトクラブと当クラブが参加した。
- 恒例の八幡西区の聖ヨゼフの園、西峰園、香月の3老人ホームのゲートボール大会を当クラブ主催で北九州ハイッツで挙行。
- 青山女子高インターアクトクラブは当クラブと協力し、公共施設にボックスを設けて、使用済切手募集運動を展開し多大の効果をあげ、新聞紙上で賞讃をうけた。
- ニコニコBOXが好成績で、過去最高の140万円に達した。
- 年4回のF. S. M. を実施し、親睦と勉強をした。
- 八幡地区4クラブ合同例会を実施した。
- 出席率低下し、93.50%であった。



○ 1985年～1986年 (S60～S61)

R.I 会長 エドワード・F・カドマン [あなたが鍵です]

第270地区ガバナー 中井 隆

会長 岩野二郎 幹事 鍋島康夫

- 4月26日、恒例の「聖ヨゼフの園」「西峰園」「香月」の3老人ホーム対抗ゲートボール大会を当クラブ主催で北九州ハイッツで挙行。
- 青山女子高インターアクトクラブと皿倉山清掃登山と皇后崎公園の清掃。
- 使用済切手収集、90,000枚以上。
- 広報活動において、写真業の大員会員が、何10年間も無料で、お年寄の写真を撮り無料で配布していることが、新聞・TVで報ぜられ特別賞が、ガバナーより贈られた。

青山女子高校インターアクトクラブ創立後4年を経過し、校内・校外でも活躍しております。ロータリークラブがインターアクトと共に奉仕の指導精神を発揮しているとガバナーが賞讃され、国際奉仕委を中心に展開している使用済古切手運動に協力して黒崎駅、その他の公共施設にボックスを設置し大いに実績をあげていることは、新聞紙上にも報道されましたし、見知らぬ市民の参加申込みも相次いでいます。

8月3、4日の九州年金会館でのインターアクト年次大会にも、コ.ホストクラブとして大会成功に貢献しました。現在メンバーは30名をかぞえ、学校当局の御理解と顧問、有田正輝先生の真摯な御指導に支えられてすばらしいクラブへと成長している。 (岩野会長)

○ 1986年～1987年 (S61～S62)

R.I 会長 M. A. T. カパラス [ロータリーは希望をもたらす]

第270地区ガバナー 脇坂順一

会長 中村一生 幹事 伊豆統一郎

- I. A. C. 指導者講習会で、青山女子高がクラブ奉仕部会のリーダー校となる。
- 北九州福祉会(サングリーンホーム)への無名の善意のおくりものが大貝会員からのものとなる。
- 恒例の3老人ホームのゲートボール大会開催。
- 青山女子高校文化祭に寄附。

今期がクラブにとって意義深い大きな節目を画し、更に一層の活性化を図る為にロータリーの原点である

奉 仕 の 実 践

奉 仕 へ の 参 加

を特に強調し各委員会に於いて企画、実施されるであろう諸々の活動計画の大前提である事を改めて認識して頂き、毎日の職業生活、社会生活の中でロータリーの為に何かを考え、費せる時間を是非持って頂き度いと思います。

ロータリーに見物席は有りません。ロータリアンに傍観は許されません。R. I 会長のテーマにそえる所以も又ここにあると考えます。

限りない内部拡大、外部活動の拡大発展は勿論、記念事業プロジェクトを成功させる為にも皆さんの為にも皆さん一丸となって燃焼して頂き度いと存じます。

更に今期「会長賞プログラム」を達成に全力投球でチャレンジしましょう。即ち下記事項をロータリアンの自覚と協力により達成し、希望をもたらす機会に恵まれないと考へます。

1. 会員増強 純増3%
2. 新ロータリークラブのスポンサーとなること
3. 職業奉仕か社会奉仕か国際奉仕において少なくとも一つの新奉仕プロジェクトを始めること
4. 地区協議会に会長、幹事が参加すること
5. 地区大会における出席人員を昨年比10%UPさせること
6. 財団への寄付を昨年比10%増やすこと

以上抽象的且総括的に表現致しましたが、その意味する処をよく汲みとり頂きまして、個々の問題解決に対処を切にお願い致します。 (中村現会長)

20周年記念事業委員会構成表

会 長		中 村 一 生	
実 行 委 員 長		阿 部 博 明	
幹 事		伊 豆 統 一 郎	
委 員 会		委員長	委 員
総 務	本 部	八木下	貫、岩野、神尾
	プログラム文書	土 岐	石田、樋口、都合、園田、水口、斉藤
	会 計	河 村	山下
万 葉 詩 碑		村 田	末松、高田、大貝、栗原、伊東、久保、倉橋、 桑園、藤永、稲富、鍋島
ご 来 賓		村 上	菊竹、野末、大林
記 念 誌		岡 本	加瀬、増田、奥村、田代、佐藤
パ ー テ ィ	式 典	山 崎	安川、榑原、村富、永野、長谷川
	パ ー テ ィ	池 田	是此田、舟木、菱岡、末吉、行時、藤瀬、田中、 仲野、菅本、服部、門脇、波多野
	ご 夫 人	永 田	井上
	インターアクト	国 武	森永

委 員 会 及 同 好 会

- 1) 史跡保存委員会.....69～73
- 2) 旅 行 同 好 会.....74～75
- 3) その他の同好会.....76～77
- 4) 写 真.....78
- 5) 北九観光マップ.....79

史跡保存委員会

(加瀬康作会員)

八幡西ロータリークラブ独特のもので他クラブに例を見ないものに史蹟保存委員会がある。当西ロータリークラブ地域内に散在する史蹟や文化財に値するものを探求し市・県の史蹟に指定を促進し、その保存にも努めている。

黒崎宿駅。当クラブの地域の中心は黒崎であり、往時は本州から九州に入る陸・海路の重要な據点であった。古・中世紀では武人の東西征の道筋、江戸時代には諸藩の三勤交代主道路、また長崎よりのケンペルやシーボルトなど外人の道路、いわゆる長崎街道の中の筑前六宿の宿場であった。特に豊前小倉藩との境辺の守りとして重要視され、行政・警察等極めて厳しく、また人馬の中継所、代官、郡家、番所、馬関や大阪に至る航路の出発点として回船問屋、駕籠、籠屋等軒を並べ文人墨客の往来も繁く、当時としては文化的にも相当高いものであった。

従って史跡も多く、年々の都市開発のため、これらの史跡が破壊いん滅されるを憂い昭和8年に黒崎史跡保存会が結成され「黒崎の里」誌も発刊されて住民の関心を喚起したが終戦後は省みる団体もなかったので昭和43年度に当クラブが委員会を設けてこれらの保存に力を入れたのである。

その実施事項を次に記すことにする。

1. 「黒崎宿西構口」宿場はどこでもその出入口に構口という関所を設け通行人を厳しく人改めした。西構口は熊手下市の西端にあり、朝夕一定時間外は門が閉され、特に女性は券契がなければ他国へ往くことができなかった。

〔註・東構口は新町海藤庵の庭に黒崎史蹟保存会によって建てられ現存している
・西構口の古い碑は黒崎小学校の庭に保存されているので新しく建てた〕



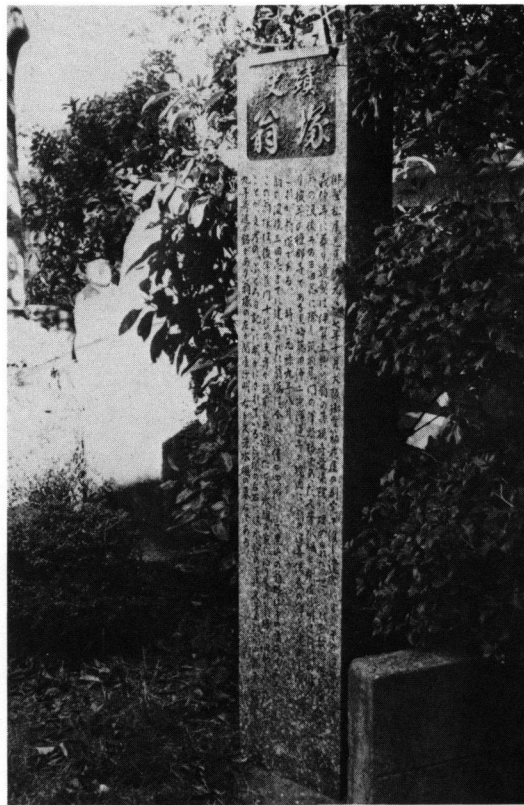
2.「代官所跡」既に述べたように慶長9年(1604年)黒田藩は黒崎城を築城したが元和元年(1615年)の武家諸法度により、一国一城制で廃城となった。この頃より黒崎も城下^{まち}街として代官所、郡(家)屋、番所、お茶屋(本陣とも言い大名級の宿泊所)、脇茶屋(各藩の家老級の宿)等がおよそ寛永年間(1624~44年)に完成したようである。

代官所は藩の出先機関であり、初期には諸税を徴収していたが弊害もあったので逐に宿駅の用務のみ取扱っていた。(註 代官の他下代4名、足軽3名)

現在の藤田の中央部、村上衣料店の場所にあったので、ここに碑を建てた。

- (註・郡家もこの隣に置かれていたが市の事情により「郡家跡」を建てるのが許されなかった)
- ・郡家は大庄屋、庄屋普請方等の出張事務所として駅通の事務を処理していた
 - ・人馬中継所、お茶屋、脇茶屋等は、既に黒崎史跡保存会で碑が建てられ現存している

3.「^{おきなつか}翁塚」俳聖・松尾芭蕉(元禄7年没、1694年)の没後その芸術や徳を讃えて全国に芭蕉碑がその弟子達によって建てられた。これを「翁塚」と呼んでいる。黒崎宿のこの碑は藤田の浄蓮寺の境内に久芳忠左衛門、俳名「^{すいきつ}水颯(水札)」によって建てられたもので、別府大学の松本教授の話では九州では最初ものとのことである。これは次に述べる黒崎有名俳人の墓碑と共にクラブで移転した。



4. 俳人水颯、沙明二人の墓碑移築。文化の高かったこの宿では俳句人が多く月雪花を友として名作が生れた。その中でも久芳水颯と富田沙明（関屋沙明）の両名は筑前俳壇の筆頭格で両者の名は江戸にまで名声を博していた。

久芳水颯は水札とも書き名は忠左衛門、宿駅の酒造家であり、本陣（大名の宿泊所）の管理人として「本陣守」に任命され本陣の北隣に住む富豪であった。

富田沙明は屋号を関屋と呼び水颯の北隣で脇本陣（町茶屋）と米を取扱っていた。俳界では関屋沙明（一空）と言った。この両名の句は当時の日本の最高級の句誌「猿蓑、初蟬、西国曲、百曲、その他臬日記、渡り鳥集」などに記載されている。

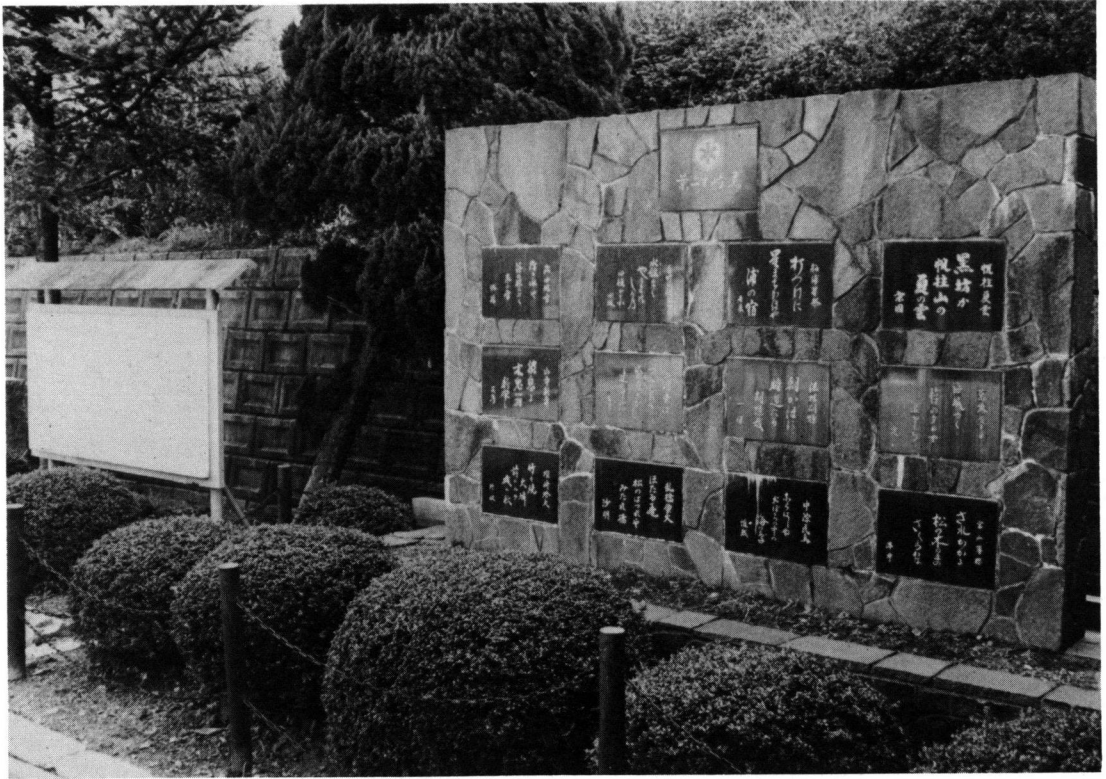
この元禄の末期頃までには芭蕉の高弟、向井去来、各務支考、廣瀬惟然（美濃）沢露川（尾張）無外坊燕説（伊勢）志田野坡（大阪）等が来黒し沙明宅其他の場所で交り、宿の俳道を高めたものである。

墓碑は浄蓮寺の裏の墓地にあったが、納骨堂建設のため一偶に掻集められていたものをクラブ会員が発見して、現納骨堂の北側に翁塚と共に移設し、説明碑も建て、その遺歴を表敬した。

5. 「黒崎十二景句碑」句の街黒崎の美しさをとらえた句がこれである。

宝永5年（1705年）の頃まとめられたもので、作者は地元の俳人や前述した日本的に高名の人達である。我々は、この句を石刻して熊手の岡田神社の境内に碑を建てた。

- | | |
|---|---------|
| ○ 黒坊か帆柱山の夏の雲 | 西 山 宗 因 |
| ○ 打ちつけに星まつ顔や浦の宿（船町） | 向 井 去 来 |
| ○ ならばばや朧 <small>おぼろ</small> の中の海の鳥（妙見沖） | 廣 瀬 惟 然 |
| ○ 脇息 <small>きょうそく</small> に木兔 <small>みみづく</small> 一羽秋寒し（山寺） | 各 務 支 考 |
| ○ 海鼠 <small>なまこ</small> つく棹 <small>さし</small> の夕日や浪かしら（かつら嶋） | 一 定 |
| ○ 朝顔 <small>あさご</small> に睡過 <small>ねすご</small> したる胡蝶哉（浄蓮寺） | 一 保 |
| ○ 積みながら柴舟寒し遠干潟 <small>とうひがた</small> （二島） | 立 中 |
| ○ されかゝる松の木の間 <small>ま</small> の桜かな（岡田宮） | 染 零 |
| ○ 成水 <small>なるみず</small> や篠 <small>ささ</small> の根におく春の雪（鳴水） | 帆 柱 |
| ○ ほたる飛ぶ松のはづれや乱橋 <small>みだればし</small> （熊手乱橋） | 関 屋 沙 明 |
| ○ 水鶏鳴く屋敷 <small>やしき</small> の下の田植かな（陣山） | 久 芳 水 颯 |
| ○ 竹を焼く火燐前 <small>ひろうり</small> に見ゆ磯 <small>いそ</small> の秋（皇后ヶ崎） | 志 太 野 坡 |



成水残雪

○ なる水や篠の根におく春の雪 帆柱

成水はいまの鳴水。この鳴水は南を山に覆われ北西の冬風をまともに受ける寒さの厳しい地である。従って春になったというのに笹の根にはまだ残雪がある。春の遅い山家の景色。

帆柱夏雲

○ 黒坊か帆柱山の夏の雲 宗因

蒸し暑い一日、夕立がくるのか帆柱山の峰にむくむくと立ちのぼったまっ黒の入道雲をみて一句。

船浦星祭

○ 打つけに星まち顔や浦の宿 去来

舟町の七夕祭を表現したものである。

中湯民鳥

○ ならばしやおぼろの中の海の鳥 惟然

洞海湾は明治40年頃までは今より巾の広い胃袋形の湾で水深浅く、干潮時には妙見の沖附近は瀬が見え海鳥が遊ぶ程であった。この句も多分干潮時の朧月夜の瀬に遊ぶ海鳥を詠じたものであろう。

山寺秋暮

○ 脇息に木兔一羽秋寒し 支考

秋の夕暮れ頃、山寺の寒々とした民家で出された脇息に疲れた肘をかけ、やれやれと一息つく、折しも一羽の木兔（みみづく）が羽つくろいをしていた。

葛島冬日

○ 海鼠つく棹の夕日や浪かしら 一定

葛島は洞海湾の枝光近くにあったが製鉄所の発展と共に交通の妨げとなり、昭和13年取崩された。ここは海鼠がとれ、夕波のなかをこれらの舟が夕日を受けて浪がしらに反映した美しい風景を見せている。

法林胡蝶

○ 朝かほに睡過たる胡蝶哉 一保

殺生禁断の寺なればこそ日よけの柵の朝顔に悠々と眠っている蝶と人との心暖まるふれ合いである。寺は定かではないが、浄蓮寺か光円寺ではなかろうか。

二嶋柴船

○ つみながら柴船さむし遠干潟 在中

洞海湾の胃袋の北底部、今の二島の南に2つの小島があったが今は埋立て、陸続きとなった。冬の暖をとるための燃料か、船底を焼くためのものか刈られた柴をどっさり積んだ船が湾内に拡がった干潟（浅瀬）を注意して避けながら進んで行く、船頭が船辺り頬かむりして何かしら寒々しい冬の海の姿である。

宮山薄桜

○ されかかる松の木のまのさくらかな 染零

多分、熊手村の村社岡田宮が、藤田村社の春日神社かであろう。松の大樹によりかかったように木の間から桜の花が満面の笑をたたえて我が世の春を告げるような姿を見せている。

乱橋螢火

○ ほたる飛松のはつれやみたれ橋 沙明

乱橋は水垂橋とも書く。熊手構口の西端、菅原天満宮の下を流れる揆川にかかる石橋である。三勤交代も皆この橋を踏んで黒崎の宿に入る。この川の水は清く夏の螢は有名であったらしい。この橋のすぐ近くまで天満宮の松枝が伸びてきて螢の光に松の緑が暗夜のなかにかすかに浮び上る一幅の画句である。

白竹田植

○ 水鶏（くいな）なくやしきのしたの田植かな 水颯

丘の家の夕暮れ頃、家の下の方ではまだ農夫が水鶏の高い声をきき、家の子供らのことも気がかりながら急ぎ気味に田植の手を運んでいる。作句者が農夫への思いやりの句であろう。白竹という場所は筑前風土記、福岡県誌、遠賀郡誌等黒崎の昔の小字を調査したが、どうしても明らかでない。水鶏は夕方や暁方頃カタカタと連続して戸を叩くような高い声を出す渡り鳥である。

躍崎燈火

○ 竹を焼く火燐前にみゆ磯の秋 野坡

躍崎は今の皇后崎。秋の夕刻、遙か彼方の皇后崎の海辺で竹を焼くその火の美しい状態を詠じたものと思われる。

同 好 会

旅 行 同 好 会

1976年春、旅行をすることにより会員相互の友愛の場を拓けようと、岩野会員、貫会員らが世話人となり、顧問格に加瀬(-)、阿部両会員が決まって、この同好会が発足した。

その後、会員家族も参加し、家族ぐるみの親睦の輪を拓げ、既に10回以上の旅行を行ってきた。該博な知識で常に会員に深い感銘を支えてきた歴史の碩学、加瀬会員が病気のために退会したのが惜まれる。

○1976年 秋 (S51年)

京 都 旅 行

初回の旅として、京都府下サントリー山崎工場（ウイスキー）、修学院、桂の両離宮などを訪れ、21名の参加者があった。

○1977年 秋 (S52年)

飛 弾 信 州 の 旅

昔の宿場の残る木曾路、絢爛たる五色に燃える上高地の紅葉、古い街並の飛弾高山の清い水に泳ぐ鯉など、しみじみと日本の秋を賞でた3日間の旅。同行21人で、百の例会にも勝る下呂温泉での親睦談義があった。

○1978年 秋 (S53年)

み ち の く の 紅 葉 を 訪 ね て

“住めば日の本、遊べば十和田、歩け奥入瀬三里半”大町桂月の詩で知られる秋の十和田の紅葉と溪流を探り、藤原三代の栄華をしのぶ3泊4日の旅。同行20名。

○1979年 秋 (S54年)

洛 北 に 歴 史 と 紅 葉 を 探 る 旅

善峰寺、十輪寺、高尾、神護寺など、加瀬(-)会員の名ガイドで訪れる歴史の数々と秋色。つみ草料理のあの思い出は忘れられぬであろう。この時より家族も参加し、総員24名。

○1980年 秋 (S55年)

大和路の旅

多武峯、室生寺、聖林寺、長谷寺、法隆寺、唐招提寺など。
16名。(2泊3日)

○1981年 秋 (S56年)

近江路、湖東地方の旅

信楽、西明寺、彦根城、渡願寺、石山寺、義仲寺など。27名。
(2泊3日) 帰化人の里や壬申の乱のことなど、古代の昔を偲ぶ。

○1982年 秋 (S57年)

洛北、洛東、紅葉の旅

三千院、寂光院、東福寺など、加瀬(-)会員の歴史談義に酔う。

○1983年 秋 (S58年)

信濃路を訪ねて

善光寺、川中島、海津城、戸隠神社、柏原、松本城など。特に
戸隠の奥宮への路と鳥の鳴声は印象にのこる。(2泊3日)

○1984年 秋 (S59年)

会津磐梯の旅

会津若松、鶴ヶ城、磐梯朝日国立公園、福島。灌木の紅葉は
見事。

○1985年 秋 (S60年)

五家荘秋色を
めぐる旅行

秘境の旅は珍らしく、マイクロバス2台で黒崎より往復。

○1987年 冬 (S62年)

雪の秋田・新潟

横手の「かまくら」は一生の思い出。

囲碁同好会

1978年（S53年）7月、囲碁同好会発足、毎週金曜日を本会の例会日とし、発足当時、北九州ハイッを例会場としたが、諸永会員が退職したため、千草ホテルに変更した。

発足時の会員（9名） 諸永 5段、 高田 5段、 阿部 4段、
岩野 2段、 舟木 2段、 能美 5級、
原 7級、 石田 7級、 鍋島 7級、

各年の優勝者 S54年度 諸永、 S55年度 阿部、 S56年度 高田、
S57年度 阿部、 S58年度 諸永、 S59年度 高田、

但し、成績順位は年間最多勝数により決定した。S60年度より中断して現在にいたる。

（高田会長）

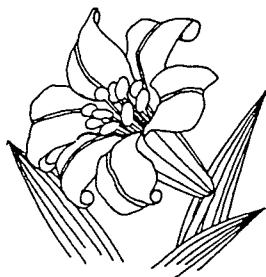
写真同好会

ロータリー旅行同好会に参加した会員が写した写真を例会場に展示したところ、好評だったのがきっかけとなり、撮影旅行に行こう、そして本格的な撮影会と写真展を開こう、という話が会員の間で盛りあがった。

S56年8月7日の週報に「写そう会」結成の記事が載せられ、発起人、そして阿部会員、加瀬(作)会員、小川会員、大貝会員、伊豆会員の名があり、直ちに神尾会員の入会あり、大きな戦力となっている。

その他、八木下、田中会員らも味のある作品を出品している。本会発会後は、4回の撮影会、6回の作品展を開いており、阿部、加瀬会員は、“プロはだし”の作品を作り、うならせている。

撮影会は何時でも、初心者歓迎となっているが、参加者の中にはカメラを持参せず美人モデルを鑑賞し乍ら、酒・弁当を楽しんでいる会員がいるのは、ほほえましい。



会員の中で特記されるのは大貝会員だろう。老人の写真を撮りつづけ、その作品を贈って喜ばれ感謝されており、その奉仕に対して、1984～85年度、第270地区年次大会に於いて、特別表彰を受けられた。プロであれば当り前かも知れぬが、雄大で暖かい作風は我々の手本であり、その作品は誠に貴重なものがある。

今後共、写真好きの会員の参加を戴いて、より充実したものにして行きたいと考える。

（伊豆会員）

釣 同 好 会

名前だけあって、なかなか釣に行かない同好会で、過去1回だけ鯛釣りに行きました。

ビギナーズ・ラック 当日、阿部会員、最大の鯛を釣り上げる。

今秋より釣同好会、おおいに活動したいものだ

(八木下会員)

ゴ ル フ 同 好 会

当同好会は、クラブでも最も古くからある同好会のひとつである。毎年6～8回のコンペを行っており、和やかな雰囲気にあふれるコンペで会員一同、毎回楽しみにしている。

時には10数アンダーという優勝スコアも出て、会員一同、顔の引き締まるようなこともある。毎年5月には、会長杯取切戦が行われ、会長杯カップを目指して全員頑張っている。

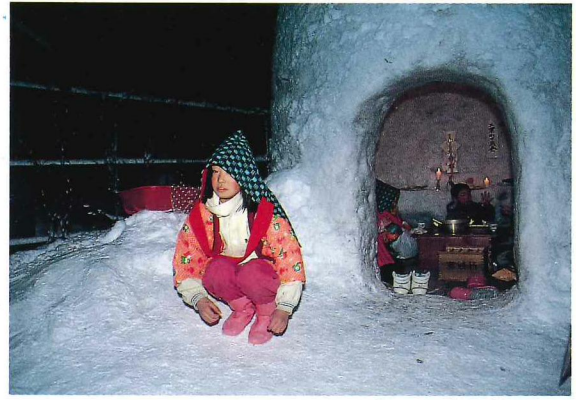
会員同志の親睦、それに健康にもつながる当同好会、いつでも楽しい会である様に願っている。

(齊藤会員)

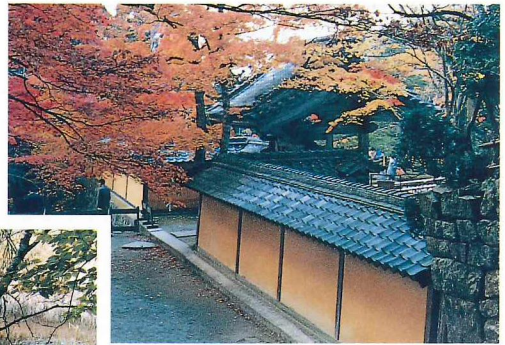




(戸隠)



(かまくら)



(京都)



(五色沼)



(近江路)

ク ラ ブ 現 況

- 1) クラブ沿革.....81～85
- 2) 会員名簿.....86～99
- 3) スナップ写真.....100～105
- 4) ポール・ハリス・フェロー 他.....106～107
- 5) 退会会員.....108～109
- 6) 物故会員.....110
- 7) 編集後記.....111

ク ラ ブ 沿 革

1. 創 立 発 会	1967年 6 月 2 日	スポンサークラブ	八幡ロータリークラブ
R I 承 認	1967年 6 月 21 日	特別代表	花 田 盛 太 郎
認 証 状 伝 達 式	1967年 11 月 5 日	ガバナー	向 笠 広 次
チャーターメンバー	29 名		

2. 歴代会長及び幹事

1967年 6 月～1968年 6 月	会長	桑 原 英 雄	幹事	和 田 正 吉
1968年 7 月～1969年 6 月	会長	宮 原 林	幹事	秋 吉 三 郎
1969年 7 月～1970年 6 月	会長	秋 吉 三 郎	幹事	吉 田 笹 記
1970年 7 月～1971年 6 月	会長	加 瀬 康 作	幹事	貫 豊 輝
1971年 7 月～1972年 6 月	会長	和 田 正 吉	幹事	三 原 博
1972年 7 月～1973年 6 月	会長	大 庭 九 一 郎	幹事	末 松 俊 夫
1973年 7 月～1974年 6 月	会長	屬 将 夫	幹事	村 田 充
1974年 7 月～1975年 6 月	会長	加 瀬 康 一	幹事	和 田 正 吉
1975年 7 月～1976年 6 月	会長	榊 原 剛	幹事	矢 野 的 男
1976年 7 月～1977年 6 月	会長	阿 部 博 明	幹事	岩 野 二 郎
1977年 7 月～1978年 6 月	会長	橋 本 勝 之	幹事	中 村 一 生
1978年 7 月～1979年 6 月	会長	真 鍋 良 金	幹事	西 原 豊
1979年 7 月～1980年 6 月	会長	大 庭 九 一 郎	幹事	城 健 二
1980年 7 月～1981年 6 月	会長	山 崎 晋 良	幹事	高 田 寿 美
1981年 7 月～1982年 6 月	会長	貫 豊 輝	幹事	諸 永 光 雄
1982年 7 月～1983年 6 月	会長	村 上 俊 明	幹事	岩 崎 静 馬
1983年 7 月～1984年 6 月	会長	八 木 下 和 郎	幹事	土 岐 弘 毅
1984年 7 月～1985年 6 月	会長	高 田 寿 美	幹事	石 田 良 夫
1985年 7 月～1986年 6 月	会長	岩 野 二 郎	幹事	鍋 島 康 夫
1986年 7 月～1987年 6 月	会長	中 村 一 生	幹事	伊 豆 統 一 郎

役員・委員長及び委員（別掲）

3. 地 域 限 界

本クラブの地域限界は次の通りである。 「北九州市のうち八幡西区の全域とする。」

4. 事 務 局 及 び 例 会

(1) 事 務 局 北九州市八幡東区西本町1丁目1番1号 千草ホテル内 TEL (681) 0694

(2) 例会日時 毎週金曜日 12時30分～13時30分

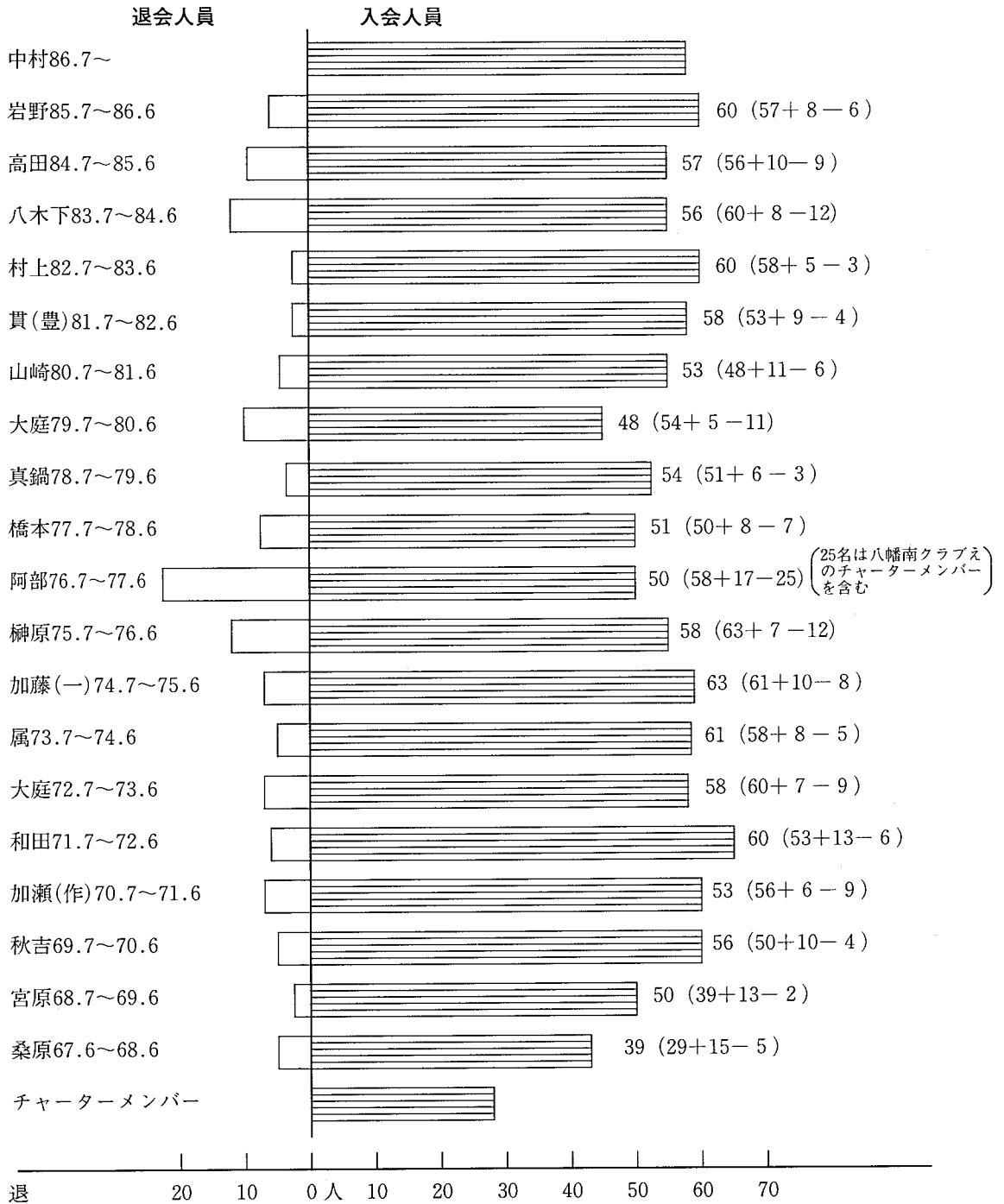
(3) 例 会 場 千草ホテル会議室 TEL (671) 1131

(4) 八幡西区人口 252,005名（男、120,952名 女、131,053名）（S 61. 5. 1 現在）

5. 会 員 状 況

A. 現 在 数 56 名

B. 年 度 移 動 状 況



(1987年2月1日現在)

会 長	年 度	年度始	入 会	退 会	年度末	増 減
		会員数			会員数	
桑 原	67. 6 ~ 68. 6	29	15	5	39	+ 10
宮 原	68. 7 ~ 69. 6	39	13	2	50	+ 11
秋 吉	69. 7 ~ 70. 6	50	10	4	56	+ 6
加 瀬 (作)	70. 7 ~ 71. 6	56	6	9	53	- 3
和 田	71. 7 ~ 72. 6	53	13	6	60	+ 7
大 庭	72. 7 ~ 73. 6	60	7	9	58	- 2
属	73. 7 ~ 74. 6	58	8	5	61	+ 3
加 瀬 (-)	74. 7 ~ 75. 6	61	10	8	63	+ 2
紳 原	75. 7 ~ 76. 6	63	7	12	58	- 6
阿 部	76. 7 ~ 77. 6	58	17	25	50	- 8
橋 本	77. 7 ~ 78. 6	50	8	7	51	+ 1
真 鍋	78. 7 ~ 79. 6	51	6	3	54	+ 3
大 庭	79. 7 ~ 80. 6	54	5	11	48	- 11
山 崎	80. 7 ~ 81. 6	48	11	6	53	+ 5
貫 (豊)	81. 7 ~ 82. 6	53	9	4	58	+ 5
村 上	82. 7 ~ 83. 6	58	5	3	60	+ 2
八 木 下	83. 7 ~ 84. 6	60	8	12	56	- 4
高 田	84. 7 ~ 85. 6	56	10	9	57	+ 1
岩 野	85. 7 ~ 86. 6	57	8	6	59	+ 2

C. 会員の種類

正 会 員 4 2 名
シニア・アクティブ会員 1 7 名

D. 会員の年齢

最年長者 90歳, 最年少者 27歳, 平均年齢 56歳

25 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~ 69	70 ~ 79	80 ~
1	6	9	27	11	1	4

E. 会員の職業分類 (別掲)

6. 出席状況

A：出席率

昨年度（1985年7月～1986年6月）

第270地区第2分区 平均出席率 94.82%

当クラブ 95.5%

B：100%出席者（1986年6月迄）

1ヶ年	5名	8ヶ年	4名	15ヶ年	0名	22ヶ年	0名
2	5	9	9	16	1	23	1
3	2	10	4	17	0	24	1
4	0	11	0	18	1		
5	2	12	1	19	0		
6	0	13	0	20	0		
7	3	14	3	21	0		

C：メーキャップ状況（1985～1986）

R. C	八幡	八幡中央	八幡南	その他	合計
メーキャップ数	52	62	148	150	412
来訪者数	93	70	131	29	323

7. クラブ活動

A. 理事会

定例理事会は毎月1回、第一例会日に例会終了後に開催する。

重要事項ある時は臨時理事会を開催する。

B. 年次総会

年次総会は、12月の第二例会（金曜）日に開催し、総会で次年度の理事を選挙する。

C. 例会

例会は毎週金曜日12時30分より13時30分の間に行う。前半30分は定められた議事を行い、後半30分は卓話を実施している。

D. クラブ協議会

- 1) 地区協議会のあと、地区協議会の内容報告及び指令を会員に周知する。
- 2) 7月始め、本年度活動計画（年間目標）の要約について協議する。
- 3) 地区ガバナー公式訪問2週間前に行う。
- 4) 地区ガバナー公式訪問のとき行う。
- 5) 地区大会終了後行う。
- 6) 1月～2月の間に、年度活動計画（目標）に対する実績と未達成部分について検討する。
（前半期の反省と後半期の努力目標について全員協議する）。

E. クラブ・フォーラム

会員のロータリー知識の啓蒙及びその研究のためクラブ・フォーラムを再三開催し、充実したクラブ運営を行う。又、特に会員増強、職業奉仕について具体的に検討しその成果の高揚を図る。

F. 炉辺談話（F.S.M.）

約10名～12名の単位で班を編成し、炉辺で懇談し、クラブ運営について新旧会員膝を交えて自由に協議し、友情と親睦を図るとともに、会員の意見は十分に理事会に反映する。

G. ロータリー財団及び米山記念奨学金への協力

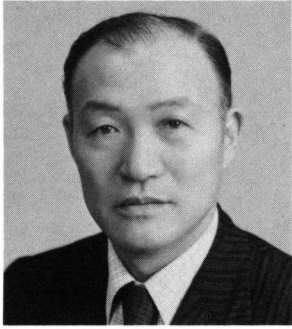
当クラブも20年目を迎え、ロータリー財団の面でも3.400%となった。

H. 各委員会活動

各委員会（別紙の表）は随時委員会を開催し、委員会活動について協議し、事業を行う。クラブ奉仕・出席・職業分類・会員増強・会員選挙・プログラム・広報・ロータリー情報・雑誌・会報・親睦・健康管理・会場監督・社会奉仕・青少年奉仕・職業奉仕・国際奉仕・ロータリー財団・及び史蹟保存の各委員会があり、特に史蹟保存委員会は当地区の文化財保存に努力しているし（本委員会活動については別掲参照のこと）、又、社会奉仕委員会では永年にわたり施設老人への奉仕として、ゲートボール大会を行っている。

I. 北九州24 R. C 合同会長幹事会を結成

各クラブ輪番で会議を開き、緊密に連絡して有効な活動を行っている。



氏名 ^ア ^ベ ^{ヒロ} ^{アキ}
阿部 博 明

事業分類 シニア・アクティブ(総合建設業)

事業所名 明和工業(株)

役職 代表取締役

事業内容 住宅、一般建設

所在地 806 八幡西区鷹の巣1丁目

電話 631-3035

自宅住所 807-11 八幡西区馬場山

東二丁目5-2

電話 617-0616

生年月日 大正13年11月12日

趣味 囲碁、華道

入会年月 S. 43. 5



氏名 ^イ ^ズ ^{トウイチロウ}
伊豆 統一郎

事業分類 皮膚科医

事業所名 伊豆皮膚科医院 院長

役職 院長

事業内容 皮膚病一般、性病も可

所在地 806 八幡西区黒崎2丁目7番7号

電話 641-1000

自宅住所 804 戸畑区福柳木1丁目19番21号

電話 881-3350

生年月日 昭和9年7月5日

趣味 音楽(特に合唱)

入会年月 S. 50. 4



氏名 ^イ ^{トウ} ^{タミジロウ}
伊東 民次郎

事業分類 プラント建設

事業所名 高田プラント建設(株)

役職 取締役社長

事業内容 プラント機器据付・配管及び伴う工事

所在地 806 八幡西区引野名前原317-21

電話 613-1131

自宅住所 807 八幡西区永犬丸1-3-22

電話 691-2228

生年月日 大正9年3月11日

趣味 ゴルフ

入会年月 S. 58. 7



氏名 ^{イケ} ^ダ ^{マサ} ^オ
池田 正 雄

事業分類 百貨店

事業所名 (株)井筒屋 八幡店

役職 取締役社長

事業内容 各種商品小売り

所在地 806 八幡西区黒崎2-3-15

電話 641-0131

自宅住所 806 八幡西区南八千代町

3-12山内グリーンパレス

電話 642-0603

生年月日 昭和5年1月9日

趣味 読書、音楽鑑賞

入会年月 S. 59. 7



氏名 イシダ ヨシオ 石田良夫

事業分類 寝具販売

事業所名 (株)石田

役職 代表取締役

事業内容 寝具、インテリア販売業

所在地 ☎807 八幡西区陣の原1丁目

電話 631-2661

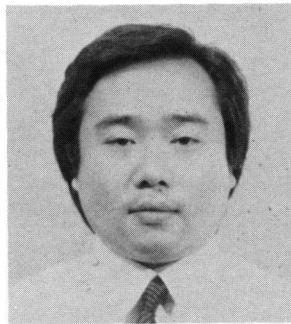
自宅住所 ☎806 八幡西区割子川7-10

電話 641-6559

生年月日 昭和8年9月20日

趣味 ゴルフ、詩吟、マージャン

入会年月 S. 52. 3



氏名 イナ トミヤス ヒロ 稲富靖彦

事業分類 プレス加工

事業所名 (株)稲富プレス工業所

役職 専務

事業内容

所在地 ☎808 若松区二島1623-25

電話 791-1812

自宅住所 ☎807 八幡西区大字折尾1-56

電話 602-0510

生年月日 昭和29年10月9日

趣味 ゴルフ、読書

入会年月 S. 60. 1



氏名 イノウエ シュンジ 井上俊司

事業分類 産婦人科医

事業所名 井上医院

役職 副院長

事業内容 産科、婦人科

所在地 ☎806 八幡西区黒崎1丁目3-4

電話 621-5608

自宅住所 ☎806 八幡西区黒崎1丁目3-4

電話 621-5608

生年月日 昭和13年3月19日

趣味 読書

入会年月 S. 55. 1



氏名 イワノ ジロウ 岩野二郎

事業分類 シニア・アクティブ(建築設計)

事業所名 岩野建築士事務所

役職 所長

事業内容 建築設計監理、諸官庁代理手続業務

所在地 ☎806 八幡西区鷹の巣1丁目

電話 642-0032

自宅住所 ☎807 八幡西区光貞台2丁目10-18

電話 601-3641

生年月日 昭和5年9月4日

趣味 釣り歩き

入会年月 S. 46. 9



氏名 オオ ガイ マサル
大 貝 賢

事業分類 シニア・アクティブ(写真) 自宅住所 ㊟806 八幡西区熊手1丁目1-7
 事業所名 大貝写真館 電 話 621-1515
 役 職 館 主 生年月日 明治35年12月17日
 事業内容 写真撮影 趣 味 写真、旅行
 所在地 ㊟806 八幡西区熊手1丁目1-7 入会年月 S. 52. 1
 電 話 621-1515



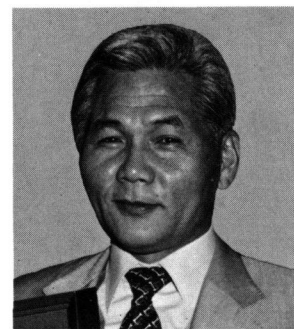
氏名 オオ バヤシ キヨ ユキ
大 林 清 幸

事業分類 獣 医 自宅住所 ㊟807 八幡西区千代ヶ崎1-15-9
 事業所名 折尾動物病院 電 話 601-0977
 役 職 院 長 生年月日 昭和24年9月27日
 事業内容 小動物診療 趣 味 写真、旅行
 所在地 ㊟807 八幡西区千代ヶ崎1-15-9 入会年月 S. 52. 1
 電 話 601-0977



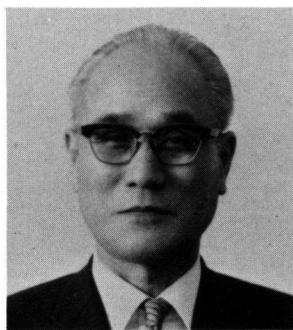
氏名 オカ モト タツ ミ
岡 本 辰 美

事業分類 シニア・アクティブ(金属硬化) 自宅住所 ㊟803 小倉北区到津3丁目12-9
 事業所名 第一高周波工業(株) 電 話 652-4850
 役 職 顧 問 生年月日 大正5年4月5日
 事業内容 趣 味 ゴルフ、読書
 所在地 ㊟806 八幡西区黒崎3丁目1-7 入会年月 S. 54. 5 (43. 1)
 電 話



氏名 オク ムラ ユウ ジ
奥 村 勇 也

事業分類 印 刷 電 話 603-5431
 事業所名 双羽印刷(株) 自宅住所 ㊟807 八幡西区折尾浅川高尾工業団地
 役 職 代表取締役社長 電 話 603-5431
 事業内容 カラーポスター、パンフレット、新聞雑誌、一般帳票類 生年月日 昭和8年4月3日
 趣 味 スポーツ全般
 所在地 ㊟807 八幡西区折尾浅川高尾工業団地 入会年月 S. 52. 5



氏名 ^カ加 ^セ瀬 ^{コウ}康 ^{サク}作

事業分類 シニア・アクティブ(不動産管理) 自宅住所 ☎806 八幡西区西鳴水2丁目11-5
 事業所名 (株) シオン 電 話 621-6617
 役 職 取締役会長 生年月日 明治35年1月28日
 事業内容 貸 ビル 趣 味 写真、俳句、俳画、歴史研究
 所在地 ☎806 八幡西区熊手2丁目 入会年月 S. 36. 7
 電 話 631-3140



氏名 ^{カド}門 ^{ワキ}脇 ^{ノボル}登

事業分類 電 信 電 話 電 話 603-4200
 事業所名 日本電信電話(株) 自宅住所 ☎807 八幡西区折尾4丁目15-7
 NTT折尾電報電話局 電 話 601-6200
 役 職 局 長 生年月日 昭和11年7月15日
 事業内容 電報電話事業全般 趣 味 スポーツ、釣り、囲碁
 所在地 ☎807 八幡西区光明2丁目11-8 入会年月 S. 62. 1



氏名 ^{カミ}神 ^オ尾 ^{エイ}栄 ^{イチ}一

事業分類 公 認 会 計 士 自宅住所 ☎802 小倉北区砂津1-4-29 701
 事業所名 神尾公認会計士事務所 電 話 521-0739
 役 職 所 長 生年月日 昭和8年8月25日
 事業内容 会計監査、税務業務 趣 味 海釣り、ゴルフ
 所在地 ☎806 八幡西区屋敷1丁目1-14 入会年月 S. 53. 5
 電 話 641-0234



氏名 ^{カワ}河 ^{ムラ}村 ^{ヒロシ}洋

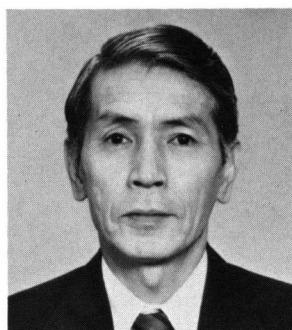
事業分類 商 業 銀 行 自宅住所 ☎806 八幡西区幸神1丁目12-6
 事業所名 親和銀行 八幡支店 電 話 621-1217
 役 職 支 店 長 生年月日 昭和8年1月16日
 事業内容 銀 行 業 趣 味 テニス
 所在地 ☎806 八幡西区熊手3丁目1-1 入会年月 S. 60. 5
 電 話 621-4561



氏名 ^{キク} 菊 ^{タケ} 竹 ^{ヤス} 保 ^{ヘイ} 平

事業分類 自動車配布
 事業所名 日産サニー北九州販売(株)
 役職 代表取締役社長
 事業内容 乗用車・トラックの新車
 中古車販売・整備
 所在地 806 八幡西区穴生3-10-24

電話 642-1895
 自宅住所 806 八幡西区東鳴水4-14-6
 電話 621-6823
 生年月日 昭和2年9月25日
 趣味 ゴルフ、読書
 入会年月 S. 60. 5



氏名 ^ク 久 ^ボ 保 ^{クニ} 邦 ^ヤ 也

事業分類 医科大学事務局
 事業所名 学校法人産業医科大学
 役職 理事・事務局長
 事業内容
 所在地 807 八幡西区医生ヶ丘1-1
 電話 603-1611

自宅住所 807 八幡西区大浦2丁目11-7
 電話 602-8204
 生年月日 昭和2年11月18日
 趣味 音楽鑑賞、俳句
 入会年月 S. 60. 11



氏名 ^{クニ} 国 ^{タケ} 武 ^{モト} 元 ^キ 記

事業分類 高級婦人服既製販売
 事業所名 (株)サンレモ
 役職 代表取締役
 事業内容 婦人服、アクセサリー販売
 所在地 802 小倉北区浅野2-14-1
 KMMビル201

電話 521-5536
 自宅住所 806 八幡西区東神原町4-25
 電話 641-4008
 生年月日 大正7年6月25日
 趣味 読書
 入会年月 S. 59. 4



氏名 ^{クワ} 桑 ^{ゾノ} 園 ^フ 富 ^ジ 士 ^オ 夫

事業分類 青果販売
 事業所名 桑園青果(株)
 役職 代表取締役
 事業内容 青果物卸売、学校・病院給食納入
 所在地 802 小倉北区西港町94-9
 北九州市中央卸売市場

電話 583-2057
 自宅住所 806 八幡西区下上津役元町4-1
 電話 611-1365
 生年月日 昭和10年6月9日
 趣味 旅行
 入会年月 S. 59. 4



氏名 クラ ハシ ヨシ ハル
倉橋吉晴

事業分類 生命保険

自宅住所 ㊟806 八幡西区東神原町7-18

事業所名 日本生命保険相互会社 八幡支社

電話 621-2054

役職 支社長

生年月日 昭和12年12月1日

事業内容 生命保険販売・保全全般

趣味 釣り、読書

所在地 ㊟806 八幡西区黒崎3丁目1-7

入会年月 S. 60. 5

電話 631-1661



氏名 クリハラ ズイ ウン
栗原瑞雲

事業分類 書道家

自宅住所 ㊟806 八幡西区東川頭町5-15

事業所名 書道研究「吉祥社」

電話 681-1643

役職 代表

生年月日 昭和7年2月7日

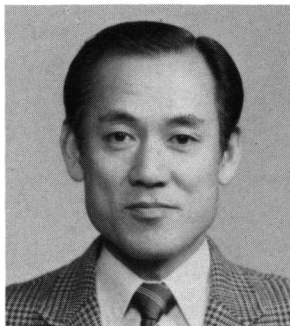
事業内容

趣味

所在地 ㊟806 八幡西区東川頭町5-15

入会年月 S. 54. 3

電話 681-1643



氏名 コレコダ ミノル
是此田稷

事業分類 内科医

自宅住所 ㊟807 八幡西区則松1丁目11-6

事業所名 是此田内科医院

電話 602-3030

役職 院長

生年月日 昭和8年10月22日

事業内容 医院経営

趣味 ゴルフ、軽音楽鑑賞

所在地 ㊟807 八幡西区陣原4丁目9-16

入会年月 S. 56. 10

電話 691-0416



氏名 サ トウ ススム
佐藤進

事業分類 弁護士

自宅住所 ㊟807 八幡西区陣原4丁目1-18

事業所名 三代法律事務所

電話 691-2110

役職 弁護士

生年月日 昭和24年7月18日

事業内容

趣味 ゴルフ

所在地 ㊟802 小倉北区原町1丁目4-24

入会年月 S. 60. 11

電話 571-2579



氏名 ^{サイ トウ トシ ミ} 齊藤利美

事業分類 染織工芸

事業所名 染織工芸さいとう

役職 代表者

事業内容 呉服卸

所在地 ㊟802 小倉北区下到津1-7-19

電話 592-3166

自宅住所 ㊟802 小倉北区下到津1-7-19

電話 592-3166

生年月日 昭和23年3月6日

趣味 読書、音楽

入会年月 S. 60. 1



氏名 ^{サカキ バラ コワシ} 榎原剛

事業分類 シニア・アクティブ(内科医)

事業所名 榎原内科医院

役職 院長

事業内容 内科一般

所在地 ㊟806 八幡西区鷹の巣2丁目13-11

電話 641-2406

自宅住所 ㊟806 八幡西区鷹の巣2丁目13-11

電話 641-2406

生年月日 明治38年4月30日

趣味 油絵、散歩

入会年月 S. 43. 7



氏名 ^{スエ マツ シゲ ミ} 末松茂実

事業分類 シニア・アクティブ(石灰石採掘)

事業所名 (株)末松商会

役職 代表取締役

事業内容 石灰石採掘販売、不動産賃貸、駐車場
その他、不動産活用の諸事業

所在地 ㊟806 八幡西区田町2丁目5-33

電話 641-1061

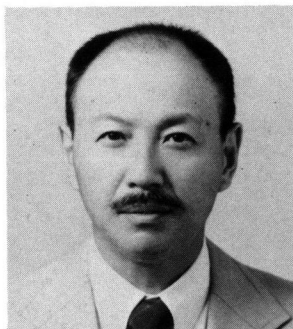
自宅住所 ㊟811-34 宗像市日の里8丁目16-4

電話 0940-36-1402

生年月日 大正9年9月8日

趣味 読書、旅行、園芸、ゴルフ、ドライブ

入会年月 S38. 4



氏名 ^{スエ ヨシ クス オ} 末吉楠雄

事業分類 耳鼻咽喉科

事業所名 末吉耳鼻咽喉科医院

役職 院長

事業内容

所在地 ㊟806 八幡西区黒崎3丁目8-26

電話 621-1312

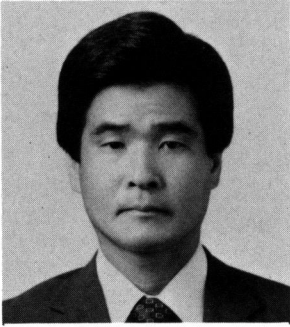
自宅住所 ㊟806 八幡西区黒崎3丁目8-26

電話 631-7221

生年月日 昭和9年10月10日

趣味 ゴルフ

入会年月 S. 61. 2



氏名 ^{スガ} ^{モト} ^{クニ} ^{ヒロ}
菅 本 国 博

事業分類 工業用繊維加工

自宅住所 ☎807 八幡西区光貞台2丁目23-5

事業所名 九州産業(株)

電話 601-8092

役職 代表取締役

生年月日 昭和14年10月15日

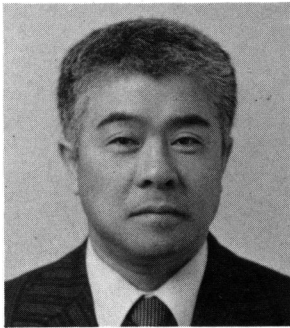
事業内容 フィルタークロス

趣味 釣り

所在地 ☎806 八幡西区萩原3丁目2-1

入会年月 S. 56. 8

電話 631-3961



氏名 ^{ソノ} ^ダ ^ユ ^{タカ}
園 田 裕 孝

事業分類 医療器具配布

自宅住所 ☎806 八幡西区上上津役2丁目19-33

事業所名 園田産業(株)

電話 611-4079

役職 代表取締役社長

生年月日 昭和13年1月17日

事業内容 高圧ガス販売、医療ガス販売

趣味 ラグビー、音楽

所在地 ☎806 八幡西区上上津役2丁目19-16

入会年月 S. 56. 4

電話 612-2612



氏名 ^タ ^{シロ} ^{キク} ^オ
田 代 喜 久 夫

事業分類 歯科医

自宅住所 ☎806 八幡西区東神原9-22

事業所名 田代歯科医院

電話 621-4823

役職 院長

生年月日 昭和7年12月13日

事業内容 歯科一般

趣味 スポーツ、麻雀

所在地 ☎806 八幡西区藤田2-4-1

入会年月 S. 58. 1

電話 621-5287



氏名 ^タ ^{ナカ} ^{マサ} ^{オミ}
田 中 正 臣

事業分類 住宅機器配布

電話 613-1188

事業所名 (株)田中商会

自宅住所 ☎806 八幡西区塔野3-13-5

役職 代表取締役

電話 613-4151

事業内容 住宅機器の販売、L.Pガス販売

生年月日 昭和8年7月9日

所在地 ☎806 八幡西区下上津役

趣味 ゴルフ、旅行、読書

塔野3丁目13-3

入会年月 S. 55. 9



氏名 ^{タカ} ^ダ ^{ヒサ} ^ミ
高田 寿美

事業分類 シニア・アクティブ(不動産管理)

事業所名 高田不動産(株)

役職 取締役社長

事業内容 不動産賃貸・駐車場

所在地 ㊟806 八幡西区築地町1-1

電話 632-2611

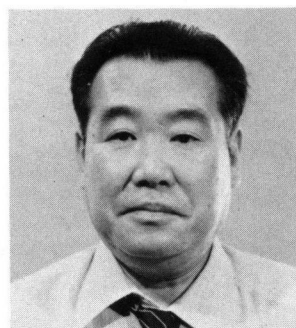
自宅住所 ㊟806 八幡西区沖田1-17-1

電話 612-4147

生年月日 大正14年8月1日

趣味 ゴルフ、碁

入会年月 S. 51. 7



氏名 ^ツ ^{ゴウ} ^{カズ} ^オ
都合 一雄

事業分類 不動産取引

事業所名 毎日不動産

役職 代表取締役

事業内容 不動産業

所在地 ㊟806 八幡西区黒崎3丁目12-26

電話 642-5666

自宅住所 ㊟807 遠賀郡水巻町伊佐座416-4

電話 201-6715

生年月日 昭和4年3月3日

趣味 読書

入会年月 S. 58. 11



氏名 ^ト ^キ ^{コウ} ^キ
土岐 弘毅

事業分類 シニア・アクティブ(家具配布)

事業所名 (株)原家具店

役職 専務取締役

事業内容 家具、インテリア用品(カーテン、カーペット)販売

所在地 ㊟806 八幡西区筒井町5-10

電話 621-6861

自宅住所 ㊟807 八幡西区大浦2丁目11-29

電話 602-4456

生年月日 昭和3年8月2日

趣味 ゴルフ

入会年月 S. 55. 4 (46. 12)



氏名 ^{ナカ} ^ノ ^{マサ} ^{トシ}
仲野 正敏

事業分類 旅行斡旋

事業所名 (株)日本交通公社黒崎支店

役職 支店長

事業内容 旅行業全般

所在地 ㊟806 八幡西区黒崎3丁目1-7

電話 642-2938

自宅住所 ㊟822 直方市大字上頓野2069-1

電話 09492-6-7791

生年月日 昭和13年12月15日

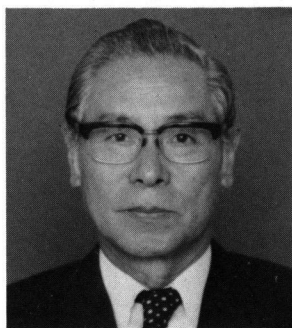
趣味 ゴルフ、読書

入会年月 S. 61. 4



氏名 ^{ナカ} ^{ムラ} ^{カズ} ^オ 中村 一生

事業分類 シニア・アクティブ(食料油販売) 自宅住所 ☎807 八幡西区本城丸10-28
 事業所名 中村油店 電 話 691-0654
 役 職 店主 生年月日 大正13年1月30日
 事業内容 植物性油脂卸販売 趣 味 旅行、魚釣り
 所在地 ☎806 八幡西区鷹の巣2丁目6-12 入会年月 S. 49. 7
 電 話 621-0858



氏名 ^{ナガ} ^タ ^{ホウ} ^{サク} 永田 豊作

事業分類 外 科 自宅住所 ☎806 八幡西区西王子町12-27
 事業所名 永田クリニック 電 話 621-1860
 役 職 院 長 生年月日 大正9年1月5日
 事業内容 外 科 一 般 趣 味 ゴルフ、写真
 所在地 ☎806 八幡西区西王子町12-27 入会年月 S. 50. 12
 電 話 631-0252



氏名 ^{ナガ} ^ノ ^{ヨシ} ^{ツネ} 永野 義恒

事業分類 老人ホーム 電 話 602-5011
 事業所名 社会福祉法人 北九州福祉会 自宅住所 ☎807 八幡西区則松104-4
 サングリーンホーム 電 話 601-5600
 役 職 理 事 長 生年月日 大正13年10月21日
 事業内容 趣 味 読 書
 所在地 ☎807 八幡西区則松103 入会年月 S. 58. 11



氏名 ^{ナベ} ^{シマ} ^{ヤス} ^オ 鍋島 康夫

事業分類 セメント加工 自宅住所 ☎811-34 宗像市日の里4丁目6-22
 事業所名 (株)ナベシマ 電 話 0940-36-4700
 役 職 代表取締役 生年月日 昭和6年6月12日
 事業内容 PCギ木製品製造 趣 味 読書、ゴルフ
 所在地 ☎807-11 八幡西区大字野面字渡牟田 入会年月 S. 51. 7
 電 話 617-3039



氏名 ^{ヌキ} 貫 ^{トヨ} 豊 ^{テル} 輝

事業分類 シニア・アクティブ(靴販売)

自宅住所 ㊟806 八幡西区岡田町6-6-401

事業所名 (株)十一番館

ロイヤルシャト-4F

役職 代表取締役

電話 641-1121

事業内容 ロマン十一番館

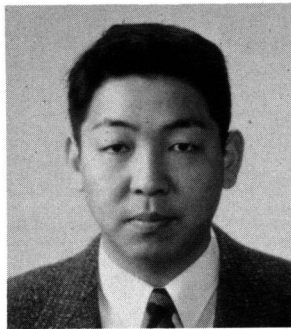
生年月日 昭和6年6月12日

所在地 ㊟806 八幡西区黒崎2丁目7番8号

趣味 ゴルフ

電話 641-9211

入会年月 S. 42. 9



氏名 ^{ハタノ} 波多野 ^{マサ} 正 ^{ノブ} 信

事業分類 神道

自宅住所 ㊟806 八幡西区山寺町12-30

事業所名 宗教法人 一宮神社

電話 641-2865

役職 祈宜

生年月日 昭和34年5月19日

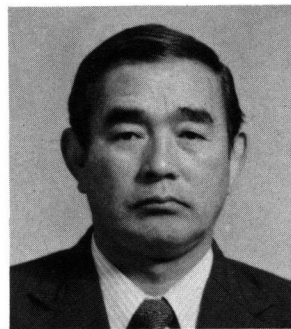
事業内容

趣味 スポーツ

所在地 ㊟806 八幡西区山寺町12-30

入会年月 S. 61. 11

電話 641-2865



氏名 ^ヒ 樋 ^{グチ} 口 ^{トシ} 寿 ^{ロウ} 郎

事業分類 水道設備工事

自宅住所 ㊟805 八幡東区大蔵3丁目3-16

事業所名 親和管工

電話 652-3774

役職 代表取締役

生年月日 昭和7年10月9日

事業内容 管工事全般

趣味 スポーツ、読書

所在地 ㊟806 八幡西区鷹の巣1丁目16-7

入会年月 S. 57. 4

電話 641-6161



氏名 ^{ヒシ} 菱 ^{オカ} 岡 ^{キヨシ} 紀代志

事業分類 消毒殺虫剤配布

自宅住所 ㊟806 八幡西区清納2丁目10-25

事業所名 帆柱白蟻工務店

電話 661-2265

役職 取締役社長

生年月日 昭和20年7月17日

事業内容 白蟻予防、駆除

趣味 スポーツ、絵画鑑賞

所在地 ㊟806 八幡西区清納2丁目10-25

入会年月 S. 55. 10

電話 661-2265



氏名 ^{フジ} ^セ ^{ショウ} ^{イチ}
藤瀬 昭一

事業分類 機械製作

事業所名 (株)夕原製作所

役職 代表取締役

事業内容 工作機械及び部品の製作及び
電子部品の製作

所在地 ㊟807 八幡西区夕原町4-4

電話 621-2145

自宅住所 ㊟804 戸畑区福柳木2丁目18-1

電話 883-2211

生年月日 昭和5年1月23日

趣味 釣り、飲み歩き、読書

入会年月 S. 61. 1



氏名 ^{フナ} ^キ ^{ヨシ} ^{ハル}
舟木 義治

事業分類 建築材料

事業所名 大同木材(株)

役職 代表取締役

事業内容 製材業、住宅建設業

所在地 ㊟803 小倉北区西港町地先72

電話 561-2931

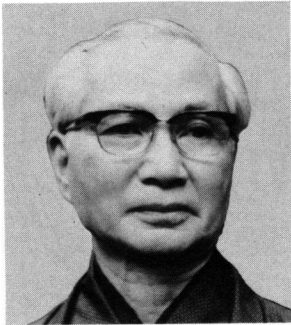
自宅住所 ㊟807 八幡西区折尾3丁目3番15号

電話 691-0002

生年月日 昭和14年2月7日

趣味 読書、音楽鑑賞

入会年月 S. 50. 1



氏名 ^{マス} ^ダ ^{タカシ}
増田 孝

事業分類 シニア・アクティブ(私立学校)

事業所名 折尾女子学園

役職 学長

事業内容 教育

所在地 ㊟807 八幡西区堀川町12-10

電話 602-2100

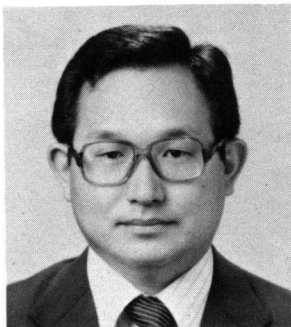
自宅住所 ㊟807 八幡西区堀川町12-10

電話 691-4614

生年月日 明治37年3月31日

趣味 読書

入会年月 S. 33. 3



氏名 ^{ミズ} ^{グチ} ^{テツ} ^{アキ}
水口 鉄昭

事業分類 呉服販売

事業所名 (名)水口呉服店

役職 専務取締役

事業内容 呉服小売業

所在地 ㊟806 八幡西区熊手1-2-36

電話 621-0582

自宅住所 ㊟806 八幡西区熊手1-2-34

電話 641-0052

生年月日 昭和23年6月20日

趣味

入会年月 S. 59. 7



氏名 ^{ムラ}村 ^{カミ}上 ^{トシ}俊 ^{アキ}明

事業分類 シニア・アクティブ(歯科医)

事業所名 村上歯科医院

役職 院長

事業内容 歯科一般

所在地 ㊟806 八幡西区黒崎1丁目3-4

電話 621-4618

自宅住所 ㊟806 八幡西区東鳴水5丁目2-51

電話 641-3398

生年月日 大正9年10月23日

趣味 尺八、ゴルフ

入会年月 S. 46. 9



氏名 ^{ムラ}村 ^タ田 ^{ミツル}充

事業分類 シニア・アクティブ(郵便事業)

事業所名 八幡穴生郵便局

役職 局長

事業内容 郵便、貯金、保険

所在地 ㊟806 八幡西区鷹の巣3丁目

1-1サンハイツ1F

電話 641-6609

自宅住所 ㊟806 八幡西区鷹の巣1丁目17-24

電話 631-3180

生年月日 昭和7年3月31日

趣味 魚釣り、登山

入会年月 S. 46. 7



氏名 ^{ムラ}村 ^{トミ}富 ^{ヨシ}芳 ^オ雄

事業分類 シニア・アクティブ(電気技術)

事業所名

役職

事業内容

所在地

電話

自宅住所 ㊟805 八幡西区幸神3丁目3-6

電話 621-1929

生年月日 明治30年1月1日

趣味 ゴルフ

入会年月 S. 43. 5



氏名 ^{モリ}森 ^{ナガ}永 ^{タダ}忠 ^{ヨシ}芳

事業分類 茶販売

事業所名 大黒屋茶舗

役職 社長

事業内容 茶、茶道具、結納

所在地 ㊟806 八幡西区黒崎5-3-19

電話 621-1224(代)

自宅住所 ㊟806 八幡西区黒崎5-3-19

電話 621-1224

生年月日 大正7年2月17日

趣味 ゴルフ、ドライブ

入会年月 S. 60. 1



氏名 ヤギシタ カズ ロウ
八木下 和 郎

事業分類 シニア・アクティブ(食肉加工)

事業所名 (株)八木下ハム製造所

役職 代表取締役

事業内容 ハム、ベーコン、ソーセージ
の製造と卸

所在地 〒806 八幡西区筒井町6-8

電話 631-0005

自宅住所 〒806 八幡西区筒井町7-26

電話 621-1155

生年月日 昭和2年1月7日

趣味 園芸、釣り、

入会年月 S. 47. 2



氏名 ヤス カワ ヒロシ
安 川 寛

事業分類 シニア・アクティブ(電動材製造)

事業所名 (株)安川電機製作所

役職 取締役会長

事業内容 電動機・制御器の製造販売

所在地 〒806 八幡西区藤田2346

電話 641-3111

自宅住所 〒804 戸畑区一枝1丁目4-23

電話 871-2001

生年月日 明治36年1月12日

趣味 スポーツ

入会年月 S. 31. 1



氏名 ヤマ サキ シン リョウ
山 崎 晋 良

事業分類 シニア・アクティブ(給食配布)

事業所名 製鉄給食(株)

役職 代表取締役

事業内容 工場給食、学校給食、病院患者給
食、療給食、喫茶、レストラン

所在地 〒805 八幡東区平野2-10-1

電話 671-5333

自宅住所 〒802 小倉北区片野新町1丁目6-23

電話 921-5533

生年月日 大正9年8月19日

趣味 音楽鑑賞

入会年月 S. 43. 1



氏名 ヤマ シタ ヒデ アキ
山 下 英 明

事業分類 商業銀行

事業所名 山口銀行 八幡支店

役職 支店長

事業内容 銀行業

所在地 〒806 八幡西区黒崎1丁目5-19

電話 621-3631

自宅住所 〒805 八幡東区前田2丁目15-7

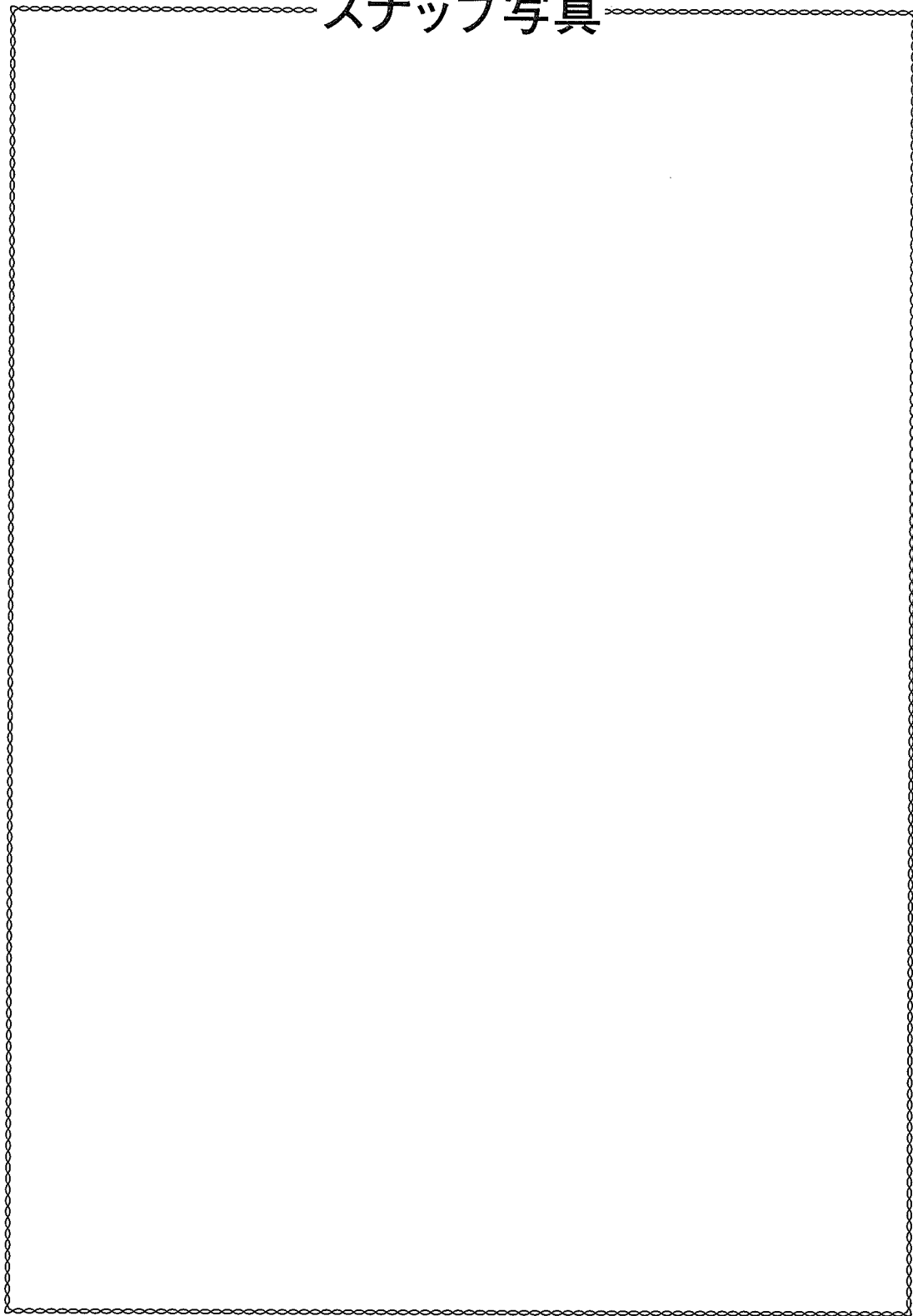
電話 671-3370

生年月日 昭和10年5月17日

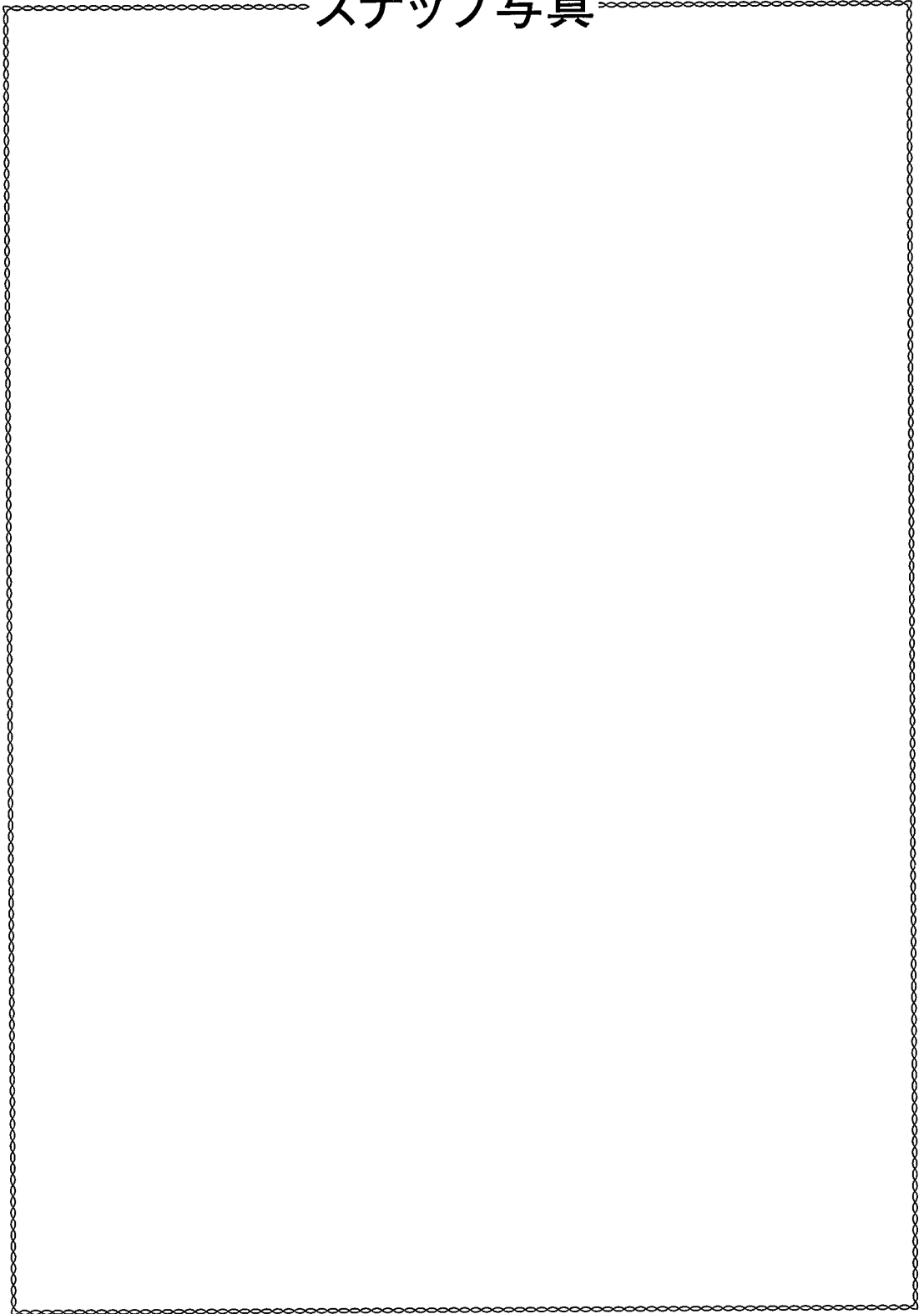
趣味 ゴルフ、旅行

入会年月 S. 61. 10

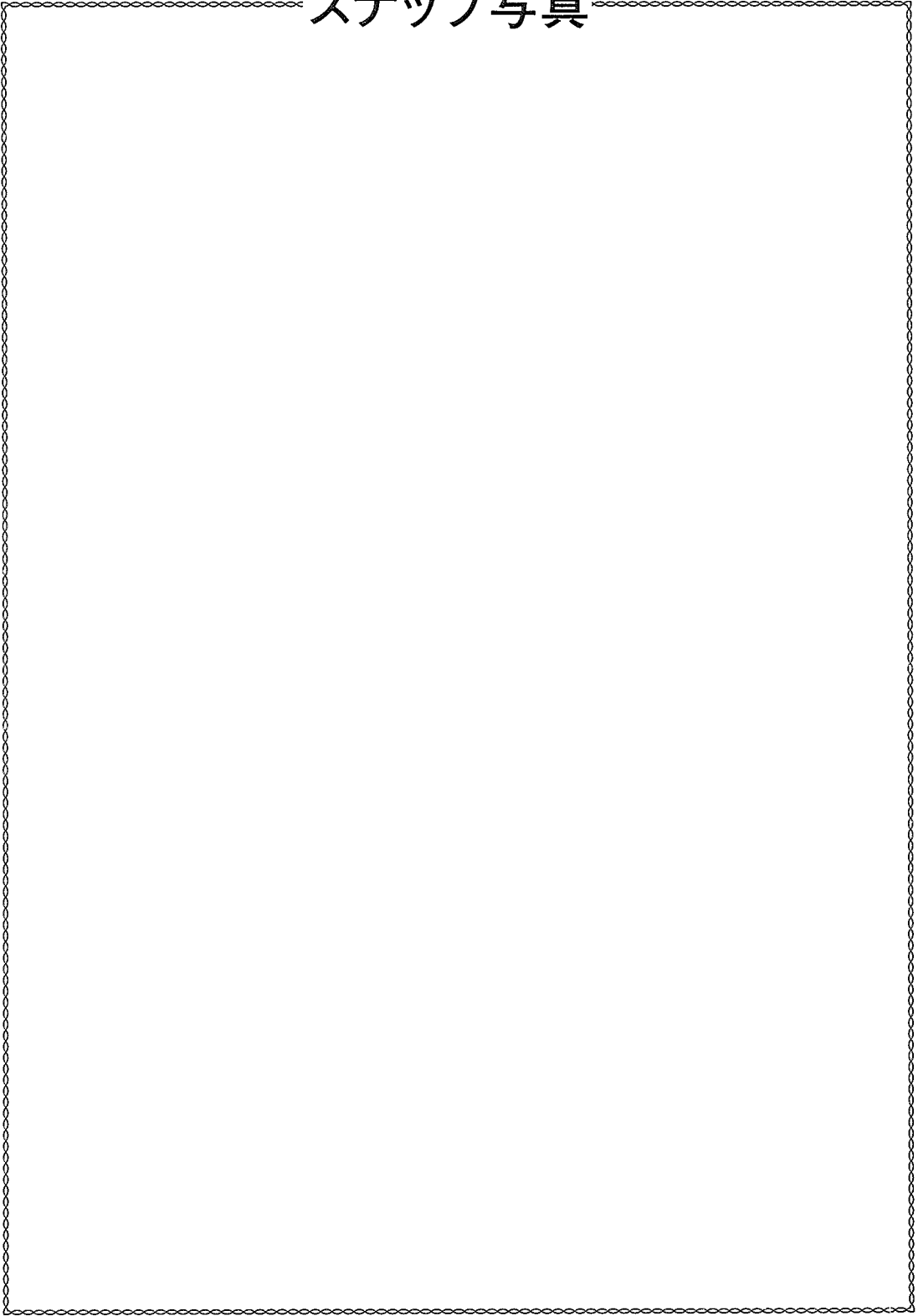
スナップ写真



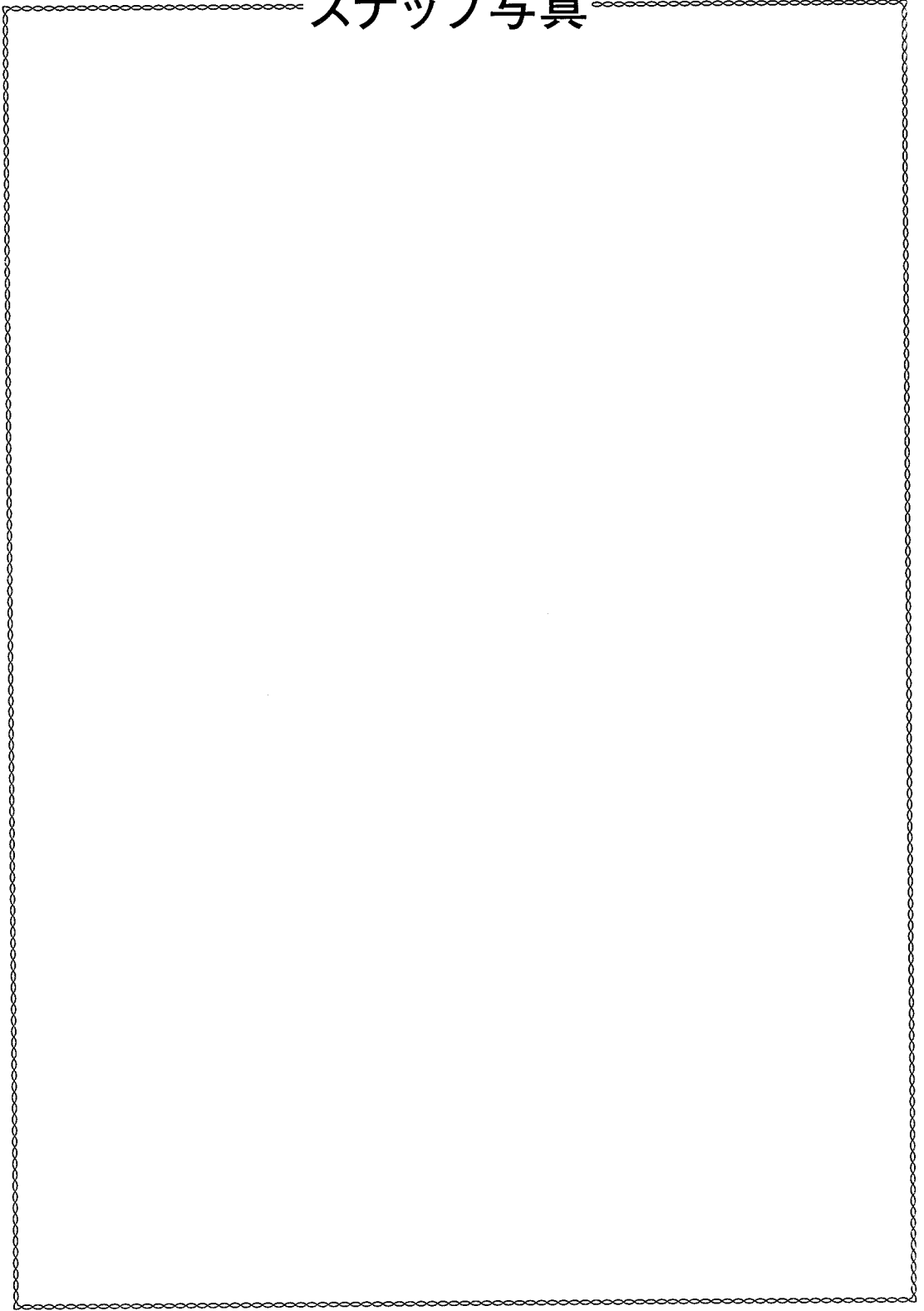
スナップ写真



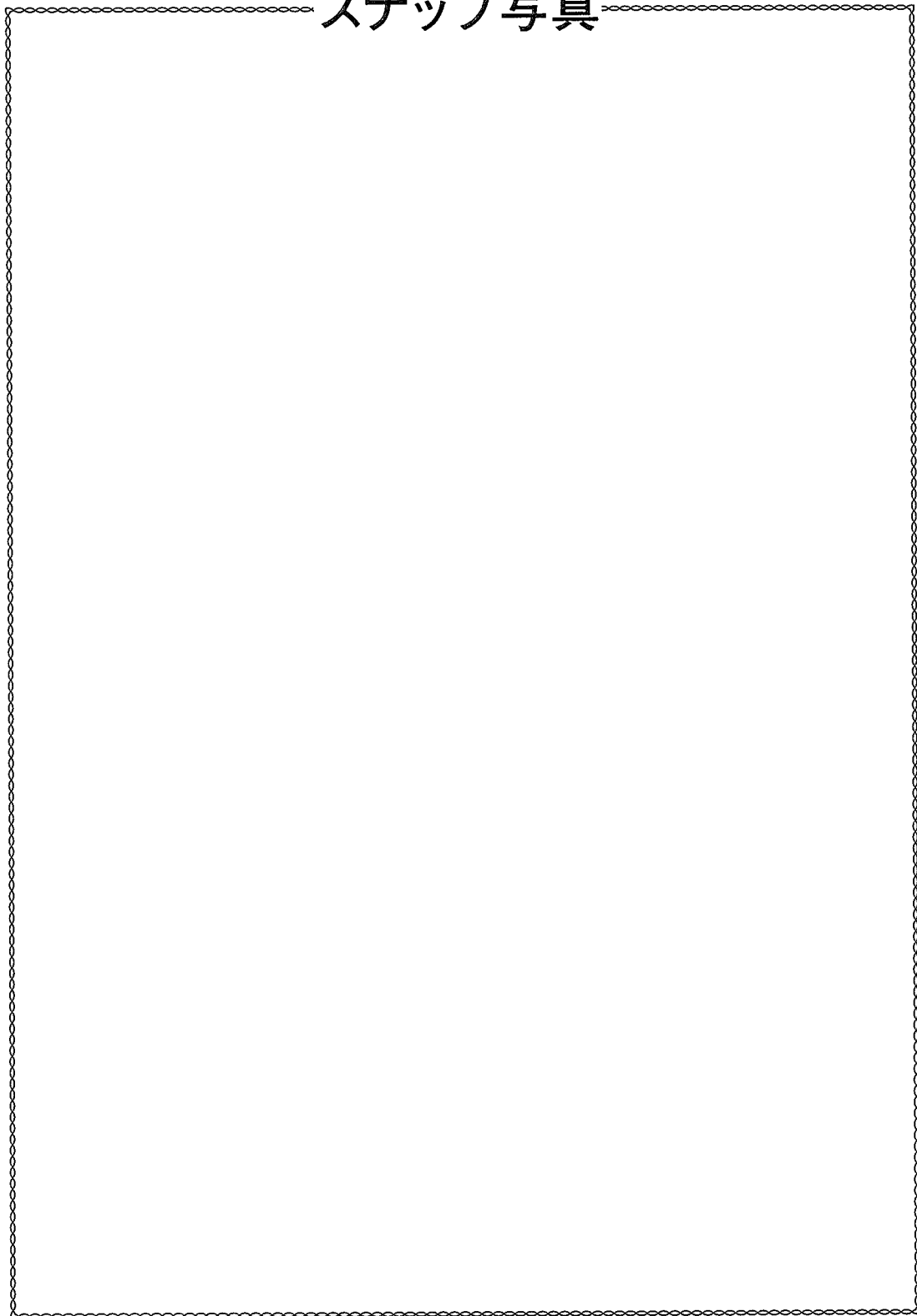
スナップ写真



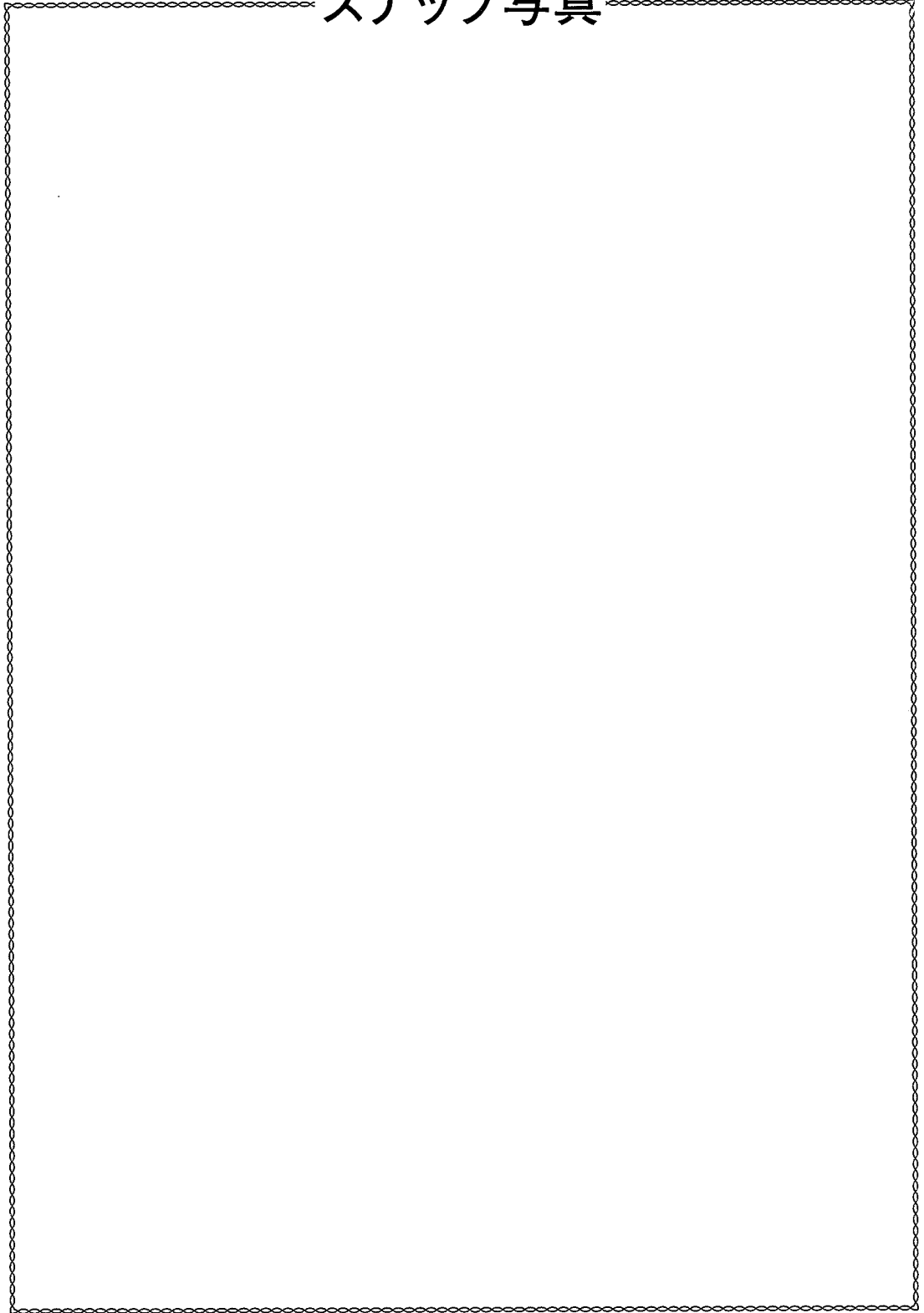
スナップ写真



スナップ写真



スナップ写真

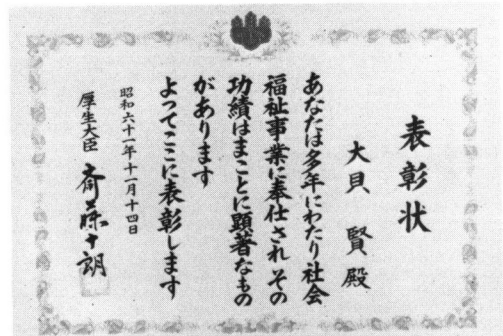
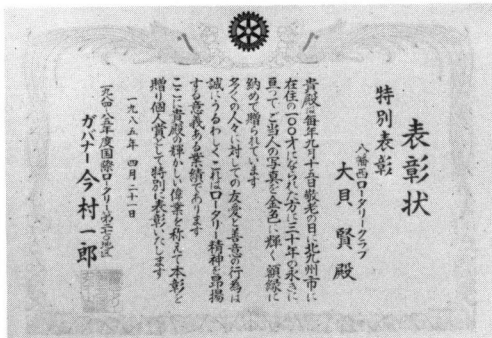


ポール・ハリス・フェロー

ポールハリスフェロー	岡崎春雄	(元会員)
ク	真鍋良金	(ク)
ク	榊原剛	会員
ク	阿部博明	ク
ク	橋本勝之	(元会員)
ク	石田良夫	会員
ク	高田寿美	ク
ク	山崎晋良	ク
ク	村上俊明	ク
ク	岩崎静馬	ク
ク	八木下和郎	ク
ク	岩野二郎	ク
ポールハリス準フェロー	安川寛	会員
ク	秋吉三郎	(元会員)
ク	吉田笹記	(ク)
ク	加瀬康作	会員
ク	貫豊輝	ク
ク	属将夫	(元会員)
メモリアル・コントリビューター	諸永光雄	(元会員)
ク	大庭九一郎	(ク)
ク	高島守義	(ク)
米山奨学金特別功労者	真鍋良金	(元会員)

表

彰



ポール・ハリス・フェロー



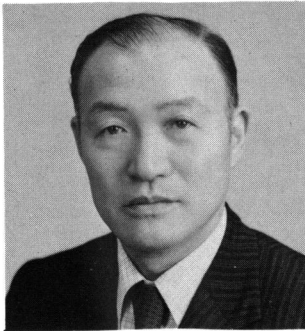
岡崎春雄



真鍋良金



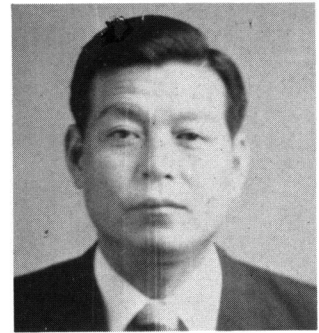
榊原剛



阿部博明



橋本勝之



石田良夫



高田寿美



山崎晋良



村上俊明



八木下和郎



岩野二郎



岩崎静馬

退 会 会 員

氏 名	退会年月日	氏 名	退会年月日
岩 田 正 昭	1970. 10. 23	三 宅 央 純	1975. 1. 5
岩 城 義 郎	10. 31	関 口 昇	2. 28
早 崎 喜一郎	10. 31	田 代 芳 鉄	6. 27
長 野 義 夫	1971. 1. 8	塚 本 俊 明	7. 4
石 松 勇	1. 8	岡 崎 春 雄	11. 14
江 連 光	1. 22	野 口 訓 孝	12. 31
高 橋 健二郎	1. 22	山 口 勇	12. 31
梶 井 有 来	2. 28	高 山 直 忠	1976. 2. 20
徳 田 三 郎	2. 28	土 岐 弘 毅	3. 19
八木下 俊 三	11. 30	森 本 純 司	3. 26
樺 山 時 義	1972. 1. 31	加 藤 実	4. 16
長 沢 正 二	4. 1	甲 斐 英 憲	6. 1
井 上 博 厚	4. 20	田 中 義 文	6. 1
安 部 六 郎	4. 28	中 野 良 馨	8. 6
早 間 一 雄	6. 30	塚 原 俊 雄	10. 15
谷 水 直 行	7. 14	内 田 八 郎	12. 30
山 口 憲 信	7. 28	藤 村 光 俊	1977. 1. 7
三 原 博	11. 17	波多野 直 人	〃
宇 原 征	12. 1	原 田 利 美	〃
金 染 博	1973. 3. 30	桑 原 孝	〃
金 子 義 数	6. 8	片 村 英 輔	〃
田 中 義 道	6. 8	片 岸 修 次	〃
片 岸 修 二	6. 22	黒 木 公 男	〃
岡 本 辰 美	6. 30	小 島 卓	〃
末 松 俊 夫	12. 28	貞 末 雄七郎	〃
福 田 直 昌	12. 28	菅 原 了	〃
隈 井 寛	1974. 2. 1	高 島 守 義	〃
新 城 博	5. 10	和 田 正 吉	〃
森 重 威	6. 14	善 明 靖 雄	〃
原 田 幸 紀	7. 5	中 村 武 文	〃
古 藤 忠 義	10. 4	小 野 晃	〃
森 茂 敏	1975. 1. 5	原 田 正 義	〃

(八幡南クラブへ移籍)

氏 名	退会年月日	氏 名	退会年月日
西 村 秀 夫	1977. 2. 1	宮 本 邦 夫	1983. 7. 1
徳 井 義 弘	3. 1	川 本 壯 平	11. 4
末 益 友之助	5. 1	米 倉 功	12. 31
柴 田 健 一	6. 30	小 川 清 澄	12. 31
下 田 清 司	6. 30	木 村 吉 秀	1984. 3. 2
三 好 秀 夫	12. 31	後 藤 宏 男	4. 6
引 地 伸 尚	12. 31	川 添 暎 夫	4. 30
望 月 康一郎	12. 31	高 尾 庄 作	5. 31
吉 田 笹 記	12. 31	城 健 二	6. 30
安 藤 道 男	1978. 2. 17	梶 原 敬 史	6. 30
糸 田 貞 男	3. 17	能 美 博 明	6. 30
桂 正	6. 9	貫 増 雄	6. 30
花 田 紘 一	1979. 2. 28	加 瀬 康 一	6. 30
松 本 健 祐	3. 30	西 本 昭 二	12. 28
秋 吉 三 郎	6. 30	米 田 稔	12. 28
大 石 武 二	10. 1	中 俣 博	3. 22
阿 部 明 男	11. 30	久 部 貞 男	3. 22
田 中 善 一	12. 30	大久保 和 夫	5. 23
津 上 清 七	12. 30	吉 川 裕 徳	5. 23
大 前 進	1980. 3. 14	安 武 真 哉	6. 28
中 塚 英 男	6. 30	西 原 豊	6. 28
太 田 文三郎	6. 30	小 山 茂	12. 31
原 和 彦	1981. 2. 28	大 府 国 弘	12. 31
守 田 大 一 郎	2. 28	岩 崎 静 馬	1986. 6. 13
吉 永 斉	2. 28	山 中 秀 夫	6. 30
稲 井 恒 彦	4. 17	行 時 博 愛	8. 31
三 木 敬 一 郎	6. 30	光 永 太 一	7. 15
矢 野 的 男	6. 30	野 末 治 美	10. 3
古 賀 克 己	8. 27	長谷川 矩 誼	12. 31
桜 井 正 一	1982. 2. 30	服 部 勝 彦	1987. 3. 6
中 島 智 満 喜	3. 19	藤 永 隆	3. 31
平 川 文 朗	6. 30		
貞 末 吉 助	11. 5		

物 故 会 員

御冥福をお祈り申し上げます。



桑原英雄君
昭和49年11月27日ご逝去



属将夫君
昭和55年6月30日ご逝去



舟木軍一君
昭和51年6月1日ご逝去



亀石敏夫君
昭和58年4月1日ご逝去



宮原林君
昭和55年2月17日ご逝去



諸永光雄君
昭和60年3月4日ご逝去



真鍋良金君
昭和55年5月1日ご逝去



橋本勝之君
昭和60年9月12日ご逝去



吉田邦一君
昭和55年5月9日ご逝去



大庭九一郎君
昭和61年3月22日ご逝去

編 集 後 記

昭和60年7月12日に20周年記念事業準備委員会発足、爾後、計画の大綱が決まり、昭和61年6月2日、同記念事業委員会の初会合の節、記念誌委員会の委員として加瀬(作)、増田、奥村、田代、佐藤、岡本の各会員が選出され、小生(岡本)が纏め役に任命されました。

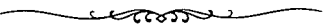
当初の目的は、20年間の記録を一応まとめること、記念誌を記念式典当日(昭和62年4月24日)に間に合わせることでありました。9ヶ月間にわたり、努力しましたが、能力不足と写真をはじめとして記録資料の収集が思うようにゆかず、御覧の様に不本意な記念誌になりお詫び申し上げます。また、多くの方がたの御援助を深く感謝する次第ではありますが、今後のことも考えて、各年度毎に資料類を整理保管する担当者を決める必要があるかと思考します。

最後に、八幡西ロータリークラブの全員に御協力のお礼申し上げます。

昭和62年4月20日

20周年記念誌
編集委員長

岡 本 辰 美



創 立 2 0 年 史

発行日 昭和62年 4 月20日

発行所 八幡西ロータリークラブ
北九州市八幡東区西本町1-1-1
(千草ホテル内)
TEL 093-681-0694

印 刷 双羽印刷株式会社
北九州市八幡西区大字浅川942-113
TEL 093-603-5431

